
3

安曇野市の
絶滅のおそれのある野生生物



3.1 レッドリスト種とは

レッドリスト種は、安曇野市に生息・生育している野生生物のうち、なんらかの要因で個体数や分布域が減少し、絶滅のおそれが高まっている種です。

レッドリスト種に選定された種は、このままの状態が続くと将来的には個体数や分布域が更に減少するだけでなく、安曇野市から絶滅してしまう可能性があります。それは、安曇野市の自然環境が悪化していくことを意味します。

これらのレッドリスト種の減少を防ぐことは、安曇野市の自然環境を守っていくことにつながります。

【レッドリスト種の選定基準】

2014年版のレッドリストでは、定性的要件での評価を基本とし、各種調査記録や委員・協力者の長年の調査データから掲載種が選定されました。本改訂において掲載種の再評価及び新規追加の検討を行うにあたっては、現状では定量的な評価が可能な種が少ないことから、定性的要件での評価を踏襲しました。ただし、植物については、標本資料が一定数集積されたことから、可能な限り定量的な評価を行いました。

また、安曇野市で記録がある種のうち、環境省や長野県のレッドリストに該当する種は、巻末に一覧を掲載しました。

選定時の観点

-
- 絶滅が危惧される程度(カテゴリー)は、表3-1に示す区分を用いました。このカテゴリーは、環境省の第4次レッドリストと長野県のレッドリスト(植物編2014年、動物編2015年)に準拠しました。
 - 選定の対象は、原則として安曇野市内において文献や現地調査などで確認記録のある野生生物としました。ただし、選定作業にあたっては、安曇野市だけでなく周辺地域や県内及び国内の生息状況や記録も考慮しました。
 - 鳥類では、シギ類など、移動の際に安曇野市を中継地として利用する鳥は除きました。
 - 前回のレッドリストに選定されている種であっても、記録が古い文献情報のみである等、市内での記録に確実性のない種は、評価対象から除外しました。
 - 評価は2023年時点での情報を基に行いました。
-

表 3-1 安曇野市版レッドリストのカテゴリー評価基準

カテゴリー	評価基準
絶滅 EX (Extinct) 安曇野市内において既に絶滅したと考えられる種	過去に安曇野市に生息・生育したことが確認されており、国内での生息・生育状況のいかんを問わず、市内においては飼育・栽培下を含め、既に絶滅したと考えられる種。
野生絶滅 EW (Extinct in the Wild) 安曇野市内において飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に安曇野市に生息・生育したことが確認されており、国内での生息・生育状況のいかんを問わず、市内において飼育・栽培下では存続しているが、野生では既に絶滅したと考えられる種。 【確実な情報があるもの】 ① 信頼できる調査や記録により、既に野生で絶滅したことが確認されている。 ② 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。 【情報が少ないもの】 ③ 過去約50年間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。
絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN (Critically Endangered and Endangered) 安曇野市内において絶滅の危機に瀕している種	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 ① 既知の全ての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ② 既知の全ての生息・生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知の全ての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報が少ないもの】 ⑤ それほど遠くない過去(30～50年)の生息・生育記録がないものの、その間信頼すべき調査が行われておらず、現在も生息している可能性のある種。
絶滅危惧Ⅱ類 VU (Vulnerable) 安曇野市内において絶滅の危険が増大している種	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 ① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ② 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
準絶滅危惧 NT (Near Threatened) 安曇野市内において存続基盤が脆弱な種	生息・生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断される種。具体的には、分布域の一部において次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがある種。 ① 個体数が減少している。 ② 生息・生育条件が悪化している。 ③ 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④ 交雑可能な別種が侵入している。
情報不足 DD (Data Deficient) 安曇野市内において評価するだけの情報が不足している種	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行しうる次のいずれかの要素を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ① どの生息・生育地においても生息密度が低く希少である。 ② 生息・生育地が局限されている。 ③ 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 ④ 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

①植物の選定基準

植物については、レッドリスト見直しにあたり、可能な限り定量的な評価を行うこととし、その評価基準を設けました。

評価基準は、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県内分布の5項目をそれぞれ表3-2に示す基準により4段階で評価し、更に地域固有性や外来種による悪影響のリスクに関する補正を加えて、その合計点をもとに判定しました(表3-2、表3-3)。なお、本評価基準は「名古屋市版レッドリスト2020」の維管束植物で用いられた内容を参考に設定しました。

表 3-2 安曇野市版レッドリストで用いる評価基準 (植物)

評価点	4	3	2	1
個体数	1～2	10 未満	100 未満	100 以上
集団数*1 (標本メッシュ数)	1	2～3	4～6	7 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・低層湿原(自然湿地) ・ため池 ・二次草原(里草地、堤防の草地) ・管理履歴の長い農耕地(湿田)	やや減少 ・湧水地および周辺の水路 ・河川氾濫原 ・やせ山、岩場 ・亜高山帯～高山帯	増減なし ・中間的環境	増減なし ・かく乱地 ・過栄養水域など
人為的圧力等の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採集圧がある ・開発圧も採集圧もあり、少なくともどちらかが強い ・ニホンジカによる食圧が極めて強い	強い ・強い開発圧または採集圧がある ・開発圧も採集圧もある ・ニホンジカによる食圧が強い	あり ・開発圧(採取を含む)または採集圧(可能性を含む)がある ・ニホンジカによる食圧がある	なし
県内分布*2 (標本メッシュ数)	安曇野市以外の確認区画0～2	3～9	10～29	30 以上
補正項目	・固有種、著しい隔離分布 +2 ・全国的に少なく、長野県が分布の限界、準固有種 +1 ・同種や近縁の外来種の置き換わりや交雑による減少 +1			

*1) 現時点における標本点数・分布から勘案した。安曇野市のメッシュの大きさは1km²。

*2) 長野県植物誌における標本点数・分布から勘案した。長野県植物誌のメッシュの大きさはおよそ東西5km×南北4.6kmで、全574メッシュ。

表 3-3 植物におけるカテゴリーの基準

カテゴリー	安曇野市の基準（評価点）
EX	安曇野市内において、本来の生育地では既に絶滅したと考えられる種
CR+EN	表3-2の評価点の合計が14以上
VU	表3-2の評価点の合計が12～13
NT	表3-2の評価点の合計が11
DD	評価するだけの情報が不足している種（今後、生育条件の変化に伴い個体数の減少が懸念されるため留意を要する種を含む）

②動物の選定基準

動物については、レッドリスト見直しにあたり定性的な評価を行うこととしました。2014年以降の文献や現地調査の結果に加え、委員及び協力者の観察経験等をもとに、個体数、個体数の増減、生息地の数、生息環境の減少傾向、近隣地域での確認状況を考慮して評価しました。

③分類や和名について

本書に用いる分類や和名については、原則として以下の文献に準拠しました。

植物：「長野県植物目録」（長野県植物研究会, 2017）

哺乳類：「世界哺乳類標準和名目録」（日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会, 2018）

鳥類：「日本鳥類目録改訂第7版」（日本鳥学会, 2012）

爬虫類：「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会, 2023）

両生類：「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会, 2023）

魚類：「日本産魚類全種目録」（本村浩之, 2020）

昆虫類：「日本昆虫目録第1巻～第9巻」（日本昆虫目録編集委員会, 2016～2022）

「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（国土交通省, 2023）

その他無脊椎動物（※貝類）：「長野県陸産・淡水産貝類誌」（飯島國昭, 2018）

国内に複数の亜種が存在する昆虫類について、市内に一つの亜種しか生息していない場合は、和名から亜種名を省略して掲載しました。アサマシジミのように、市内に複数の亜種が生息する種については、種和名の後ろに亜種名を記載しました。また、一つの亜種しか生息していない種でも、亜種に固有の和名がある場合（シナノエゾハイイロハナカミキリなど）は、その名称を使用しました。

また、上記の分類に従うことで、2014年版から和名に変更が生じた種は、2014年版での和名を併記しました。

④記録の根拠となる参考文献

参考文献の一覧は資料編に示しました。リストには2014年以降の記録の文献No.を掲載しました。2014年以前の記録については、『安曇野市版レッドデータブック2014』を併せて参照ください。

3.2 レッドリスト種

(1) レッドリストの選定状況

安曇野市に生息・生育している野生生物のうち、個体数や分布域が減少している種(レッドリスト種)として、植物320種、動物397種の計717種を選定しました。

選定した安曇野市版レッドリスト2024を次ページ以降に示します。リストには、絶滅のおそれが高くなった、もしくは絶滅した理由として考えられる要因(以下、「減少要因」とする。)を併せて示しました。

表 3-4 安曇野市版レッドリストの選定状況

分類群		カテゴリー												合計	
		絶滅 EX		野生絶滅 EW		絶滅危 惧Ⅰ類 CR+EN		絶滅危惧 Ⅱ類 VU		準絶滅 危惧 NT		情報不足 DD			
		2014	2024	2014	2024	2014	2024	2014	2024	2014	2024	2014	2024		
植物		32	11	0	0	95	94	92	83	104	69	19	63	342	320
動物		8	17	3	3	42	53	72	83	178	182	29	59	332	397
	哺乳類	1	1	0	0	0	3	2	2	8	10	3	3	14	19
	鳥類	0	0	0	0	9	14	5	5	10	8	9	8	33	35
	爬虫類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	3
	両生類	0	0	0	0	0	0	1	2	5	4	0	1	6	7
	魚類	0	0	3	3	1	1	2	2	4	5	1	1	11	12
	昆虫類	7	16	0	0	31	32	61	71	140	144	13	41	252	304
	その他無脊椎動物	0	0	0	0	1	3	1	1	11	11	1	2	14	17
合計		40	28	3	3	137	147	164	166	282	251	48	122	674	717

【安曇野市版レッドリストにおける絶滅のおそれが高まった要因(減少要因)】

第1の危機(人間活動や開発による危機)

1.森林伐採、2.河川開発、3.池沼開発、4.湿地・湧水地開発、5.土地開発、
6.土地改良(圃場整備など、農地の整備を含む)、7.道路工事、8.ダム建設、9.園芸採取、
10.乱獲・密猟・不法採取、11.踏みつけ

第2の危機(人間活動の縮小による危機)

12.農業・森林管理停止、13.動物食害

第3の危機(人間により持ち込まれたものによる危機)

14.水質や土壌の汚濁・汚染(農薬等の過剰利用も含む)、15.外来生物、16.遺伝子交雑

その他の要因等

17.気候変化、18.産地局限、19.その他、20.不明

(2) 安曇野市版レッドリスト 2024

1 植物

・カテゴリーの変動
 ↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加
 ↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

■絶滅 (EX)

・2014年以降の記録
 ●：あり ○：あり

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
サトイモ	ヒンジモ		VU	CR	2,3,4,14				86	
ラン	アリドオシラン			NT	12				87	
イネ	セトガヤ			EN	5,6,7				85	
キンポウゲ	ノカラマツ		VU	VU	5,9,12				77	
アリノトウグサ	フサモ			NT	2,5,6				81	
アブラナ	ハナハタザオ		CR	EX	5,12				79	
サクラソウ	ユキワリソウ			EN	1,5,12,18				82	
リンドウ	イヌセンブリ		VU	EX	5,6,12				83	
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ			EN	4,5,6,12,14				84	
セリ	イブキボウフウ				5,12				82	
	イブキゼリ				1,12,18				82	

■絶滅危惧I類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ヒカゲノカズラ	ミズスギ			CR	18				87	
サンショウモ	オオアカウキクサ	↑	EN	EN	2,4,6,14	●		○	122	
ヒメシダ	ヒメワラビ				1,12,18				88	
ウラボシ	オオクボシダ			NT	1,12,18				88	
サトイモ	イナヒロハテンナンショウ		CR	CR	1,12,18				112	
	カミコウチテンナンショウ	○	VU	EN	9,10,18	●	190			81
オモダカ	アズミノヘラオモダカ		EN	CR	6,14,18	●	169	○	107	
トチカガミ	トチカガミ		NT	EX	6,14,18				108	
	セキショウモ			EN	2,4,14				108	
ヒルムシロ	イトモ	↑	NT	VU	2,12,14,15				147	
	フトヒルムシロ				2,3,6,12	●	164,169		109	
	ホソバミズヒキモ	↑		NT	2,14				171	
ユリ	ササユリ			NT	1,5,9,12,18	●	170		109	

■ 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ラン	アケボノシュスラン			NT	1,5,12	●		○	117	
	ヒメミヤマウズラ			NT	1,5,9,12				118	
	ホザキイチヨウラン			NT	1,5,9,12				118	
	コケイラン			NT	1,5,9,12	●	157	○	118	
	ヤマサギソウ	○			5,12	●		○		81
	タカネサギソウ			VU	7,11	●			119	
	ノヤマトンボ (2014版: オオバノトンボソウ)	↓		NT	1,4,5,12	●		○	87	
	ヤマトキソウ	○		EN	9,19	●		○		81
アヤメ	ノハナショウブ	↑			1,5,9,12	●			174	
ススキノキ	ユウスゲ	○		NT	5,6,12,13	●	170,177	○		82
ホシクサ	イトイヌノヒゲ				5,12,18				110	
	シロイヌノヒゲ				5,12				110	
カヤツリグサ	オニスゲ				1,4,12,18	●		○	113	
	アゼナルコ			EN	4,5,11	●		○	114	
	ヤチカワズスゲ				1,4,12	●			114	
	アブラシバ				1,12				115	
	ヌマガヤツリ	↑		EN	2,4,6	●	157,159	○	181	
	ヌマハリイ				2,3,4,14				116	
	ヒンジガヤツリ	↓			5,6,14	●		○	86	
	イトイヌノハナヒゲ				4,5,12				116	
	コイヌノハナヒゲ				4,5,12				117	
	エゾアブラガヤ	○			3,4	●		○		82
イネ	ヒロハノコヌカグサ			EN	1,13				111	
	オガルカヤ	↑			1,5,12				175	
	スズメガヤ	○			2,4,11	●	159	○		82
	ミサヤマチャヒキ				5,12,18	●		○	111	
	エゾノサヤヌカグサ	↓			4,5,6	●		○	85	
	オオヒゲナガカリヤス モドキ				4,12,18				111	
	ヒエガエリ	○		EN	2,5,12	●		○		83
	ウシクサ			EN	4,5,6,12				112	
	メガルカヤ	○			5,12	●		○		83

■ 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
キンボウゲ	アズミトリカブト			CR	5,12,18				90	
	シロウマレイジンソウ				5,12,18				91	
	フクジュソウ			NT	9,11,12,18	●		○	91	
	セツブンソウ		NT	VU	1,9,10,12,18	●		○	92	
	オキナグサ		VU	EN	9,12	●	170,177		92	
	キンバイソウ			NT	12,18				92	
ボタン	ヤマシャクヤク		NT	VU	1,9,10,11,18	●		○	93	
マンサク	マルバノキ				1,9,18	●			94	
スグリ	エゾスグリ			CR	1,2,7,18				95	
ユキノシタ	シコタンソウ				7,11,18				95	
アリノトウグサ	アリノトウグサ				1,12,18	●	157,169		99	
	ホザキノフサモ	↑			2,14	●		○	162	
マメ	モメンヅル	↑		NT	1,5,12	●			129	
	イワオウギ				11,18				96	
	マキエハギ				5	●	164,169	○	97	
	ミヤコグサ	↑			2,5,15	●		○	159	
バラ	イワキンバイ				1,18				96	
クロウメモドキ	クロカンバ				1,12				98	
イラクサ	ヤマトキホコリ				1,2,12,18				89	
ヤナギ	エゾヤナギ			EN	2,8,18	●		○	89	
ミソハギ	ヒメミソハギ			DD	6,12,14,15	●		○	99	
	ミズキカシグサ		VU	DD	6,12,14				99	
タデ	ギンギン	○			4,15,16	●	159	○		83
	ノダイオウ	↑	VU	N	2,4	●	159	○	123	
モウセンゴケ	モウセンゴケ	↓			5,12	●			78	
ツツジ	ジムカデ				11	●			101	
アカネ	オオアカネ				6,12	●		○	101	
オオバコ	アワゴケ	○			5,12					84
	サワトウガラシ	○		NT	6,12	●	169	○		84
	ヒヨクソウ	↑		NT	1,5	●		○	168	
	イヌノフグリ		VU	VU	6,12,14,15				104	
	カワヂシャ		NT	NT	2,4,15,18	●	170,171	○	104	
ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ			NT	1,12				103	

■ 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
アゼナ	アゼナ	○			6,12	●		○		84
シソ	ムシャリンドウ		VU	VU	5,9,10,13	●		○	102	
ハマウツボ	オカウツボ				2,18				104	
タヌキモ	ミミカキグサ			VU	1,4,5				105	
キツネノマゴ	ハグロソウ	↑		VU	1,5,12	●		○	141	
モチノキ	フウリンウメモドキ				1,12				98	
キキョウ	フクシマシャジン	↑			1,5,10	●	177		143	
	ミゾカクシ				6,14	●		○	105	
	キキョウ	↑	VU	NT	5,9,12	●	177	○	143	
キク	ヒメヨモギ(在来)	○			5,12,15,16	●		○		85
	ヤチアザミ	○			6,12	●		○		85
	ヤナギタンポポ	↑			12	●		○	170	
	カセンソウ				2,4,6	●	173	○	106	
	タカサゴソウ		VU	VU	5,12	●		○	106	
	キクアザミ	↓			5,12	●		○	85	
スイカズラ	マツムシソウ	↑			5,9	●		○	142	
セリ	ムカゴニンジン	↑			4,5,12,18	●		○	136	

■ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ヒカゲノカズラ	ヒメスギラン				1,5,12				119	
ハナヤスリ	ヤマハナワラビ				1,5,12				120	
トクサ	イヌスギナ			NT	5,11	●		○	119	
コバノイシカグマ	フジシダ				1,2,5,12	●			120	
イワデンダ	ウスヒメワラビモドキ	○			1,5,7,8	●	157	○		85
	オオヒメワラビ				1,2,7,12				121	
ウラボシ	カラクサシダ				1,5,12				121	
	エゾデンダ				1,5,12	●			121	
	ビロードシダ				1,5,12				122	
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ			VU	2,4,5,7,8,15	●	184		125	
サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	○		NT	1	●	157	○		86
	ザゼンソウ	↓			1,4,12,18	●	157	○	113	

■ 絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
オモダカ	ウリカワ			VU	6,12,14				146	
ヒルムシロ	ヒルムシロ				2,6,12,14,15				147	
	ヤナギモ	↑		VU	2,14	●		○	172	
ラン	イチヨウラン	↑		NT	1,5,12	●			183	
	カモメラン		NT	EN	9				149	
イグサ	ヒロハノコウガイゼキ ショウ				2,12	●		○	148	
カヤツリグサ	ヒナガヤツリ	↓			6,12,14	●		○	115	
	シズイ			VU	4				149	
イネ	スズメノテッポウ(水 田型)	○			6,12	●	159	○		86
	コウボウ	○			6,12	●		○		86
	カズノコグサ				2,4,6,12,14	●		○	148	
	スズメノカタビラ	○			6,12,15,16	●	159,177,178, 189	○		87
	カニツリグサ(在来)	○			5,12,15,16	●	157,159,177, 178,179,183	○		87
ヤマグルマ	ヤマグルマ				1,10,12	●			124	
スグリ	ザリコミ				1,5	●	177		127	
ユキノシタ	ハナネコノメ			VU	1,2,5	●	157	○	127	
	ボタンネコノメソウ	↓		NT	1,9	●		○	94	
ベンケイソウ	ツメレンゲ		NT	NT	2,8,15	●	170,179,184	○	126	
マメ	クサネム				2,4,6,12	●	159	○	128	
	ホドイモ				1,5,12	●	157	○	129	
	カワラケツメイ	○			2,5,12	●		○		87
	イヌハギ	↑	VU	N	2				158	
	オヤマノエンドウ				11	●			130	
	ツルフジバカマ	○			5,6,7,12	●	177	○		88
	ヨツバハギ	○			5,6,7,12	●	177	○		88
	ヤブツルアズキ				5,12	●		○	130	
カバノキ	チョウセンミネバリ	○			1,7,8	●	157	○		88
ドクウツギ	ドクウツギ				2,4,15	●		○	131	
ウリ	ゴキヅル				2,4,14	●	159	○	135	
カタバミ	オオヤマカタバミ		VU	NT	1,12	●		○	130	
トウダイグサ	ニシキソウ			VU	5,7,14,15				131	

■ 絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ヤナギ	オオタチヤナギ	↓			2	●	157,173	○	77	
スマレ	サクラスマレ				1,5,12				133	
	コスミレ				1,5,12				134	
	マルバスマレ				1,5,12				134	
	アケボノスマレ				1,5,12	●		○	135	
	マキノスマレ			NT	1,5,12	●	157	○	134	
オトギリソウ	ミズオトギリ	↑			4,5	●		○	156	
アカバナ	ウスゲヤナギラン	○			13	●		○		89
	ヒメアカバナ				1,2,4,5	●		○	135	
	オオアカバナ	○	VU	CR	4	●		○		89
ムクロジ	メグスリノキ				1,5,10,12	●	178		132	
アオイ	カラスノゴマ	↑		NT	5,7	●		○	161	
アブラナ	エゾハタザオ				1,5,6				125	
	キバナハタザオ	↑			5	●	177		157	
ナデシコ	ノミノツヅリ (狭義)	○			6,12,15,16	●	157,159,178	○		89
	シナノナデシコ				1,7,12,15	●	177		123	
アカネ	ヒメヨツバムグラ				1,5,9,12	●		○	137	
リンドウ	ハナイカリ	↑			5,12	●		○	165	
	アケボノソウ				1,4,5,9,12	●	179		136	
	センブリ			NT	1,5,10,12	●	170,177		137	
キョウチクトウ	スズサイコ	↑	NT	NT	6,12,14	●	177,184	○	165	
アゼナ	アゼトウガラシ			NT	6,12,14	●		○	141	
シソ	メハジキ			NT	2,4,5	●		○	137	
	キセワタ		VU	N	2,5,12				138	
	シロネ				2,3,4,5	●	177		138	
	ヒメシロネ				2,3,4,5	●		○	139	
	エゾシロネ				2,3,4,5	●		○	139	
	キバナアキギリ				1,5,12				140	
	ニガクサ				6,12,14	●	159	○	140	
ハマウツボ	ケヤマウツボ	○		EN	1,7	●	178	○		90
	ヒキヨモギ			NT	2,5	●	173	○	141	
キキョウ	サワギキョウ	↑			1,5,12	●		○	169	
キク	ムカシヨモギ				1,2,5				143	

■ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
キク	サワヒヨドリ				2,4,6	●		○	144	
	カワラニガナ		NT	VU	2,8,18	●	159,170,173, 178,184	○	144	
	シラネアザミ				1,5,12				144	
	タムラソウ				5,9,12	●	164,169,177	○	145	
	コウリンカ		VU	N	5,9,12	●	177	○	145	
スイカズラ	ナバナ				1,5,9	●		○	142	
	オミナエシ				1,4,5,9	●	177	○	142	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ヒカゲノカズラ	コスギラン				11	●			150	
ハナヤスリ	アカハナワラビ	↓			1,5,12	●		○	120	
チャセンシダ	チャセンシダ				5				151	
イワデンダ	テバコワラビ		VU	N	4	●		○	151	
サトイモ	ヒメザゼンソウ	↓			1,4,12,18	●	157		113	
チシマゼキショウ	イワショウブ				1,11	●			173	
ヒルムシロ	エビモ	○			4,14	●		○		90
ユリ	アマナ			VU	5,6,12	●	161,169,170, 177,184	○	174	
	カタクリ				1,5,9,12	●	169,170,177, 184	○	172	
ラン	ギンラン	↓		NT	1,5,12	●	157,159,162, 169,170,177, 178,179	○	117	
	ササバギンラン				1,5,9,12	●	177,179	○	182	
	エゾスズラン				1,5,12				183	
	ジンバイソウ				1,5,12	●		○	183	
	ネジバナ				1,5,9,12	●	170,179,184	○	184	
	ショウキラン			VU	1,5,12				184	
アヤメ	アヤメ				9,12	●	169	○	174	
ツユクサ	イボクサ				6,18				175	
ガマ	ナガエミクリ	○	NT	EN	2,14	●	170	○		90
	コガマ				2	●		○	178	
イグサ	イトイ				1				175	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
カヤツリグサ	ウキヤガラ				2,3,4,18	●	159		182	
	マツバスゲ				4				179	
	ハリガネスゲ				4	●	169		179	
	ミヤマジユズスゲ				1,5,12	●		○	179	
	コタヌキラン				5				180	
	アズマスゲ	○			1,5,7	●		○		91
	オタルスゲ				6,7,11	●	157	○	180	
	タカネマスキサ				2,4	●	169	○	180	
	オオカワズスゲ	↓			5,12	●	157,159	○	149	
	アオガヤツリ	↓		NT	4	●		○	115	
	ハリイ				2,4,6	●		○	181	
	アゼテンツキ				6,7,14	●		○	181	
	クロアブラガヤ				1,4,5,12	●	157	○	182	
イネ	カラフトドジョウツナギ				5				176	
	ヌマガヤ				12	●		○	177	
	アワガエリ			CR	6,14				177	
ケシ	ツルケマン		EN	EN	1,5				156	
	ヤマキケマン				4,5				156	
キンポウゲ	キクザキイチゲ	↓			1,5,9,12	●	169,178	○	124	
	アズマイチゲ				1,5,9,12	●	169,170,178	○	154	
	センニンソウ	↓			2,4,5	●	159	○	124	
	バイカモ				2,4,6,15	●	159,169,170,171,181,184	○	155	
ユキノシタ	チシマネコノメソウ				4				157	
マメ	サイカチ			NT	2	●	157,177	○	158	
	オオバクサフジ	○			5,6,7,12	●	177,183	○		91
クロウメモドキ	ケンボナシ				1,5,12				161	
ブナ	イヌブナ	↓			1	●		○	122	
ニシキギ	オオシラヒゲソウ	○			9,10	●	162			91
ヤナギ	ケショウヤナギ			NT	2,8,15,18	●	172		152	
ミソハギ	ミソハギ				4,6,9	●	169	○	162	
ムクロジ	ホソエカエデ				1,5,12	●	169	○	159	
	オオイタヤメイゲツ	↓			1,5,12	●		○	132	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ニガキ	ニガキ				1,5,12				159	
アブラナ	マルバコンロンソウ	↓			1,2,5	●		○	126	
ナデシコ	タガソデソウ		VU	NT	1,5,9,12	●	157,169,173	○	152	
	タカネナデシコ				11	●			153	
	ワダソウ				1,5,12	●	157,170	○	153	
ヒユ	カワラアカザ				2,8,15	●	157,171	○	154	
ツツジ	ハダカシャクジョウバナ (2014版:ハダカシャク ジョウソウ)				1,5,12				164	
	ホンシャクナゲ				1,5,9,12	●	162,171,179, 181		164	
	ヒカゲツツジ				1,9	●	173,179,181	○	165	
リンドウ	ホソバノツルリンドウ	○	VU	NT	19	●	162	○		92
ムラサキ	エゾムラサキ			VU	1,5,12				166	
シソ	コシロネ				4	●			167	
	ツルニガクサ				1,5,12	●		○	168	
ハマウツボ	タチコゴメグサ				12	●		○	168	
モチノキ	ウメモドキ				1,5,9,12	●		○	160	
キキョウ	シデシヤジン				1,5,12				169	
キク	コヤブタバコ				1,5,12	●		○	169	

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ショウブ	ショウブ	◆			4,6,12	●	157,169		177	
サトイモ	ヒメウキクサ	○		CR	4,14	●	157	○		92
	ムラサキコウキクサ	◆		CR	2,3,6				86	
オモダカ	アギナシ	◆	NT	EN	6,14				171	
トチカガミ	クロモ	◆		CR	2,3,4,6,14,15	●	179		147	
ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	◆	VU	VU	2,4,14				108	
ラン	カキラン			NT	5,6				188	
	マツラン (2014版:ベニカヤラン)		VU	CR	5,9,12				190	
	ミズトンボ		VU	VU	4,5,12				188	
	ミズチドリ			NT	4,5,12				189	

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ラン	マンシュウヤマサギソウ			VU	4,5,12				189	
	ミヤマチドリ			EN	1,5,12				189	
	ガッサンチドリ		EN	EN	5,12				190	
	トキソウ		NT	VU	5,9,12				190	
キジカクシ	ヒメヤブラン	◆			5,12,18				110	
	ワニグチソウ	◆			1,5,9,12				173	
	コワニグチソウ	◆			1,5,9,12				173	
イグサ	ハリコウガイゼキショウ				4,5,6,12,14	●		○	186	
カヤツリグサ	ホスゲ	○			-	●	157	○		92
	ニイタカスゲ	○			-	●		○		93
	ミセンアオスゲ	○		VU	-	●		○		93
	ヒメゴウソ				4,5,6				187	
	シカクイ				4,5,6				188	
	ヒメヒラテンツキ	○		NT	2,4,6	●		○		93
イネ	エゾカモジグサ				5,6,7				186	
	イワタケソウ			VU	5,6,7				187	
	オオイチゴツナギ				5,6,7	●		○	187	
	ヌメリグサ	◆		NT	2,4,14				112	
ケシ	ジロボウエンゴサク	○		CR	-	●		○		94
メギ	キバナイカリソウ	◆			1,5,9,12				77	
キンポウゲ	サンリンソウ				1,5,12				184	
	カザグルマ		NT	CR	5,6,9	●			185	
スグリ	スグリ	◆			2,8,18				95	
ベンケイソウ	ホソバナキリンソウ	◆			1,5,12				79	
	マルバマンネングサ	◆		VU	1,5,12				126	
マメ	クサフジ	○			5,6,7,12	●	157,171,177,178	○		94
バラ	マメザクラ			NT	1,5,12	●			185	
	カシオザクラ	◆		CR	1,18				96	
	ノウゴウイチゴ	◆			1,5,12				80	
	サナギイチゴ	◆	VU	N	1,5,12				128	
イラクサ	コバノイラクサ	◆			1,2,7				152	
ウリ	スズメウリ	◆			2,6	●	159		81	

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2014	減少要因	2014年以降の 情報		標本	掲載ページ	
						記録	参考文献		2014	2024
ニシキギ	オオツリバナ	◆			1,5,12				133	
ヤナギ	シロヤナギ	◆			2,4,8,18	●		○	89	
スマレ	アイヌタチツボスミレ	◆		CR	1,5,12				81	
アマ	マツバニンジン	◆	CR	EN	1,5,12				80	
オトギリソウ	タコアシオトギリ	◆			6			○	155	
	シナノヤマオトギリ	◆			5,12			○	78	
	オオシナノオトギリ	◆		EN	5,11,12				78	
ミカン	キハダ	◆			1,5,12	●	173,178		131	
ナデシコ	ワチガイソウ	◆			1,12,18				90	
アカネ	ヤエムグラ	○			2,5,15	●	157,159,177, 178	○		94
アゼナ	ウリクサ	◆		VU	6,14				103	
シソ	ツルカコソウ	◆	VU	NT	5,6,12,14				83	
	ジャコウソウ	◆			1,5,12				84	
	ヤマジソ	◆	NT	NT	5,6,12				84	
ミツガシワ	アサザ	◆	NT	VU	2,3,6				83	
キク	カントウヨメナ	◆		VU	5,7	●		○	105	
	キソアザミ	○		NT	7,8,16	●		○		95
	ウスギタンポポ	◆		VU	5,7,18				107	
	オナモミ	◆	VU	VU	2,8,15				146	
セリ	セントウソウ	◆			1,12,18				100	
	ハナウド	◆			5,7	●		○	163	

2 哺乳類

・カテゴリーの変動

↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加

↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

・2014年以降の記録

●：あり

■絶滅 (EX)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
イヌ	ニホンオオカミ		EX	EX	1,10,19			193	

■絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	↑	VU	VU	1	●	190	195	
	クロホオヒゲコウモリ	○	VU	CR	1	●			99
	テングコウモリ (2014版：ニホンテングコウモリ)	↑			1,19			197	

■絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
トガリネズミ	アズミトガリネズミ		NT	VU	1	●	190	193	
モグラ	ミズラモグラ		NT	VU	1	●		193	

■準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
トガリネズミ	シントウトガリネズミ (2014版：ホンシュウトガリネズミ)			NT	1	●	164,190	194	
	カワネズミ			NT	2,8	●	164,179	194	
キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○			19	●	183,190		99
ヒナコウモリ	ニホンウサギコウモリ			VU	1	●		195	
	ヒメホオヒゲコウモリ (2014版：シナノホオヒゲコウモリ)	◇		EN	1	●	190	196	
	モモジロコウモリ				2	●	190	194	
	ユビナガコウモリ	○		CR	18	●			99
ヤマネ	ヤマネ			NT	1	●	170	196	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
リス	ニホンモモンガ			NT	1	●	190	195	
イタチ	オコジョ		NT	NT	1	●		196	

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ	○	VU	DD	1				100
	ヒナコウモリ	○		EN	1,19	●	190		100
	コテングコウモリ (2014版：ニホンコテング コウモリ)			EN	1	●	190	197	

3 鳥類

・カテゴリーの変動

↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加

↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

・2014年以降の記録

●：あり

■絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
キジ	ライチョウ		EN	EN	13,17,18	●	177,190	201	
	ウズラ		VU	CR	2,5,6	●	190	201	
サギ	ヨシゴイ		NT	EN	2,6	●	186,190	201	
	ササゴイ	↑		VU	1,2,3,4,6	●	190	204	
クイナ	ヒクイナ		NT	CR	2,6	●	170,186	202	
カモメ	コアジサシ		VU	CR	2,8			202	
タカ	イヌワシ		EN	CR	1,5,7,8,10,12			202	
	クマタカ		EN	EN	1,5,7,8,10,12	●	178,179,182,186	203	
フクロウ	コノハズク	◇		VU	1,5,7,8,12	●	190	210	
	アオバズク	◇		EN	1,5,12	●	159,182,190	211	
カワセミ	ヤマセミ	↑		VU	2,5,8	●	186	205	
ブッポウソウ	ブッポウソウ	○	EN	CR	1,5,19	●	190		103
モズ	アカモズ		EN	EN	5,6,19	●		203	
セッカ	セッカ			CR	2,3,4,6	●	186	203	

■絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
サギ	ミゾゴイ		VU	EN	1,5,12	●	170,190	204	
	コサギ	○		NT	2,3,19	●	182,186		103
ヨタカ	ヨタカ		NT	VU	1,5,6,7,19	●	164,169,170,179,186,190	204	
タカ	ハイタカ	↑	NT	VU	1,5,7,8,12	●	164,169,173,181,186	207	
ハヤブサ	ハヤブサ		VU	EN	1,5,7	●	164,169,178,179,186	205	

■準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
サギ	チュウサギ		NT	NT	2,3,4,6,12	●	186	205	
チドリ	イカルチドリ			NT	2,8	●	181,182,186	206	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
チドリ	コチドリ				2,8	●	182,186	206	
タカ	ハチクマ		NT	VU	1,5,7,8,12	●	164,169,178, 179,182,186	206	
	オオタカ		NT	VU	1,5,7,8,10,12	●	164,169,173, 181,182,186	207	
カササギヒタキ	サンコウチョウ			VU	1,5,12,19	●	182,186	208	
ホオジロ	ホオアカ			NT	5,6,12	●	186	208	
	ノジコ		NT	NT	1,5	●	186	208	

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
クイナ	クイナ			DD	2,3,4,5,6	●	186	209	
チドリ	ケリ		DD	VU	2,3,4,5,6	●	186	209	
シギ	ヤマシギ			DD	1,2,3,4,5,6	●	164,190	209	
タマシギ	タマシギ		VU	CR	2,6			210	
フクロウ	オオコノハズク			DD	1,5,12			210	
	トラフズク			EN	1,5,12			211	
	コミミズク			EN	1,5,12	●	186	211	
モズ	チゴモズ	○	CR	CR	5,11,19	●	169		103

4 爬虫類

・カテゴリーの変動
 ↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加
 ↓：ランクダウン ◆：DDへ移行
 ・2014年以降の記録
 ●：あり

■情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
タカチホヘビ	タカチホヘビ	○		DD	1	●	178,190		106
ナミヘビ	シロマダラ			DD	1	●	190	215	
	ヒバカリ			DD	1,12	●	164,169,170,190	215	

5 両生類

■絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
アカガエル	ツチガエル類 ※			VU	2,6,12	●	162,190	219	
	トウキョウダルマガエル	↑	NT	VU	2,6,16	●	170,174	219	

※近年の研究から、松本盆地のツチガエル類には、ツチガエルとムカシツチガエルの2種が含まれていることが明らかになったが、安曇野市内での両種の分布については不明な点が多いため、本レッドリストでは両者を区別せず「ツチガエル類」として扱った。

■準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
サンショウウオ	クロサンショウウオ		NT	NT	17	●	190	220	
	ヒダサンショウウオ		NT	NT	1,8	●	190	220	
イモリ	アカハライモリ		NT	NT	2	●	164,169,170	220	
アカガエル	トノサマガエル		NT	NT	2,5,6	●	170,171,173,174	219	

■情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
アオガエル	モリアオガエル	○		NT	1,3,4,18	●	190		108

6 魚類

・カテゴリーの変動

↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加

↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

・2014年以降の記録

●：あり

■野生絶滅 (EW)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ウナギ	ニホンウナギ		EN	EW	2,8			223	
アユ	アユ			CR	2,8,14			223	
サケ	サケ			EW	2,8,14			223	

■絶滅危惧I類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
メダカ	ミナミメダカ		VU	VU	2,3,6,12,14,15,16	●	165	224	

■絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の報知		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ドジョウ	ホトケドジョウ		EN	VU	2,4,6,14	●	170,190	224	
アカザ	アカザ		VU	NT	2,14	●		224	

■準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種 ※		VU	VU	2,4,8,14	●	190	225	
	スナヤツメ南方種 ※		VU	VU	2,4,8,14	●	190	225	
サケ	ニッコウイワナ		DD	NT	1,2,8,15,16,17	●	178,179,181	225	
	ヤマメ		NT	NT	1,2,8,15,16	●	179	225	
カジカ	カジカ		NT	NT	2,8,14	●	165,170,173,190	226	

※ 2014年版では「スナヤツメ」として掲載されていたものを、最新の分類に従って2種に分けて掲載した。

■情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ドジョウ	ドジョウ		NT	DD	2,6,15,16	●	165,170,173,190	226	

7 昆虫類

・カテゴリーの変動

↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加

↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

・2014年以降の記録

●：あり

■絶滅 (EX)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
トンボ	ハッチョウトンボ	↑			3,4,12,14,18			232	
バッタ	ヒゲナガヒナバッタ			CR+EN	2,8			229	
	アカハネバッタ		CR	CR+EN	5,6,12			229	
カメムシ	タガメ		VU	EX	3,4,6,12,14			229	
コウチュウ	カワラハンミョウ		EN	CR+EN	2,8,14,18			230	
セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	↑	EN	EN	5,6,12			236	
シジミチョウ	クロシジミ		EN	EN	20			230	
	アサマシジミ中部低地 帯亜種 ※ (2014版：アサマシジミ)		EN	VU	20			238	
タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン		CR	CR	5,12,18			230	
	ヒョウモンモドキ		CR	CR	5,12,18			231	
カレハガ	ヒロバカレハ	↑	VU	NT	5,12			239	
ドクガ	ウスジロドクガ	↑	NT	NT	5,12			240	
ヒトリガ	ゴマベニシタヒトリ	↑	NT	NT	5,12			240	
ヤガ	マダラムラサキヨトウ	↑			20			240	
	ヘリグロヒメヨトウ	↑	EN	CR+EN	20			241	
	ハイマダラクチバ	↑		CR+EN	20			241	

※2014年版では亜種区分せずに掲載されていたものを、市内に分布する2亜種それぞれについて評価した。

■絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヤンマ	カトリヤンマ	↑		VU	2,3,4,14			243	
エゾトンボ	ハネヒロエゾトンボ		VU	EN	2,6,14,18			231	
バッタ	セグロイナゴ			VU	4,6,12,14			232	
サシガメ	ハリサシガメ		NT	VU	2,5,14	●	171,184	233	
	ゴミアシナガサシガメ		VU	VU	5,12,14			232	
ツノカメムシ	キオビツノカメムシ			CR+EN	1,5,12,14	●		233	
オサムシ	チビアオゴミムシ	↑	EN	CR+EN	1,5,12,14			246	
	ツヤキベリアオゴミムシ		VU	DD	2,4,14			233	
ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ		NT	VU	2,3,4,6,14	●		234	

■ 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
クワガタムシ	オオクワガタ		VU	CR+EN	1,10,12,14,16			234	
コガネムシ	クロモンマグソコガネ		NT	CR+EN	5,12,14			235	
ジョウカイボン	シマシマクビボソジョウカイ	○			1,18	●	183		113
カミキリムシ	シナノエゾハイイロハナカミキリ	↑		CR+EN	1,17,19			253	
	シララカハナカミキリ			CR+EN	1,17,19			235	
	スミイロハナカミキリ			CR+EN	1,17,19			235	
	ムモンベニカミキリ	↑		VU	1,14,19			295	
セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ		NT	NT	5,12			236	
	アカセセリ	↑	EN	NT	5,12			257	
	ミヤマチャバネセセリ			EN	5,12	●		236	
シロチョウ	ヒメシロチョウ		EN	VU	6			237	
	ツマグロキチョウ		EN	EN	5,12			237	
	ヤマキチョウ		EN	EN	6			237	
シジミチョウ	オオルリシジミ		CR	EN	6,10	●	169,170	238	
	オオゴマシジミ	↑	NT	NT	17,18			259	
	アサマシジミ中部高地帯亜種 ※ (2014 版：アサマシジミ)		VU	VU	17,18			238	
タテハチョウ	ヒョウモンチョウ	↑	VU	NT	6,12	●		259	
	フタスジチョウ	↑			12	●	175	260	
	コヒョウモンモドキ		EN	VU	5,7,12			238	
	クロヒカゲモドキ		EN	EN	12			239	
	オオヒカゲ	↑		NT	4	●		261	
	キマダラモドキ	↑	NT	NT	4	●		260	
	ヒメヒカゲ		CR	EN	2,12			239	

※ 2014 年版では亜種区分せずに掲載されていたものを、市内に分布する 2 亜種それぞれについて評価した。

■ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
イトトンボ	キイトトンボ				3,4,6,14	●		241	
	オゼイトトンボ			NT	3,4,6,14			242	
ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				2,8	●	178,179	242	

■ 絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヤンマ	マルタンヤンマ	○		NT	3,4,14	●	189		113
	マダラヤンマ	○	NT	NT	3,4,14		164,170		113
トンボ	マイコアカネ	○			3,4,14				114
コオロギ	エゾエンマコオロギ			VU	2,14,18			243	
バッタ	イナゴモドキ				6,12,14	●	179	243	
	ハネナガイナゴ	↑			6,12,14			267	
	ツماغロバッタ				6,12,14	●		244	
アブラムシ	オニグルミクチナガオオ アブラムシ			DD	18,19			244	
タイコウチ	ヒメミズカマキリ				2,3,4,6,14	●		271	
カスミカメムシ	ハヤシオオカスミカメ	○			1	●			114
オサムシ	アカガネオサムシ		VU	VU	2,4,10,18			244	
	セアカオサムシ		NT	NT	5,6,14,18	●	160,169	245	
	チョウセンマルクビゴミ ムシ			VU	2,14			245	
	キベリマルクビゴミムシ		EN	VU	2,14			245	
	シンシュウマルガタゴミ ムシ			VU	2,14			246	
ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ	↑	NT	NT	2,3,4,6,14			279	
	マルガタゲンゴロウ	○	VU	VU	2,3,4,6,14	●			114
	クロゲンゴロウ	↓	NT	NT	2,3,4,6,14	●		234	
	ゲンゴロウ	↑	VU	NT	2,3,4,6,14	●		280	
ミズスマシ	オオミズスマシ	↑	NT	NT	2,3,4,6,14			280	
	ヒメミズスマシ		EN	VU	2,3,4,6,14			246	
	ミズスマシ		VU	VU	2,3,4,6,14			247	
ハネカクシ	ヤマトモンシデムシ		NT	VU	1,5,6,14	●		247	
コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ			NT	1,5,6			248	
コガネムシ	ミヤマダイコクコガネ			NT	1,12,14			248	
	ウエダエンマコガネ			NT	6,12	●	191	248	
	マルエンマコガネ			VU	5,6,12,14			249	
	オオクロツヤマグソコガネ			VU	19			249	
	ヒメカンショコガネ			NT	2,5,7,14	●	167	249	
	オオチャイロハナムグリ		NT	VU	1,5,8	●		250	
	トラハナムグリ			VU	1,7,19			250	
	シラホシハナムグリ			VU	1,5,14,19			250	

■ 絶滅危惧II類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ホタル	ゲンジボタル			NT	2,4,5,6,14	●	170	251	
ジョウカイボン	トウカイクビボソジョウカイ	○			1	●	183		115
テントウムシ	ダイモンテントウ			NT	17,18	●	190	251	
ハナノミ	ヤクハナノミ			VU	1,5,14			251	
オオハナノミ	クロオオハナノミ			VU	1,6,10			252	
ツチハンミョウ	マメハンミョウ				6,12,14	●	170	252	
	マルクビツチハンミョウ			NT	1,5,12,14	●		252	
	オオツチハンミョウ			NT	1,5,12,14			253	
カミキリムシ	ケブカマルクビカミキリ	↑			1,5,12,14			292	
	オトメクビアカハナカミキリ			VU	17,18			253	
	チャイロヒメコブハナカミキリ			NT	1,19			254	
	ヨツボシカミキリ		EN	VU	1,5,14			254	
	オニホソコバネカミキリ	↑		NT	1,5,14			293	
	トラフカミキリ	↑		NT	6,12,14			295	
ハムシ	スジグロオオハムシ			DD	4,5,6,14			254	
コマユバチ	ウマノオバチ		NT	NT	1,5,12,14	●	169, 170	255	
アリ	トゲアリ		VU	NT	1,5,12,14			255	
スズメバチ	ヤマトアシナガバチ		DD		1,5,12,14			256	
	モンスズメバチ		DD	DD	1,5,12,14	●	167,169,179	256	
	ヤドリホオナガスズメバチ		DD		1,5,14			255	
ギングチバチ	ニッポンハナダカバチ	○	VU	DD	2,5,8	●			115
クサアブ	ネグロクサアブ		DD		20	●		256	
マダラガ	ベニモンマダラ	↑	NT	NT	5,6,12	●	170	302	
セセリチョウ	ヘリグロチャバネセセリ			NT	5,12	●		258	
	コキマダラセセリ	○			5,12	●			115
	タカネキマダラセセリ		NT	NT	17,18			257	
シロチョウ	クモマツマキチョウ		NT	NT	2,8,10,17	●	162,173,184	258	
シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ			NT	12			258	
	ミヤマシジミ	↑	EN	VU	2,8	●	170,171,181, 184	305	
タテハチョウ	オオイチモンジ		VU	NT	2,8,10,17	●	173	259	
	コヒオドシ	↑		NT	2,8,17	●	162,181	306	
	ツマジロウラジャノメ				2,7,8	●	171	260	

■ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
シャクガ	フタスジギンエダシャク			VU	12,20	●		261	
スズメガ	ヒメスズメ		NT	NT	5,12,18	●		261	
コブガ	ヒラノコブガ	○		NT	18		154		116
ヤガ	ニセタバコガ	○		DD	12,20	●	168		116

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ヒラタカゲロウ	オビカゲロウ			NT	2,7			262	
イトトンボ	モートンイトトンボ		NT	N	3,4,6,14	●	190	262	
カワトンボ	アオハダトンボ		NT	NT	2,14	●	167,170,171,173	263	
	ミヤマカワトンボ				2,14	●	171	262	
ムカシトンボ	ムカシトンボ				2,8	●		263	
サナエトンボ	アオサナエ	↓		VU	2,14	●	185	242	
	ウチワヤンマ				3,4,6,14,15	●		263	
ヤンマ	サラサヤンマ			NT	4,5,14	●	190	264	
	ミルンヤンマ				2,14,18	●	164,166,169,179	264	
トンボ	ヒメアカネ	○			3,4,6,14				116
トワダカワゲラ	ミネトワダカワゲラ			N	2,7,18			264	
ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ			NT	2,8	●	179	265	
	ミヤマノギカワゲラ			NT	2,7			265	
カマキリ	ウスバカマキリ		DD		2,6,12	●		265	
コオロギ	クマコオロギ				2,4,14			266	
マツムシ	スズムシ			LP	2,4,14	●		266	
バッタ	クルマバッタ				2,20	●		268	
	イボバッタ				6,12,14	●	170	268	
	カワラバッタ				2,8	●	167,170,171	268	
	クモマヒナバッタ				17,18			267	
	メスアカフキバッタ				1,6,12	●		266	
テングスケバ	クロテングスケバ			NT	1,5,12,14,19			269	
トゲアワフキムシ	タケウチトゲアワフキ				1,14,19	●	169	269	
ミズカメムシ	ミズカメムシ			NT	3,4,6,14			270	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
タイコウチ	タイコウチ			NT	2,3,4,6,14	●	164,167,169, 170,176,185	271	
ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ		NT		5,12,14,19	●	167	272	
カメムシ	ヒメカメムシ			NT	5,12,14,19	●	164,167,169	272	
	ナカボシカメムシ			NT	1,5,12,14,19	●	164,169,178	272	
ツノカメムシ	フトハサミツノカメムシ			NT	1,5,12,14,19	●	164,169,183	273	
ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ				2,14	●	179	273	
	クロスジヘビトンボ (2014 版：タイリククロスジ ヘビトンボ)				2,14			273	
キスジラクダムシ	キスジラクダムシ				1,5,12,14			274	
ラクダムシ	ラクダムシ				1,5,12,14	●	166	274	
クサカゲロウ	オオフトヒゲクサカゲロウ			VU	1,5,12,20	●	183	274	
オサムシ	カワラゴミムシ			NT	2,8,14	●	160	275	
	エリザハンミョウ				2,8,14			275	
	コハンミョウ			NT	5,7,12,18	●	169,170	276	
	クロカタビロオサムシ			NT	1,5,6,12,14	●	169	276	
	エゾカタビロオサムシ				1,5,6,14			276	
	オサムシモドキ			NT	2,14			277	
	オオシンシュウナガゴミ ムシ			NT	1,7,8			277	
	ニセシンシュウナガゴミ ムシ			NT	1,7,8			277	
	ホソツヤゴモクムシ			NT	1,7,8			278	
	キノコゴミムシ	○		VU	1,7				117
	ダイミョウアトキリゴミムシ	○		NT	1,7				117
	オオホソクビゴミムシ				1,2,4,14			278	
コガシラミズムシ	コガシラミズムシ				3,4,14	●		279	
	クビボソコガシラミズムシ		DD	NT	2,3,4,14	●	160,171,184, 185	278	
ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ		NT	N	2,3,4,14	●	167,170,177, 185	279	
	クロマメゲンゴロウ				2,3,4,14	●	185	280	
	オオヒメゲンゴロウ	○		NT	3,4,14	●			117
ミズスマシ	コミズスマシ		EN	VU	2,3,4,14	●	167,170,185	281	
エンマムシモドキ	エンマムシモドキ			NT	1,5,12,14,19		178	281	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
エンマムシ	ナミエンマムシ (2014 版：エンマムシ)				5,6,12,14	●	183	282	
ハネカクシ	ヒロオビモンシデムシ (2014 版：ホンドヒロオビ モンシデムシ)			NT	1,5,8			282	
	ツノグロモンシデムシ			NT	1,5,8			282	
	カバイロヒラタシデムシ	○		NT	1,7	●			118
	ビロウドヒラタシデムシ			NT	1,5,8	●	166	283	
	ベッコウヒラタシデムシ	○		NT	1,7	●	183		118
	オニヒラタシデムシ			NT	1,8,14			283	
	ヒメヒラタシデムシ			NT	1,8,14			283	
	コクシヒゲツヤムネハネ カクシ (2014 版：コクシヒゲハネ カクシ)				1,6,10,14			284	
クワガタムシ	トウカイコルリクワガタ			NT	1,7,10			284	
	ヒメオオクワガタ			NT	1,10			284	
センチコガネ	ムネアカセンチコガネ			NT	5,6,14	●		285	
ヒゲブトハナムグリ	ヒゲブトハナムグリ			NT	2,6,12,14,18	●	169	285	
コガネムシ	オオヒラタハナムグリ			NT	1,5,14,18			285	
	アオアシナガハナムグリ				1,7,19	●		286	
	アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)		DD	NT	1,5,14,19	●	167,169,170	286	
	コカブトムシ	○		NT	1,7,12,20	●			118
タマムシ	ズミチビタマムシ	○		NT	1	●			119
コメツキムシ	オオクシヒゲコメツキ				1,14	●	169,183	286	
	ミヤマヒサゴコメツキ			NT	1,7,14			287	
	フタキボシカネコメツキ			NT	1,7,19			287	
	キンムネヒメカネコメツキ				1,7,19	●	183	287	
	ミヤジマコガネコメツキ	○			1,7	●			119
ホタル	ムネクリイロボタル				1,7,14	●	178,183	289	
	ヘイケボタル			NT	3,4,6	●	167,169,170, 173,183	288	
	ヒメボタル			NT	1,7			288	
ジョウカイボン	マサタカシリブトジョウ カイ			NT	1,7			288	
	サドクビボソジョウカイ	○			1,7	●	183		119

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ジョウカイモドキ	ナガサキアオジョウカイモドキ			NT	1,2,4,14	●	167	289	
ヒラタムシ	ルリヒラタムシ			NT	1			289	
オオキノコムシ	オオキノコムシ			NT	1,19			290	
テントウムシ	ジュウサンホシテントウ			NT	2,3,4,14	●		290	
	アイヌテントウ	○		NT	2	●	167		120
	ココノホシテントウ			NT	1,2,4,14			291	
	ジュウロクホシテントウ			NT	1,5,14			291	
	ヤマトアザミテントウ			NT	1,7			291	
アカハネムシ	ツチイロビロウドムシ (2014 版：ナカブサツチビ ロウドムシ)			NT	1			292	
カミキリムシ	アラメハナカミキリ			NT	1,19			293	
	トホシハナカミキリ			NT	1,19			292	
	ベニバハナカミキリ			NT	1,5,14			293	
	アカアシオオアオカミキリ			NT	1,5,14			294	
	アオカミキリ				1,14,19			294	
	コトラカミキリ		NT	NT	1,14,19			294	
	ホンドヒメシラオビカミ キリ	○			19				120
ハムシ	ヨツボシアカツツハムシ	○		DD	2	●			120
セイボウ	オオセイボウ (2014 版：オオセイボウ本 土亜種)		DD	DD	1,5,12,14	●	169,170	295	
スズメバチ	チャイロスズメバチ				1,5,12,14	●	169,179	297	
	クロスズメバチ				1,6,10,12,14	●	164,166,167, 169,178,179	296	
	キオビホオナガスズメバ チ (2014 版：キオビホオナガ スズメバチ本州亜種)		DD		1,5			296	
	シロオビホオナガスズメ バチ				1,5			296	
ハキリバチ	トモンハナバチ				4,6,12,14	●	169,178	297	
ミツバチ	ナガマルハナバチ		DD	DD	1,5,12,14,19	●	175	298	
	ホンシュウハイロマル ハナバチ			VU	17,18	●	178,183	298	
	クロマルハナバチ		NT	NT	4,6,14	●	170,183	297	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
シリアゲムシ	オオハサミシリアゲ				17,18			298	
シリアゲモドキ	スカシシリアゲモドキ (2014 版：スカシシリアゲ モドキ(短翅型))			VU	1,18,19	●	179	299	
ガガンボ	ミカドガガンボ				2,3,4,6,14	●	169	299	
ヒメガガンボ	ニッポンクモガタガガンボ				2,8,14,18			300	
アミカ	ミヤマコマダアミカ				2,8,14,18			300	
アミカモドキ	ニホンアミカモドキ		VU	VU	2,8,14,18	●	179	300	
ニセヒメガガンボ	エサキニセヒメガガンボ		DD		2,5,14,18	●		299	
ハナアブ	オオコシボソハナアブ				1,12,14,19			301	
	タカネベッコウハナアブ				17,18			301	
	ツノヒゲハナアブ				1,19			301	
クロバエ	クモマトラフバエ				17,18	●		302	
ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ		NT	NT	2	●	178,179	302	
セセリチョウ	スジグロチャバネセセリ		NT	NT	5,12	●		303	
	キマダラセセリ	↓			5,12	●	167,170,171	257	
アゲハチョウ	ヒメギフチョウ		NT	NT	12	●	162,170,178	303	
	ジャコウアゲハ				2,18	●		303	
シロチョウ	ミヤマモンキチョウ		NT	NT	17	●		304	
シジミチョウ	ウラキンシジミ	○			12	●			121
	ムモンアカシジミ			NT	12	●		305	
	ウラナミアカシジミ			NT	12	●	169,170	305	
	ウスイロオナガシジミ				18,19	●		304	
	クロミドリシジミ				12	●	169	304	
	ハヤシミドリシジミ	○			12	●			121
	カラスシジミ	○			12	●			121
	クロツバメシジミ		NT	N	2	●	173,184	306	
	ヒメシジミ	○	NT	N	5,12	●			122
タテハチョウ	コヒョウモン	○			2,12	●	164,175		122
	ウラギンスジヒョウモン		VU	NT	12	●		306	
	ギンボシヒョウモン	○			5,12	●	175		122
	オオムラサキ	○	NT	N	1,12	●	169,170		123
	ベニヒカゲ		NT	N	17,18	●		307	
	クモマベニヒカゲ		NT	N	17,18	●		307	

■ 準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
タテハチョウ	タカネヒカゲ		NT	NT	11,17,18	●		307	
シャクガ	トビスジヤエナミシャク	○		DD	5,12	●	168		123
	フチグロトゲエダシャク				2,6	●		308	
ヤガ	ホシヒメセダカモクメ	○	NT	N	5,12	●			123
	ミスジキリガ	○	NT	N	1,12	●			124

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の 情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
サナエトンボ	オナガサナエ				2,14	●	170,185	309	
エゾトンボ	トラフトンボ	◆		NT	3,14			231	
トンボ	キトンボ	○			3,14	●			124
アミメカワゲラ	ヒメアミメカワゲラ			DD	2			309	
マツムシ	カヤコオロギ				4,6,14			310	
ヒバリモドキ	キアシヒバリモドキ	○			18	●	183		124
バッタ	マダラバッタ	○			20	●			125
ガロアムシ	オオガロアムシ			NT	20			310	
センブリ	フタオセンブリ			DD	20			310	
オサムシ	クロズジュウジアトキリ ゴミムシ	○		NT	20	●			125
ガムシ	シジミガムシ	◆	EN	DD	2,3,4,14			247	
テントウムシ	クリサキテントウ	○			19	●	166		125
カミキリムシ	ミセンヒメハナカミキリ	○			18	●			126
スズメバチ	キオビクロスズメバチ			DD	1,5,12,14	●	178,180	311	
アシナガバエ	タカネキアシナガレアシ ナガバエ		NT		20			311	
ミツバチ	ナミルリモンハナバチ	○	DD	DD	5	●			126
キタガミトビケラ	キタガミトビケラ			N	2,8	●	183	311	
マダラガ	ルリハダホソクロバ	○	NT	DD	5	●			126
セセリチョウ	ホソバセセリ	○			20	●			127
カギバガ	チョウセントガリバ	○		DD	20	●	168		127
シャクガ	フチグロシロヒメシャク	○			5,12		153		127
	ムツテンナミシャク	○			5,12		153		128
	タケウチエダシャク	○			20		155		128

■ 情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014 年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
シャクガ	フタオレウスグロエダ シャク				20	●	160	312	
スズメガ	メンガタスズメ			DD	20			312	
シャチホコガ	ギンボンシャチホコ	○		NT	5,12				128
ドクガ	スゲドクガ	○	NT	DD	2,4,5	●	167		129
ヒトリガ	ヒメキシタヒトリ	◆		DD	17,18			308	
コブガ	ミカボコブガ	○	NT	DD	5,12				129
ヤガ	ウスズミケンモン		NT	N	20	●		312	
	オオクロバヤガ	○			17	●			129
	ムラサキハガタヨトウ	○		DD	5,12	●	163		130
	ショウブオオヨトウ	○			2,4,5	●	168		130
	ヒメトガリヨトウ	○			5,12		151		130
	オオチャバネヨトウ	○	VU	DD	2,4,5		149,152		131
	キスジウスキヨトウ	○	VU	DD	2,4,5	●			131
	クマソオオヨトウ	○		DD	20		150		131
	フタホシヨトウ	○			20		168		132
	トガリヨトウ	○			5,12	●	168		132
	ミヤマキシタバ	○	NT	DD	1,4,12				132
	コシロシタバ	○	NT	DD	1,12	●	168		133

8 その他無脊椎動物

・カテゴリーの変動

↑：ランクアップ ◇：DDから移行 ○：新規追加

↓：ランクダウン ◆：DDへ移行

・2014年以降の記録

●：あり

■絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
イワガニ	モクズガニ				2,8			315	
オカモノアラガイ	コウフオカモノアラガイ	○	VU			●	167		137
ナンバンマイマイ	カタマメマイマイ	○	VU	CR+EN		●	167		137

■絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
タニシ	マルタニシ		VU	NT	3,4,6,12,14	●	167	315	

■準絶滅危惧 (NT)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
ゴマガイ	ヒダゴマガイ			VU	1			315	
モノアラガイ	モノアラガイ		NT	NT	2,4,6	●	167,184,186	316	
ヒラマキガイ	ヒラマキガイモドキ		NT	NT	2,6,12,14			316	
オカミミガイ	ケシガイ		NT	N	1			316	
シトラ	オオウエキビ		DD	N	1			318	
	ヒメハリマキビ		NT	N	1	●	167	317	
	ヒゼンキビ		NT	NT	1			317	
ベッコウマイマイ	スカシベッコウ		NT	N	1			317	
ナンバンマイマイ	コシタカコベソマイマイ		NT	NT	1			318	
	カワナビロウドマイマイ		NT	VU	1			318	
	クロイワマイマイ				1			319	

■情報不足 (DD)

科名	種名	カテゴリーの変動	環境省 RL 2020	長野県 RL 2015	減少要因	2014年以降の情報		掲載ページ	
						記録	参考文献	2014	2024
モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	○	DD	CR+EN	2,4		185		137
ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ		DD	N	2,6,14	●	167	319	

(3) 分類群ごとの改定内容と追加種の解説

【新規追加種の内容解説】

新規レッドリスト種は、分類群ごとにカテゴリーのランクが高い順に並べて以下の内容について解説しました。

■和名・学名

和名は標準和名を記載しました。
学名は属名、種小名、亜種小名を記載しました。

■分類群名

植物については科名、動物については目名と科名を記載しました。

■カテゴリー

安曇野市、長野県、環境省のレッドリストにおけるカテゴリーを記載しました。

○ カミコウチテンナンショウ (サトイモ科) *Arisaema nikoense* subsp. *brevicollum*



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：高さ15～25cmの多年草。葉は5～7枚の狭楕円形の小葉に分裂し、小葉間に葉軸は発達しません。仏炎苞は高さ4～9cmで、赤紫褐色で細斑があります。花柄が葉柄よりも明らかに短いです。花期は5～6月です。

●生育環境：亜高山帯の林下に生育します。

●国内の分布：本州（中部地方）に分布します。県内では中部に分布しています。

●市内の分布：穂高、堀金の山地帯～亜高山帯の森林に自生しています。

●減少要因：分布、個体数が限られているうえ、園芸採取による減少が懸念されます。

参考文献 No. 190

生育環境



森林



■写真の撮影者

撮影者の氏名または写真の提供機関名を示しました。

■種の写真

写真は、できる限り安曇野市もしくは長野県で撮影された種の形態が分かるものを用いました。

ただし、長野県内の写真がない種は、他地域で撮影された写真や、標本の写真、イラストを用いました。

■特徴

種の形態や生態、食性や生活形態、繁殖などの特徴について記載しました。

■生息・生育環境

生息・生育する典型的な環境を記載しました。

■国内の分布

国内や県内における分布状況を記載しました。

■市内の分布と減少要因

安曇野市における生息・生育状況について記載しました。

■減少要因

安曇野市における減少の要因を記載しました。

■生息・生育環境のアイコン

生息・生育する標高区分や典型的な環境について示しました。

■参考文献 No.

安曇野市における生息・生育状況などを整理するために参考とした文献No.を示します。文献一覧は、巻末資料に掲載しました。

1 植物



■ レッドリスト改訂の概要（植物）

カテゴリーに変更があった植物は82種、新規追加は43種、除外種は65種で、植物のレッドリスト種は計320種になりました。表3-5にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

カテゴリーが上昇した種、新規追加した種には、湿地、草地や水田の畔などに生育する種が多い傾向が見られました。また、カニツリグサやヒメヨモギなど、外来系統の集団は広く見られるものの、在来系統の集団の分布が非常に限られている種も選定されました。

市内での記録が不明確なものや、種同定等に関して統一見解が得られていない種を、除外または情報不足に移行したことで、全体としてはカテゴリーの内訳が大きく変わる結果となりました。

表 3-5 植物レッドリスト種の概要

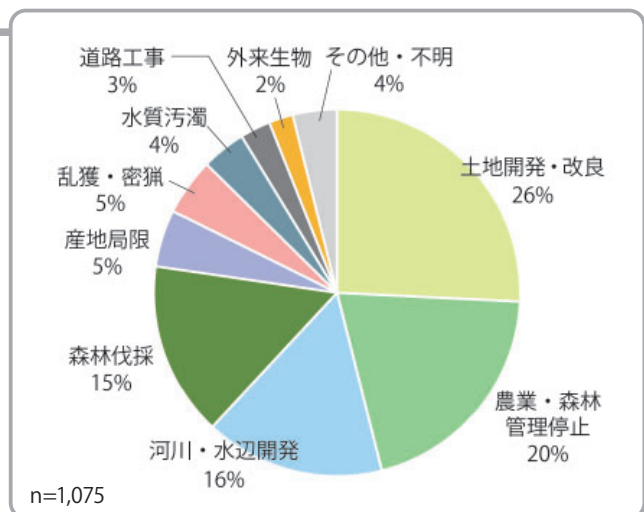
カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	32	11	過去の記録を見直し、多くの種をDDへ移行しました。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	95	94	水草のイトモなどのカテゴリーを上昇、草地性のユウスゲやアゼナなどを新規追加したほか、再発見されEXから移行した種もありました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	92	83	草地性のスズサイコ、湿地性のミズオトギリやサワギキョウなどのカテゴリーを上げたほか、ツルフジバカマなどを新規に選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	104	69	草地性のオオバクサフジや、湿地性のエビモなどを新規追加したほか、森林性のギンランなどはカテゴリーを下げて選定しました。
情報不足 (DD)	19	63	市内での記録が不明確なものや、種同定等に関して統一見解が得られていない種は、情報不足として評価しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された植物の主な減少要因としては、開発に伴う生育環境の喪失と並んで、農林業の衰退が挙げられます。

今回の改訂では草地や水田に生育する種でカテゴリーの上昇や追加が多く、農業の形態の変化に伴う里山環境の変化が進行していると考えられます。

また、ニホンジカの嗜好植物にもカテゴリーの上昇や追加があり、食圧による影響が拡大していることが懸念されます。



植物レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（植物）

植物の改訂においては、主に2016年から植物の分布調査や証拠標本採集を行い、全種ではありませんができる限り標本情報にもとづいてカテゴリーを判断しました。ここではその調査の概要を紹介します。

● 安曇野市豊科郷土博物館における調査及び標本収集

博物館では2016年から、『安曇野市版レッドデータブック2014』策定に関わった関係者にヒアリングを行いながら、対象種の分布把握や標本収集に努めてきました。その結果、スグリやイヌノフグリなど既知の自生地の消失が明らかになった種もあります。一方で2014年には絶滅とされていたヒンジガヤツリ、オオタチヤナギ、キクアザミなど複数種の自生が明らかになりました。

また2018年からは博物館友の会「植物調査部」が発足し、年ごとに対象区域を設定し、区域内のすべての維管束植物について標本を収集するという活動がスタートし、現在も市内各地の標本が蓄積されています。この調査によって絶滅危惧種の新たな産地が確認されたほか、スズメノテッポウやノミノツヅリなど、かつての普通種が大きく減少している可能性が高いことを明らかにしました。さらに普通種や外来種も含めてすべて採集することによって普通種の分布状況が明らかになり、相対的に絶滅危惧種の評価の基準を設定することが可能となりました。



博物館友の会「植物調査部」の調査

● 北アルプス山地帯、湧水地における調査及び標本採集

改訂にあたっては、特に市の西側山地帯を重点的に調査しました。その結果、ニイタカスゲ、ミセンアオスゲ、チョウセンミネバリ、キソアザミなど今回の新規追加種の記録を得ることができました。東山だけではなく、西山でもニホンジカによる食圧が大きくなっている現状も明らかになりました。

三川合流部の湧水地における調査を行ったところ、もともと個体数の少なかったホソバミズヒキモ、ホザキノフサモなどの水草類が以前と比較して大きく減少または、確認できないという結果となりました。さらに県内では他種との交雑等によりほとんどみられなくなったギシギシの生育が確認され、新たに絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）として選定するとともに、県内でも重要な記録となりました。

また信州大学自然科学館に保管されている、安曇野市で採集された絶滅危惧種の標本調査を実施しました。並行して、誤同定の可能性がある種や、自生に疑問がある種についても再検討を行いました。同定については長野県植物研究会の藤田淳一氏に全面的にご協力いただきました。



烏川上流部の調査



湧水地の調査

新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014 年版の 77～190 ページを参照してください。

カミコウチテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema nikoense subsp. *brevicollum*



生育環境



▶ 森林



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：高さ15～25cmの多年草。葉は5～7枚の狭楕円形の小葉に分裂し、小葉間に葉軸は発達しません。仏炎苞は高さ4～9cmで、赤紫褐色で細斑があります。花柄が葉柄よりも明らかに短いです。花期は5～6月です。

●生育環境：亜高山帯の林下に生育します。

●国内の分布：本州（中部地方）に分布します。県内では中部に分布しています。

●市内の分布：穂高、堀金の山地帯から亜高山帯の森林に自生しています。

●減少要因：分布、個体数が限られているうえ、園芸採取による減少が懸念されます。

参考文献 No. 190

ヤマサギソウ (ラン科)

Platanthera mandarinorum subsp. *mandarinorum* var. *oreades*



生育環境



▶ 草原



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ20～40cmの多年草。葉は下部の1個が大きく、長さ5～11cmの線状長楕円形で、他に披針形の鱗片葉を2～5枚つけます。花は黄緑色で10個程度つけ、距が後方にやや下がって伸び、長さは7～12mmです。花期は5～7月です。

●生育環境：山地帯の日当たりのよい草地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：山地帯の日当たりの良い草地に自生します。

●減少要因：草原や森林の管理放棄や、それに伴う植生の遷移によって、生息に適した草地が減少していることが要因です。

参考文献 No. 1, 4, 52

ヤマトキシソウ (ラン科)

Pogonia minor



生育環境



▶ 草原
▶ 湿地



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

環境省：

—

—

●特徴：高さ10～20cmの多年草。茎中央より少し上に葉を1枚だけつけます。葉はやや厚く肉質で、長さ3～7cmの長楕円形です。花は淡紅色でほとんど開かず、茎頂に1花をつけます。花期は6～8月です。

●生育環境：山地帯から亜高山帯の日当たりのよい湿った草地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高の山地帯で確認されています。

●減少要因：園芸採取や自然遷移が挙げられます。

参考文献 No. 4, 52

ユウスゲ (ススキノキ科)

Hemerocallis citrina var. *vespertina*



松岡貴子

生育環境



▶ 草原



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：

—

—

●特徴：高さ100～150cmの多年草。葉は線形で長さ40～60cm、幅5～15mmです。花はレモン黄色でやや芳香があり、夕刻に咲いて翌日午前中には閉じます。花期は7～9月です。

●生育環境：山地帯の草原、林縁などのやや乾いたところに生育します。

●国内の分布：本州（関東地方以西）から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：明科と穂高の平野部と山地帯の草地に自生しています。

●減少要因：管理放棄による草原の遷移によって、生息に適した草地が減少していることが要因です。また、ニホンジカの嗜好植物であることから食圧を受けている可能性があります。

参考文献 No. 1, 4, 16, 18, 19, 36, 46, 52, 170, 177

エゾアブラガヤ (カヤツリグサ科)

Scirpus asiaticus



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 湿地



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ80～150cmの多年草。葉は幅5～15mmで長く、基部の鞘は密に有花茎を包みます。小穂は幅3～4mmの球形や楕円形で、赤褐色、枝先に2～4個ずつ集まってつきます。花期は8～10月です。

●生育環境：山麓部・平野部から山地帯の湿地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：平野部のため池に自生しています。

●減少要因：湿地や湧水地の開発が挙げられます。

参考文献 No. 4

スズメガヤ (イネ科)

Eragrostis cilianensis



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 耕作地



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ20～60cmの一年草。葉は幅2～7mmです。花序は7～20cmで枝は1～2本です。小穂は長さ5～15mmの扁平で、10～30小花からなります。コスズメガヤに比べ、花序が密に見えます。花期は8～10月です。

●生育環境：山麓部・平野部の路傍や農地、河原などの陽地に生育します。

●国内の分布：本州から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高の平野部のかく乱地に自生しています。

●減少要因：河川や湿地の開発や、生育地に人が立ち入ることによる踏みつけが挙げられます。

参考文献 No. 19, 20, 52, 59, 159

ヒエガエリ (イネ科)

Polypogon fugax



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 草 原
▶ 湿 地
▶ 耕 作 地



▶ 河 川

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

環境省：

—

—

●特徴：高さ20～60cmの一年草。葉は幅3～8mmで、花序は長さ3～9cmの円錐状です。小穂は柄の長さが幅の2～3倍で、包穎のほぼ同長の芒が出ます。花期は6～8月です。

●生育環境：平野部の湿地や水田などに生育します。

●国内の分布：本州から南西諸島に分布します。県内では北部、南部に生育します。

●市内の分布：平野部の堤防草地に自生しています。

●減少要因：河川や草地の開発や、管理放棄による草原の遷移が挙げられます。

参考文献 No. 38

メガルカヤ (イネ科)

Themeda triandra var. *japonica*



松田貴子

生育環境



▶ 草 原



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ70～100cmの多年草。総は扁平で上方の葉腋ごとに出た短い枝の上につき、枝上にはさらに2～5cmの葉状苞があります。それぞれの苞は6個の小穂を抱いていて、長さ約5mmの太い芒うしぎが小穂外に出ます。花期は9～10月です。

●生育環境：主に山麓部・平野部の河原や乾いた草地に生育します。

●国内の分布：本州から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：明科の山地帯の草地に自生しています。

●減少要因：草原や森林の管理放棄や、それに伴う植生の遷移によって、生息に適した草地が減少していることが要因です。

参考文献 No. 4, 59

ギシギシ (タデ科)

Rumex japonicus



松田貴子

生育環境



▶ 湿 地



▶ 湧水地

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ30～120cmの多年草。全体緑色で赤みを帯びません。葉は長さ10～35cmの長楕円形で、縁は波打ちます。円錐状の花序をつけ、雌雄同株です。花期は4～7月です。

●生育環境：山麓部・平野部の原野や道端、海岸に生育します。

●国内の分布：日本全国に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高の平野部の湧水地に自生しています。県内ではほとんどがナガバギシギシ、エゾノギシギシとの雑種に置き換わっており、ギシギシが生育する場所は非常に限られています。

●減少要因：外来種ナガバギシギシ、エゾノギシギシとの交雑が挙げられます。

参考文献 No. 1, 4, 15, 16, 19, 24, 38, 52, 56, 57, 59, 159

アワゴケ (オオバコ科)
Callitriche japonica

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：

—

—

CR+EN

環境省：

—

—



橋渡勝也

●**特徴**：高さ約5cmの多年草。茎が下部で分岐して地面を覆います。葉は対生し無毛、倒卵形です。雌雄異花で、葉腋ごと1花をつけます。花は花弁が無く、2枚の苞に1本の雄ずいまたは雌ずいをつけます。花期は5～6月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部の日影のやや湿気の多い地面や社寺林などに生育します。

●**国内の分布**：本州（宮城県以西）から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：山麓部の社寺林に自生しています。

●**減少要因**：土地開発や、農業の形態の変化が挙げられます。

生育環境



▶ 社寺林



参考文献 No. 16, 19, 52, 59

サウトウガラシ (オオバコ科)
Deinostema violaceum

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：準絶滅危惧

NT

CR+EN

環境省：

—

—



松岡貴子

●**特徴**：高さ5～20cmの一年草。葉は線状狭卵形でやわらかく、1本の主脈が顕著です。上部の葉腋に筒状の花をつけます。花は紅紫色で長さ5～6mmです。茎中部以下には閉鎖花をつけます。花期は8～10月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部から山地帯の湿地に生育します。

●**国内の分布**：本州から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高の山麓部・平野部の湿地に自生しています。

●**減少要因**：耕作履歴の長い湿地に生育するため、圃場整備や、農地の管理放棄で減少しました。

生育環境



▶ 耕作地



参考文献 No. 4, 52, 63, 169

アゼナ (アゼナ科)
Lindernia procumbens

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：

—

—

CR+EN

環境省：

—

—



松岡貴子

●**特徴**：高さ5～20cmの一年草。葉は長さ15～25mmの楕円形で無柄、全縁です。上部の葉腋から出た長さ5～20mmの花柄の先に、淡紅紫色の花をつけます。花期は8～10月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部の湿気のある荒地や田畑に生育します。

●**国内の分布**：北海道から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高の山麓部・平野部の湿地に自生しています。

●**減少要因**：耕作履歴の長い湿地に生育するため、圃場整備や、農地の管理放棄で減少しました。

生育環境



▶ 耕作地



参考文献 No. 4, 15, 16, 19, 20, 38, 39, 52, 56, 57, 59

ヒメヨモギ（在来）（キク科）

Artemisia lancea

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—



松岡貴子

生育環境



▶ 草原



●特徴：高さ100～120cmの多年草。茎中部の葉は長さ3～7cmで羽状に深裂し、裂片は幅3mm以下、裏面に白綿毛があります。大きな円錐状の花序に小さな筒鐘状の花を多数つけます。花期は8～10月です。

●生育環境：山地帯の乾いた草原などに生育します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。県内では北部、中部に分布します。

●市内の分布：明科の山地帯の草地に自生しています。緑化材として持ち込まれた外来系統のヒメヨモギは県内でもみられますが、本種は古い草地に生育し、分布が非常に限られます。

●減少要因：管理放棄による草原の遷移によって、生息に適した草地が減少していることが要因です。また、外来系統のヒメヨモギとの交雑が懸念されます。

参考文献 No. 19, 24, 48, 52, 57, 59

ヤチアザミ（キク科）

Cirsium shinanense

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

—

環境省：

—

—



松岡貴子

生育環境



▶ 耕作地
▶ 湿地



●特徴：高さ30～150cmの多年草。根出葉はふつう花期にも残ります。葉の縁には長さ2～5mmの鋭いとげがあります。頭花は直立または斜上して咲き、花冠は淡紅紫色、鐘形～広筒形の総苞は少し粘る程度です。花期は8～10月です。

●生育環境：山麓部から山地帯の湿地や休耕田に生育します。

●国内の分布：群馬県と長野県に分布します。県内では北部と中部に分布します。

●市内の分布：穂高の山麓部の耕作地周辺に自生しています。

●減少要因：土地開発や、農業の形態の変化が挙げられます。

参考文献 No. 16, 24, 52, 57, 59

ウスヒメワラビモドキ（イワデンダ科）

Acystopteris taiwaniana

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 森林



●特徴：夏緑性のシダ類。葉は3～4回羽状複葉で長さ33～42cm、淡緑色です。葉柄は紫褐色で、白色や淡褐色の鱗片が密につきまします。ウスヒメワラビと比べて葉軸があまり赤褐色を帯びません。

●生育環境：低山帯の林床に生育します。

●国内の分布：本州（秋田県以南）、四国に分布します。

●市内の分布：三郷の山地帯の森林に自生しています。

●減少要因：森林伐採や、山地帯での道路工事といった開発の影響が挙げられます。

参考文献 No. 157

ヒトツバテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema monophyllum



●**特徴**：多年草で、子球による栄養繁殖はほとんどしません。葉は1個で卵形や楕円形の小葉が7～9個あります。小葉には細かな鋸歯があることが多いです。仏炎苞は黄緑色で上部に細長い紫斑があります。花期は5～6月です。

●**生育環境**：山地帯のやや暗い林中、林縁などの斜面に生育します。

●**国内の分布**：本州中北部に分布します。県内では中部、東部に分布します。

●**市内の分布**：主に穂高の山地帯の森林に生育しています。

●**減少要因**：森林伐採による減少が考えられます。

生育環境



▶ 森林



参考文献 No. 13, 52, 157

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：

—

—

スズメノテッポウ (イネ科)

Alopecurus aequalis var. *amurensis*



豊科郷土博物館

●**特徴**：高さ20～40cmの多年草。葉は幅1.5～5mm、花序は4～6cmで円柱状、小穂は長さ3～3.5mmで芒が小穂の外まで明らかに飛び出しています。花期は4～5月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部の湿地、耕起前の水田に生育します。

●**国内の分布**：北海道から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：耕作履歴の長い水田に自生しています。水田型のスズメノテッポウは大きく減少しており、畑地型のノハラスズメノテッポウが増加しています。

●**減少要因**：耕作履歴の長い湿田に生育するため、圃場整備や、農地の管理放棄で減少しました。

生育環境



▶ 耕作地



参考文献 No. 1, 4, 15, 16, 19, 20, 24, 38, 39, 52, 57, 59, 159

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

環境省：

—

—

コウボウ (イネ科)

Anthoxanthum nitens var. *sachalinense*



豊科郷土博物館

●**特徴**：高さ20～50cmの多年草。根生葉は線形で長さ10～30cm、花序は長さ4～8cm、枝が2～3本ずつ出て先端に数個の小穂をつけます。小穂は淡黄褐色で光沢があり、長さ幅共に4～6mmで3小花からなります。芒はなく、内穎は護穎とほぼ同長です。花期は3～5月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部から山地帯の草原に生育します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高の山麓部の草地に自生しています。

●**減少要因**：草原や森林の管理放棄や、それに伴う植生の遷移によって、生息に適した草地が減少していることが要因です。

生育環境



▶ 草原



参考文献 No. 4, 16, 18, 19, 24, 36, 52, 57, 59

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

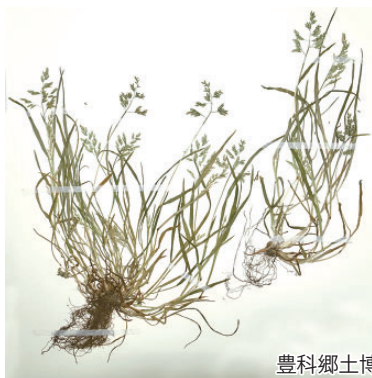
環境省：

—

—

スズメノカタビラ (イネ科)

Poa annua subsp.



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 耕作地



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●**特徴**：高さ10～30cmの一年草または越年草。葉は幅1.5～4mmです。花序は長さ3～5cmで枝から2本ずつ出て、小穂は長さ3.5～5mmの長卵形または扁平で、3～5小花からなります。花期は2～11月です。スズメノカタビラは全体に黄色味があり、護穎の脈の基部に毛が多く、最下の花序側枝は下垂します。外来系統のアオスズメノカタビラは全体が緑色、葉は青味がかった緑色で、護穎の脈の基部の毛は少なめで、最下の花序側枝は下垂しません。

●**生育環境**：山麓部・平野部の水田に生育します。

●**国内の分布**：日本全国に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高の農耕地に自生しています。外来系統のアオスズメノカタビラ、ツクシスズメノカタビラおよびその雑種が増加しており、大きく減少しています。

●**減少要因**：圃場整備や農地の管理放棄のほか、外来の近縁種との交雑が挙げられます。

参考文献 No. 18, 20, 24, 35, 36, 38, 48, 57, 159, 177, 178, 179 など

カニツリグサ (在来) (イネ科)

Trisetum bifidum



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 草原



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●**特徴**：高さ40～70cmの多年草。花序は長さ約10～20cmでやや先が垂れます。小穂は長さ6～8mmで2～3小花からなり、長さ6～10mmの芒が出て下方に反り返ります。花期は5～6月です。在来系統は外来系統と比較して、丈が低めで上部まで茎葉が発達せず、花穂が太く、護穎が紫色を帯びてざらつくなどの特徴がみられます。

●**生育環境**：平野部から山地帯の草地に生育します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高、明科、豊科の山地帯から平野部の草地に自生しています。外来系統のカニツリグサ（ナガボカニツリ f. *contracta*）が多く、在来系統が残っているのは古い草地に限られます。

●**減少要因**：土地開発のほか、外来の近縁種との交雑が挙げられます。

参考文献 No. 24, 36, 45, 56, 69, 157, 159, 177, 178, 179 など

カワラケツメイ (マメ科)

Chamaecrista nomame



EAC

生育環境



▶ 草原



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●**特徴**：高さ30～60cmの一年草または多年草。葉は線形または狭卵形で長さ3～7cm、葉柄上部に蜜腺が1つつきます。花は黄色で倒卵形、1～2花をつける花序が葉腋のやや上につきます。花期は8～10月です。

●**生育環境**：山麓部・平野部の日当たりのよい河原、土手、草地に生育します。

●**国内の分布**：本州から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●**市内の分布**：穂高の乾いた草地に自生しています。

●**減少要因**：生育環境の開発や、農業の形態の変化が挙げられます。

参考文献 No. 1, 4, 16, 19, 24, 56, 57, 59

ツルフジバカマ (マメ科)

Vicia amoena



松岡貴子

生育環境



▶ 草原
▶ 耕作地



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：つる性の多年草。葉は偶数羽状複葉で、10～16枚の小葉が互生します。小葉は狭卵形または長卵形で、長さ15～35mmです。花は紅紫色、密に一侧に偏って長さ4～15cmの総状花序につきます。花期は8～10月です。

●生育環境：山麓部・平野部の草原や道端に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高、堀金の山麓部・平野部の耕作地や草地に自生しています。

●減少要因：生育環境の開発や、農業の形態の変化が挙げられます。

参考文献 No. 4, 16, 18, 19, 20, 24, 36, 46, 48, 52, 57, 59, 177

ヨツバハギ (マメ科)

Vicia nipponica var. *nipponica*



藤田淳一

生育環境



▶ 草原
▶ 耕作地



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ30～80cmの多年草。葉は4～8枚の小葉が対生につき、葉軸先端はときに巻きひげになります。花序は2～8cmで密に5～15花をつけます。花は紅紫色または青紫色で、長さは10～12mmです。花期は7～10月です。

●生育環境：山麓部・平野部から山地帯の草地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：明科、穂高の山地帯・山麓部の耕作地や草地に自生しています。

●減少要因：生育環境の開発や、農業の形態の変化が挙げられます。

参考文献 No. 4, 15, 16, 19, 24, 36, 38, 48, 52, 57, 59, 177

チョウセンミネバリ (カバノキ科)

Betula costata



藤田淳一

生育環境



▶ 森林



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ約20mの落葉広葉樹。樹皮は帯赤褐色または灰白褐色でダケカンバに似ていますが、葉が三角状長卵形で、先端が鋭く長く伸び、果鱗の側裂片がわずかに開出します。雄花序は長枝の先に下垂し、雌花序は短枝の先に直立します。花期は5～6月です。

●生育環境：亜高山帯から高山帯の森林に生育します。

●国内の分布：本州中部（栃木県、群馬県、長野県、岐阜県）に分布します。

●市内の分布：三郷、堀金、穂高の山地帯の森林に自生しています。

●減少要因：森林伐採や、山地帯での道路工事といった開発の影響が挙げられます。

参考文献 No. 157

ウスゲヤナギラン (アカバナ科)

Chamaenerion angustifolium subsp. *circumvagum*



松田貴子

生育環境



▶ 草原



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

環境省：—

●特徴：高さ100～150cmの多年草。葉は互生し長披針形、花序は10～45cmになります。花は紅紫色で4枚の倒卵形の花弁をつけます。花期は6～8月です。ヤナギランと比べて全体的に少し大きく、茎の上部や葉の裏面脈上にまばらに毛があります。

●生育環境：山地帯から亜高山帯の草地に生育します。

●国内の分布：本州（東北南部から中部）に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高の亜高山帯の草地に自生しています。

●減少要因：ニホンジカの嗜好植物であるため、食圧による減少が懸念されます。

参考文献 No. 24, 52

オオアカバナ (アカバナ科)

Epilobium hirsutum



松田貴子

生育環境



▶ 湿地



▶ 湧水地

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：高さ約1.5mの多年草。葉は長楕円形で無柄、縁に鋸歯があります。花は紫紅色で腋生し、長さ8～20mmの花弁を4枚つけ、柱頭が4裂します。花期は6～8月です。

●生育環境：湿草原や川岸、谷間の湿地に生育します。

●国内の分布：本州（中部以北）に分布します。

●市内の分布：明科の平野部の湧水地に自生しています。

●減少要因：湿地や湧水地の開発が挙げられます。

参考文献 No. -

ノミノツツリ (狭義) (ナデシコ科)

Arenaria serpyllifolia var. *serpyllifolia*



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 耕作地



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：—

環境省：—

●特徴：高さ5cm程度の一年草または越年草。本種は茎に短毛が密生しますが腺毛はなく、茎は立たずに這い、茎や葉が紫色を帯び、葉は全体に厚く、丸みがあるなどの特徴があります。花は白色で上部の葉腋に数個つきます。花弁は5枚、長さ1～2mmで萼片よりも短いです。花期は3～8月です。

●生育環境：山麓部・平野部の耕作地、原野などに生育します。

●国内の分布：日本全国に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高の山麓部の耕作地周辺に自生しています。市内では茎や葉に腺毛が多く、茎が立ち上がり、茎や葉が緑色をした外来系統のネバリノミノツツリが広く分布しており、在来系統の分布は非常に限られています。

●減少要因：圃場整備や農地の管理放棄のほか、外来の近縁種との交雑が挙げられます。

参考文献 No. 24, 57, 157

ケヤマウツボ (ハマウツボ科)
Lathraea japonica var. *miqueliana*

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

VU

環境省：

—

—



松岡貴子

●特徴：高さ6～30cmの寄生植物。ブナ科、カバノキ科、ニレ科などの樹木の根に寄生します。全草で葉緑素を欠き、やや褐紫色を帯びた白色です。やや赤紫色を帯びた花を密につけます。花期は5～7月です。ヤマウツボと比べて茎に軟毛があります。

●生育環境：山地帯の落葉樹林の林床に生育します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：堀金の山地帯の林床に自生しています。

●減少要因：森林伐採や、山地帯での道路工事といった開発の影響が挙げられます。

参考文献 No. 52, 178

生育環境



▶ 森林



エビモ (ヒルムシロ科)
Potamogeton crispus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



松岡貴子

●特徴：沈水葉の長さ3～10cmの沈水性の多年草。沈水葉は広線形で無柄、葉縁に鋸歯があり、波打ちます。托葉は葉身と独立して茎を抱くようにつきます。長さ2～6cmの花序をつけます。花期は7～8月です。

●生育環境：山麓部・平野部の湖沼やため池、河川、水路に生育します。

●国内の分布：北海道から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：穂高や明科の平野部の湧水路などに生育しています。

●減少要因：湧水路などの生育環境の変化で減少していると考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 19, 20, 24, 52, 56, 57, 59

生育環境



▶ 湿地



▶ 用水路

▶ 湧水地

ナガエミクリ (ガマ科)
Sparganium japonicum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



松岡貴子

●特徴：抽水性または浮葉性の多年草。茎上部の葉腋から枝を出し、枝の下部に雌性頭花、上部に雄性頭花をつけます。雌性頭花は2～6個、雄性頭花は5～10個になります。果実は紡錘形で約2mmの小柄が存在します。花期は6～9月です。

●生育環境：山麓部・平野部の水位の浅い池や湿地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では北部、中部に分布します。

●市内の分布：豊科、穂高、明科の平野部の湧水路に生育しています。

●減少要因：河川開発による護岸や河床のコンクリート化は生育地を消失させる可能性があります。また、水質の悪化による個体数の減少が考えられます。

参考文献 No. 170

生育環境



▶ 湿地



▶ 河川

▶ 池沼

▶ 用水路

アズマスゲ (カヤツリグサ科)
Carex lasiolepis



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 森林



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ5～15cmの多年草。叢生し、植物体全体に軟毛が密生します。葉は幅3～5mmで、基部の鞘は淡褐色です。頂小穂は雄性で棍棒形、側小穂は雌性で楕円形で、果胞は長楕円形です。花期は4～5月です。

●生育環境：山地帯の乾いた明るい樹林内や草地に生育します。

●国内の分布：北海道から九州北部（中国地方を除く）に分布します。県内では中・南信に分布します。

●市内の分布：明科の山地帯の林道沿いに自生しています。

●減少要因：生育環境の開発が挙げられます。

参考文献 No. 4

オオバクサフジ (マメ科)
Vicia pseudo-orobus



松田貴子

生育環境



▶ 草原
▶ 耕作地



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：長さ80～150cmのつる性の多年草。葉は卵形の小葉が4～10枚互生し、葉軸の先端は分枝する巻きひげになります。4～7cmの総状花序に、多数の青紫色の花をつけます。花期は8～10月です。

●生育環境：平野部から山地帯の草原に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：三郷、明科、堀金の山地帯・山麓部・平野部の耕作地や草地に自生しています。

●減少要因：生育環境の開発や農林業の衰退が挙げられます。

参考文献 No. 1, 4, 16, 18, 24, 36, 38, 52, 57, 59, 177

オオシラヒゲソウ (ニシキギ科)
Parnassia foliosa var. *japonica*



松田貴子

生育環境



▶ 森林



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ15～30cmの多年草。短い根茎に2～4個の花茎と数個の根出葉を束生します。花は白色、花弁は卵形で縁が糸状に深く切れ込み、ひげ状になります。仮雄ずいは先端が3裂します。花期は8～9月です。シラヒゲソウと比べて全体的に大型です。

●生育環境：山地帯の林縁の湿った草地や溪流沿いに生育します。

●国内の分布：本州（秋田県から兵庫県）の日本海側に分布します。県内では北部、中部に分布します。

●市内の分布：市内の山地帯の溪流沿いに生育しています。

●減少要因：園芸目的の採取が懸念されます。

参考文献 No. 24, 57, 162

ホソバノツルリンドウ (リンドウ科)

Pterygocalyx volubilis



藤岡淳一

生育環境



▶ 森林



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：つる性の一年草。ツルリンドウに似ますが、葉が細く茎や葉裏が紫色を帯びません。花は淡紫色を帯びた白色で、長さ30～35mmの筒状、先が4裂します。花期は9～10月です。

●生育環境：山麓部から山地帯の林縁などに生育します。

●国内の分布：北海道から四国に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：堀金の山麓部の森林に自生しています。

●減少要因：自然遷移によって減少していると考えられます。

参考文献 No. 4, 24, 52, 57, 59, 162

ヒメウキクサ (サトイモ科)

Landoltia punctata



井浦和子

生育環境



▶ 湿地



▶ 湧水地

安曇野市：情報不足

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

DD

環境省：—

—

●特徴：葉の長さ3～5mm浮遊植物。葉状体は左右不相称の長楕円形で、上面は光沢のある緑色、下面は赤色です。単独または2～6個の群体を作ります。花期は5～8月です。

●生育環境：平野部の池や溝に生育します。

●国内の分布：本州（関東地方以西）から九州に分布します。

●市内の分布：穂高のワサビ田跡に生育しています。

●減少要因：湿地の開発や水質の悪化が挙げられます。

参考文献 No. 157

ホスゲ (カヤツリグサ科)

Carex deweyana subsp. *senanensis*



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 森林
▶ 草原



安曇野市：情報不足

長野県：—

—

DD

環境省：—

—

●特徴：高さ25～70cmの多年草。叢生し、葉は幅2.5～4.5mmで、基部の鞘は淡褐色～褐色です。花序は円柱形の無柄小穂を、4～8個散生します。果胞は長卵形で、上部は長嘴になります。花期は7～8月です。

●生育環境：山地帯から亜高山帯の湿った林縁や草地に生育します。

●国内の分布：本州（兵庫県以北の日本海側）に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：三郷の山地帯の林道沿いに自生しています。

●減少要因：現時点での県内での確認は少ないですが、詳細な現状が把握されておらず、減少要因は不明です。

参考文献 No. 4, 16, 24, 57, 157

ニイタカスゲ (カヤツリグサ科)

Carex leucochlora var. *aphanandra*



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 森 林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：高さ15～50cmの多年草。葉は大きさの割に幅が広く、幅2～4mmでやや横に展開します。頂小穂は雄性で小さく、側小穂は雌性で2～3個です。最下の小穂は根際に生じ、長柄があります。花期は4～6月です。

●生育環境：山地帯から亜高山帯の樹林内に生育します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：穂高と堀金の亜高山帯の林道沿いに自生しています。

●減少要因：現時点での県内での確認は少ないですが、詳細な現状が把握されておらず、減少要因は不明です。

参考文献 No.

-

ミセンアオスゲ (カヤツリグサ科)

Carex leucochlora var. *horikawae*



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 森 林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：

—

—

●特徴：高さ15～40cmの多年草。葉は幅1～2mmで、基部の鞘は淡褐色です。頂小穂は雄性の線柱形、側小穂は雌性の短柱形で離れてつきます。果胞は長卵形で上部は短喙になります。花期は4～5月です。

●生育環境：主に山地帯の乾いた路傍や林床に生育します。

●国内の分布：本州（長野県、愛知県、瀬戸内海沿岸）、四国（香川県、愛媛県）、宮崎県に分布します。

●市内の分布：明科と豊科の山地帯の林道沿いに自生しています。

●減少要因：現時点での県内での確認は少ないですが、詳細な現状が把握されておらず、減少要因は不明です。

参考文献 No.

-

ヒメヒラテンツキ (カヤツリグサ科)

Fimbristylis autumnalis



豊科郷土博物館

生育環境



▶ 裸 地
▶ 湿 地
▶ 耕作 地



▶ 河 川

安曇野市：情報不足

DD

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：

—

—

●特徴：高さ15～30cmの一年草。匍匐根茎はなく、叢生します。葉は幅約2mmで、基部の鞘は褐色です。小穂は長さ3～6mmの披針形で、複散房状の花序に多数つきます。花期は7～10月です。

●生育環境：平野部の湿地や水田の畔などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州（奄美大島、徳之島、対馬）、南西諸島に分布します。

●市内の分布：穂高の河川敷に自生しています。

●減少要因：生育環境の開発が挙げられます。

参考文献 No.

4, 16, 19, 24, 57

ジロボウエンゴサク (ケシ科)

Corydalis decumbens



松田貴子

生育環境



森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

環境省：

—

—

●特徴：高さ10～20cmの多年草。根出葉は2～3回3出複葉で、小葉はふつう2～3裂し、裂片の長さは1～2cm。花序はやや少数の花をつけます。花は紅紫色から青紫色で、長さは12～22mmです。花期は4～5月です。

●生育環境：山麓部・平野部の川岸や林縁に生育します。

●国内の分布：本州（関東地方以西）から九州に分布します。県内では南部に分布します。

●市内の分布：穂高の山麓部の林縁に自生しています。県内では人為的移入によって分布している場所もあります。

●減少要因：現時点での県内での確認は少ないですが、詳細な現状が把握されておらず、減少要因は不明です。

参考文献 No.

—

クサフジ (マメ科)

Vicia cracca



松田貴子

生育環境



草原

耕作地



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：つる性の多年草。茎の長さは150cmに達します。葉は偶数羽状複葉で、18～24枚の狭卵形の小葉がつきます。花は青紫色で、密に一方にやや偏って長さ6～15cmの総状花序につきます。花期は5～9月です。まれに純白色の花をつける個体もあります。

●生育環境：山麓部・平野部から山地帯の草地や林縁に生育します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の耕作地や草地に自生しています。

●減少要因：圃場整備など生育環境の改変や耕作、草刈り等の管理放棄によって個体数の減少率が高いと考えられます。現在は普通種ですが、今後、生育地や個体数に留意しモニタリングしていく必要があります。

参考文献 No.

24, 35, 36, 37, 39, 45, 46, 57, 157, 171, 177, 178 など

ヤエムグラ (アカネ科)

Galium spurium var. *echinospermon*



松田貴子

生育環境



森林

耕作地



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：つる状になる一年草または越年草。茎には4稜があり、稜上に下向きの刺状毛が生えて他物に引っかかります。葉は6～8枚が輪生します。葉腋や枝先に小さな黄緑色の花をつけます。花期は5～6月です。

●生育環境：山麓部・平野部の人家近くのやぶや荒地地に生育します。

●国内の分布：北海道から南西諸島に分布します。県内では全域に分布します。

●市内の分布：山麓部・平野部の土手や林縁等に自生しています。

●減少要因：生育環境の改変や外来種シラホシムグラとの競合によって個体数の減少率が高いと考えられます。現在は普通種ですが、今後、生育地や個体数に留意しモニタリングしていく必要があります。

参考文献 No.

18, 20, 24, 38, 39, 48, 52, 56, 57, 69, 157 など

キソアザミ (キク科)

Cirsium fauriei

安曇野市：情報不足

長野県：準絶滅危惧

NT

DD

環境省：

—

—



●**特徴**：高さ40～100cmの多年草。根生葉と茎下部の葉は花期には枯れ、茎中部の葉は6～8対の羽状に中裂～深裂します。頭花は下向きに咲き、花冠は淡紅紫色、鐘形～碗形の総苞は著しく粘ります。花期は8～10月です。

●**生育環境**：主に亜高山帯から高山帯の草原や低木林の林縁に生育します。

●**国内の分布**：中部地方（北アルプス南半部、御嶽山、中央アルプス）に分布します。県内では中部と南部に分布します。

●**市内の分布**：穂高の山地帯から亜高山帯の林縁に自生しています。

●**減少要因**：森林伐採や、山地帯での道路工事といった開発の影響が挙げられます。

参考文献 No. 24, 57

生育環境



▶ 森林





2 哺乳類



■ レッドリスト改訂の概要（哺乳類）

カテゴリーに変更があった哺乳類は3種、新規追加は5種で、哺乳類のレッドリスト種は計19種になりました。表3-6にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

カテゴリーが上昇した種、新規追加した種は、すべてコウモリの仲間でした。これは、近年の調査で新たに市内での生息が確認された種がいることや、その他の種でも生息情報が把握された種が増加したためです。

全体としては絶滅危惧Ⅰ類が増加し、絶滅のおそれの高い種が増加した結果となりました。

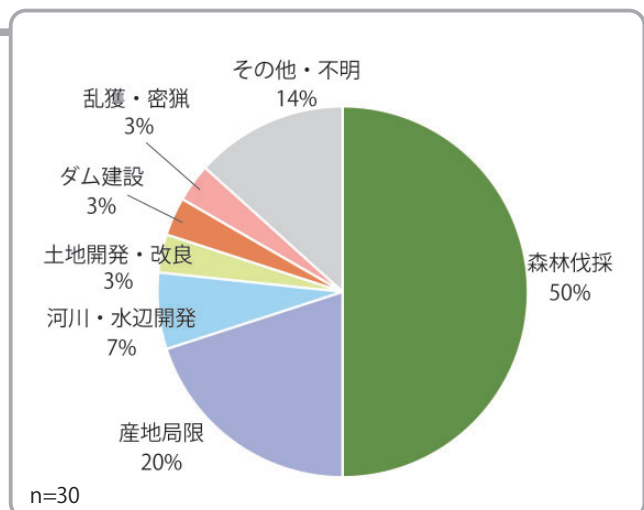
表 3-6 哺乳類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	1	1	新たに絶滅種に選定された哺乳類はありませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	0	3	ヤマコウモリのカテゴリーを上昇、クロホオヒゲコウモリを新規追加したほか、テングコウモリはDDから移行して選定しました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	2	2	変更の生じた種はありませんでした。
準絶滅危惧 (NT)	8	10	キクガシラコウモリとユビナガコウモリを新規追加しました。ヒメホオヒゲコウモリはDDから移行して選定しました。
情報不足 (DD)	3	3	モリアブラコウモリとヒナコウモリを新規追加しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された哺乳類の主な減少要因としては、森林伐採が多くを占めています。また、生息地が局限されている種が多いことも特徴です。

今回の改訂では、複数のコウモリ類で追加やカテゴリーの上昇がありました。これらの種の中には、市内のねぐらが局限されている種があり、数少ない生息地の開発が脅威となっています。



哺乳類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（哺乳類）

改訂にあたっては、市内で記録の少ない小型哺乳類の生息状況を把握するため、捕獲調査を実施しました。ここでは調査で分かったことの一部を紹介します。

●コウモリ類の捕獲調査

市内の山地帯を対象に、必要な許可を得た上でトラップを用いたコウモリ類の捕獲調査を行いました。その結果、中房川流域でヒメホオヒゲコウモリ4頭とコテングコウモリ1頭を捕獲しました。このうち、ヒメホオヒゲコウモリでは当歳獣が確認されたことや、雌の乳頭が発達していたことから、周辺で繁殖していることが明らかになりました。本種は安曇野市版レッドリスト2014では情報不足（DD）として選定*されていましたが、生息状況の一端が分かったことにより、準絶滅危惧（NT）へとカテゴリーを見直しました。また、コテングコウモリも当歳獣であったことから、周辺で繁殖していると考えられます。コテングコウモリは高山帯で見つかることもあるなど、分布について不明な点も多いことから引き続き情報不足としました。

※2014年版ではシナノホオヒゲコウモリとして掲載



コウモリ捕獲用のハープトラップ



捕獲されたヒメホオヒゲコウモリ

●トガリネズミ類の調査

烏川流域及び黒沢流域でトガリネズミ類の確認を目的としたトラップの設置を行いました。また、トガリネズミ類は山小屋などで見つかることもあることから、山小屋関係者に情報提供を呼びかけました。その結果、シントウトガリネズミとアズミトガリネズミの2種を確認しました。このうち、アズミトガリネズミは「安曇」の地域名を冠した種ですが、これまで市内での生息状況は分かっていませんでした。2014年版の選定時点では亜高山帯から高山帯にかけて分布すると考えられていましたが、今回の調査で標高1,300m程度の山地帯にも生息することが分かりました。



トガリネズミ類が確認された環境

●その他の確認種

記録の少ないレッドリスト種として、市内の複数の場所でニホンモモンガを確認したほか、これまで市内での報告がなかったヒナコウモリを確認しました。また、山小屋からの情報提供で、標高2,700mの高山帯に位置する山小屋でコテングコウモリの確認がありました。



捕獲されたシントウトガリネズミ

新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の193～197ページを参照してください。

クロホオヒゲコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Myotis pruinus



松宮裕秋

生息環境



森林



安曇野市：滅亡惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長7～8cm。黒色で小型のコウモリの仲間です。夜行性で森林を飛びながら昆虫類を食べます。

●生育環境：山地帯の森林に生息しています。木のすき間や洞穴をねぐらにします。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：一部地域の山地帯で生息が確認されています。

●減少要因：森林環境の悪化や餌となる昆虫類の減少が考えられます。

参考文献 No. 156

キクガシラコウモリ (コウモリ目 キクガシラコウモリ科)

Rhinolophus ferrumequinum



松宮裕秋

生息環境



森林



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—

●特徴：全長9～12cm。特徴的な鼻を持つコウモリの仲間です。体色は淡い褐色です。夜行性で森林内を飛びながら昆虫類を食べます。

●生育環境：山麓・平野部から山地帯にかけての森林に生息しています。洞穴や廃トンネルをねぐらにします。

●国内の分布：北海道から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：市内の山麓部から山地帯にかけて分布していると考えられます。

●減少要因：まとまった生息地が限られるうえ、生息地の開発による減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 16, 59, 183, 190

ユビナガコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Miniopterus fuliginosus



松宮裕秋

生息環境



森林



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

NT

環境省：

—

—

●特徴：全長10～13cm。黒っぽい体色のコウモリの仲間です。夜行性で開けた場所を飛びながら昆虫類を食べます。

●生育環境：山麓・平野部から山地帯にかけての森林に生息しています。洞穴や廃トンネルをねぐらにします。

●国内の分布：本州、四国、九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：一部地域の山麓部から山地帯に少数が生息していると考えられます。

●減少要因：まとまった生息地が限られるうえ、生息地の開発による減少が考えられます。

参考文献 No. -

モリアブラコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Pipistrellus endoi



H.Hashimoto 2013

橋本肇

生息環境



▶ 森林



安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長7～9cm。茶褐色のコウモリの仲間です。夜行性で森林を飛びながら昆虫類を食べます。

●**生育環境**：山地帯の森林に生息しています。木のすき間などをねぐらにします。

●**国内の分布**：本州、四国、九州に分布します。

●**市内の分布**：一部地域の山地帯に生息していると考えられます。

●**減少要因**：森林環境の悪化や餌となる昆虫類の減少が考えられます。

参考文献 No.

-

ヒナコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Vespertilio sinensis



松宮裕秋

生息環境



▶ 森林

▶ 市街地



安曇野市：情報不足

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

DD

環境省：

—

—

●**特徴**：全長9～13cm。中型のコウモリの仲間です。体色は黒褐色ですが、先端に白い毛が混じります。夜行性で開けた場所を飛びながら昆虫類を食べます。

●**生育環境**：山麓・平野部から亜高山帯にかけての森林に生息すると考えられます。木のすき間や人工構造物をねぐらにします。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。四国や九州では記録が少ないです。

●**市内の分布**：市内の山麓部から亜高山帯にかけて分布していると考えられます。

●**減少要因**：森林環境の悪化や餌となる昆虫類の減少が考えられます。

参考文献 No.

190

3 鳥類



■ レッドリスト改訂の概要（鳥類）

カテゴリーに変更があった鳥類は6種、新規追加は3種、除外種は1種で、鳥類のレッドリスト種は計35種になりました。表3-7にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

カテゴリーが上昇した種、新規追加した種には、コサギなどの小型の魚食性鳥類が多い傾向が見られました。また、昆虫食の小型フクロウ類（アオバズク、コノハズク）は生息数が少ないことが分かり、情報不足から絶滅危惧Ⅰ類へ変更しました。

全体としては絶滅危惧Ⅰ類が増加し、絶滅のおそれの高い種が増加した結果となりました。

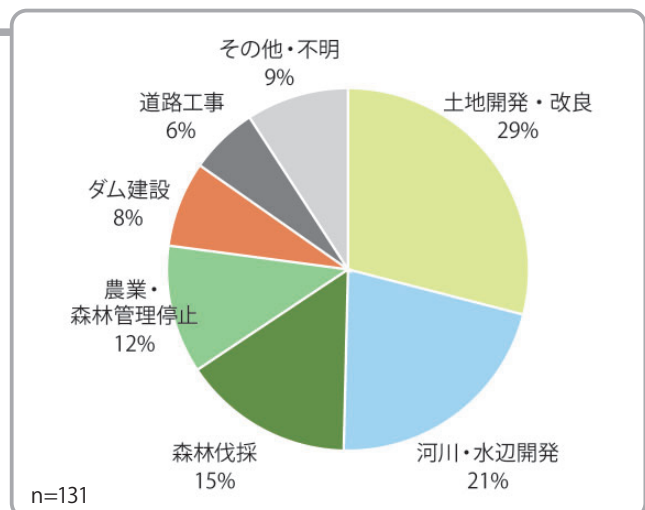
表 3-7 鳥類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	0	0	絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	9	14	ササゴイのカテゴリーを上昇、アオバズクとコノハズクをDDから移行、コサギとブッポウソウを新規追加として選定しました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	5	5	山地帯に生息するハイタカをカテゴリーを上げて選定しました。河川・水辺に生息するコサギを新たに選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	10	8	サンショウクイが除外されました。新たに加わった種はありませんでした。
情報不足 (DD)	9	8	山麓部・平野部に生息するチゴモズを新たに選定しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された鳥類の主な減少要因としては、開発に伴う生息環境の喪失が多くを占めるほか、里山の手入れ不足による環境の変化が挙げられます。

今回の改訂では複数の魚食性鳥類でカテゴリーの上昇や追加があったことから、河川環境の悪化とともに、餌となる魚の減少も懸念されます。また、チゴモズやアカモズといった渡り鳥の減少には、越冬地などの環境悪化も影響していると考えられます。



鳥類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（鳥類）

改訂にあたっては、高山帯に生息するライチョウや、情報の少ない夜行性鳥類の生息実態を把握するため、現地調査を実施しました。ここでは調査で分かったことの一部を紹介します。

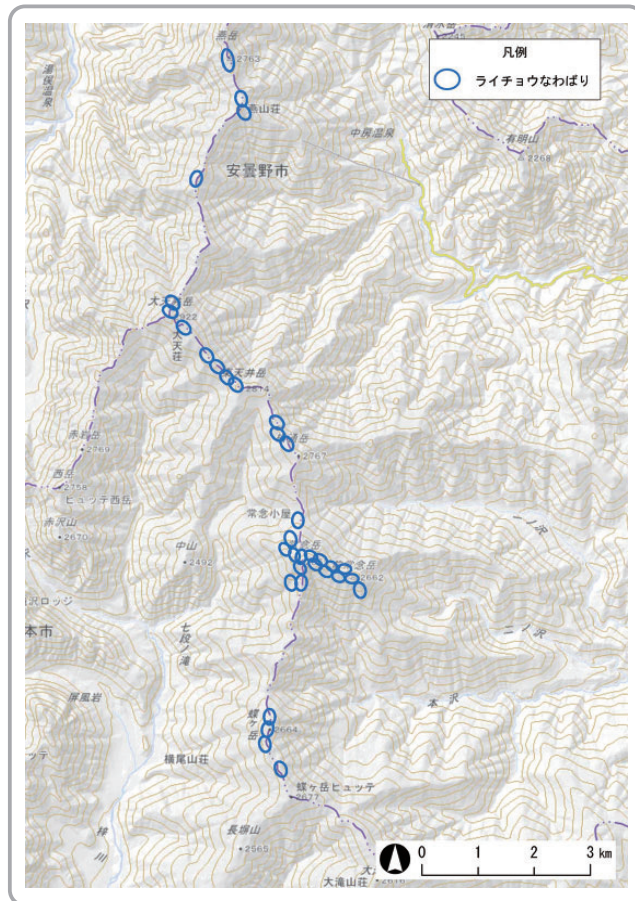
●ライチョウの生息数調査

2023年6月に、燕岳から蝶ヶ岳にかけての高山帯でライチョウ調査を実施しました。また、山小屋や登山者からも情報を収集しました。現地調査では、なわばり雄35羽とあぶれ雄5羽を確認したほか、情報からは蝶ヶ岳山頂周辺にも複数のなわばりが存在することが推測されました。

長野県が行った2015年の調査と比較すると、なわばり数に大きな変化はないことが分かりました。



ライチョウなわばり雄（大天井岳付近 6月8日）



ライチョウのなわばり分布（2023 年）

●夜行性鳥類調査

信州野鳥の会の協力のもと、市内に生息する夜行性鳥類を対象に生息状況を調査しました。夜行性鳥類はその確認が難しく、これまで生息の実態が分かっていませんでした。今回の調査で、コノハズクとアオバズクは市内でも非常に限られた場所にしか生息していないことが分かり、情報不足（DD）から絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）へとカテゴリーが移行しました。



個体数の少ないコノハズク

新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の201～211ページを参照してください。

ブッポウソウ (ブッポウソウ目 ブッポウソウ科) *Eurystomus orientalis*

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN



植松永至

生息環境



▶ 森林



●特徴：全長約30cm。頭部は黒褐色で、体は金属光沢のある青色をしています。飛翔時には翼の白斑が目立ちます。濁った声で「ゲェ ゲゲゲ」と鳴きます。空中を飛びながら昆虫を捕えて食べます。

●生育環境：山麓部から山地帯にかけての林に生息します。木の穴で繁殖します。

●国内の分布：夏鳥。主に本州、四国、九州に渡来します。

●市内の分布：近年、市内での複数の観察例があるほか、周辺地域での繁殖が確認されています。市内でも繁殖している可能性があります。

●減少要因：開発や森林伐採などで、繁殖に適した樹洞が減少したことが考えられます。

参考文献 No. 4, 190

コサギ (ペリカン目 サギ科) *Egretta garzetta*

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

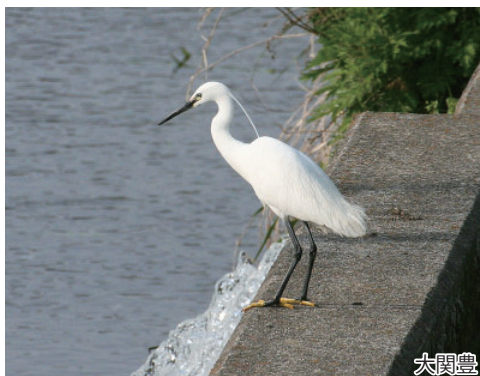
長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：—

—



大関豊

生息環境



▶ 河川



▶ 用水路

●特徴：全長約60cm。全身が白く、嘴は一年を通して黒色です。足は黒く、足指は黄色です。川の浅瀬や水路などで、魚類や甲殻類などを食べます。

●生育環境：河川や水路などの水辺に生息し、河畔林などに営巣します。

●国内の分布：留鳥。全国に分布します。

●市内の分布：市内の水辺で観察されますが、個体数が限られています。

●減少要因：河川環境の変化や餌となる小魚の減少が考えられます。

参考文献 No. 9, 14, 17, 32, 34, 41, 42, 43, 54, 66, 182, 186 など

チゴモズ (スズメ目 モズ科) *Lanius tigrinus*

安曇野市：情報不足

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

DD

環境省：絶滅危惧ⅠA類

CR



松宮裕秋

生息環境



▶ 森林



●特徴：全長約18cm。体の上面は頭から首が灰色で背中から尾は褐色で、下面は白色です。背や脇腹に横斑が入り、目の周りには黒い線があります。主に昆虫を食べます。

●生育環境：山麓部・平野部の明るくギャップのある疎林、河畔林などに生息します。

●国内の分布：夏鳥。主に本州中部地方と東北地方に渡来します。国内の生息数は160つがい程度と推測されています。

●市内の分布：2018年に市内での繁殖例があることや、周辺地域でも観察例があることから、ごく少数が生息している可能性があります。よく分かっていません。

●減少要因：生息地の開発や里山の手入れ不足による生息地の減少のほか、越冬地である東南アジアの生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 25, 28, 32, 36, 169



4 爬虫類



■ レッドリスト改訂の概要（爬虫類）

カテゴリーに変更があった種はなく、新規追加は1種で、爬虫類のレッドリスト種は計3種になりました。表3-8にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

新規追加した種は山地帯の森林に生息するタカチホヘビで、新たに市内での生息が確認されたことから情報不足として選定されました。

選定されたいずれの種も市内の生息情報に乏しく、引き続き生息情報の収集が求められます。

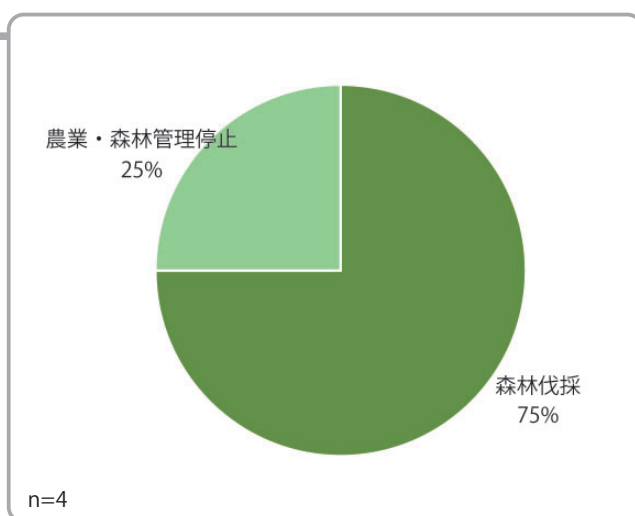
表 3-8 爬虫類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	0	0	絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	0	0	絶滅危惧Ⅰ類に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	0	0	絶滅危惧Ⅱ類に該当する種は選定されませんでした。
準絶滅危惧 (NT)	0	0	準絶滅危惧に該当する種は選定されませんでした。
情報不足 (DD)	2	3	山地帯の森林に生息するタカチホヘビを新たに選定しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された爬虫類の主な減少要因としては、森林伐採が多くを占めるほか、農業形態の変化も挙げられます。

情報が少ないことから、市内における減少の程度を判断することが難しく、生息状況の実態把握が課題です。



爬虫類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（爬虫類）

改訂にあたっては、市内で記録の少ない爬虫類の生息状況を把握するため、情報収集や現地調査を実施しました。ここでは2種のヘビ類（タカチホヘビとシロマダラ）の確認状況について紹介します。

● タカチホヘビの確認

タカチホヘビは森林の林床に生息する小型のヘビの仲間です。夜行性であることや、日中は落ち葉や石の下に隠れることなどから、目にする機会が少なく、これまで安曇野市での記録はありませんでした。今回の改訂にあたっての文献調査で、2021年に烏川流域で確認されていることが分かりました。また、2023年の現地調査では黒沢流域で立て続けに2匹が確認されました。記録が少ないことから、個体数が多くないことが推察されますが、増減を判断できる情報が得られていないことから、情報不足（DD）として新たにレッドリストへ追加しました。



黒沢で確認されたタカチホヘビ

● シロマダラの情報

シロマダラは森林に生息するヘビで、夜行性であることから、タカチホヘビと同様に記録の少ない種です。しかし、一般の方にも分かりやすい特徴的な模様をしていることから、今回の改訂では市民への情報提供を呼びかけました。その結果、2022年に穂高で撮影された画像が寄せられました。近年の確認はこの1例のみで、個体数の増減は不明であるため、2014年版に引き続き、情報不足（DD）としました。



特徴的な模様のシロマダラ

■ 新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の215ページを参照してください。

タカチホヘビ (トカゲ目 タカチホヘビ科) *Achalina spinalis*



濱田竜輔

生息環境



森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：情報不足

DD

環境省：

—

—

●特徴：全長30～60cm。体は明るい褐色または暗い褐色で、背中に1本の筋があります。主にミミズを食べます。

●生育環境：山地帯の森林に生息します。夜行性で、日中は石や落ち葉の下に隠れています。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：市内の山地帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 178, 190

5 両生類



■ レッドリスト改訂の概要（両生類）

カテゴリーに変更があった両生類は1種、新規追加は1種で、両生類のレッドリスト種は計7種になりました。表3-9にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

トウキョウダルマガエルは近縁種との交雑が進んでいることから、準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類へカテゴリーが上昇しました。また、市内での生息が新たに確認されたモリアオガエルを情報不足として新規追加しました。

全体としては絶滅危惧Ⅱ類が1種、情報不足が1種増加する結果となりました。

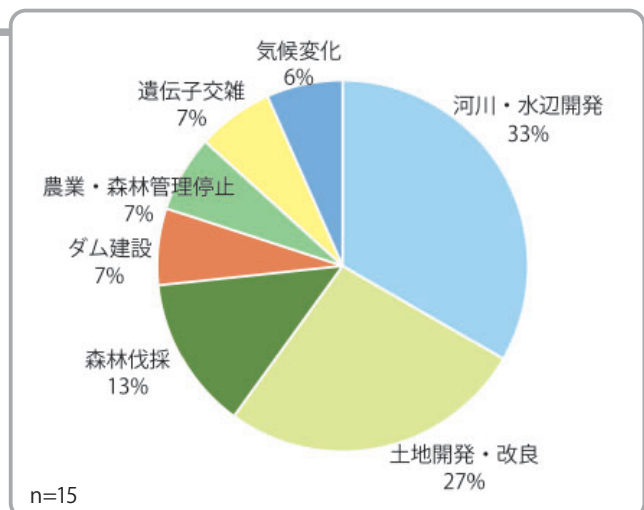
表 3-9 両生類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	0	0	絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	0	0	絶滅危惧Ⅰ類に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	1	2	トウキョウダルマガエルをカテゴリーを上げて選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	5	4	変更の生じた種はありませんでした。
情報不足 (DD)	0	1	山地帯に生息するモリアオガエルを新たに選定しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された両生類の主な減少要因としては、開発に伴う生息環境の喪失が多くを占めるほか、農業の形態の変化による里山環境の変化が挙げられます。

今回の改訂ではトウキョウダルマガエルのカテゴリーが上昇しましたが、これは近縁種トノサマガエルとの交雑が進んで、純系の個体が減少しているためです。



両生類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（両生類）

両生類では、市内での分布が初めて確認された種や、近年の研究によって2種に分けられた種が見られました。

●モリアオガエルの初確認

モリアオガエルは森林に生息するカエルです。安曇野市の近隣地域では、大町市や松本市奈川に生息地がありますが、これまで市内での確認例はありませんでした。

今回の改訂にあたって、市内の生きものの情報を集めていたところ、2022年の環境フェアの来場者から、モリアオガエルの卵塊と考えられる写真が寄せられました。そこで、2023年に現地を確認したところ、2か所の水場で複数の卵塊と成体を確認することができました。

南信地方では、近年の分布が拡大していることが報告されており、安曇野市でも近隣地域から広がってきた可能性があります。一方で、全国的には人為的に移入された事例もあることから、自然分布ではない可能性もあります。改訂版のレッドリスト2024では情報不足（DD）としましたが、今後の分布がどのように広がるかを調べることが重要です。



モリアオガエルの成体

●ツチガエルの分類の見直し

ツチガエルは水田や河川に生息するカエルで、安曇野市版レッドリスト2014では絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されていました。近年の研究から、松本盆地のツチガエルはツチガエルとムカシツチガエルの2種に分けられました。改訂にあたり、市内で見つかった個体を遺伝子解析したところ、ムカシツチガエルであることが分かりました。しかし、市内の分布にはまだ不明な点が多いことから、レッドリストでは両種を区別せずにツチガエル類として扱いました（コラム4 p.154 参照）。

■新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の219～220ページを参照してください。

モリアオガエル（カエル目 アオガエル科） *Zhangixalus arboreus*



生息環境



森林
湿地



池沼

安曇野市：情報不足

DD

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：

—

—

●特徴：全長4～8cm。体の色は緑色で、地域によっては赤褐色の斑紋が見られます。池や水たまりの上の枝に、白い泡状の卵塊を産みます。「コロロ、コロロ」と高い声で鳴きます。

●生育環境：山地帯の森林に生息します。

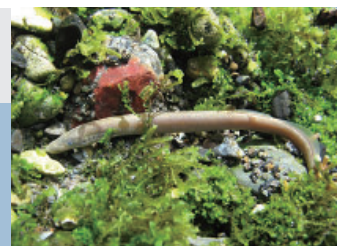
●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2022年に明科の山地で初めて確認されました。

●減少要因：繁殖場所となる湿地の開発が考えられます。

参考文献 No. 190

6 魚類



■ レッドリスト改訂の概要（魚類）

カテゴリーに変更、追加があった魚類はありませんでしたが、従来は1種として扱っていたスナヤツメを2種に分けて記載したため、魚類のレッドリスト種は計12種になりました。表3-10にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

近年の分類では、スナヤツメは北方種と南方種の2種に分けられるため、カテゴリーは準絶滅危惧 (NT) のまま、それぞれを別の2種として扱いました。

全体としてはカテゴリーや種数にほとんど変化がない結果となりました。

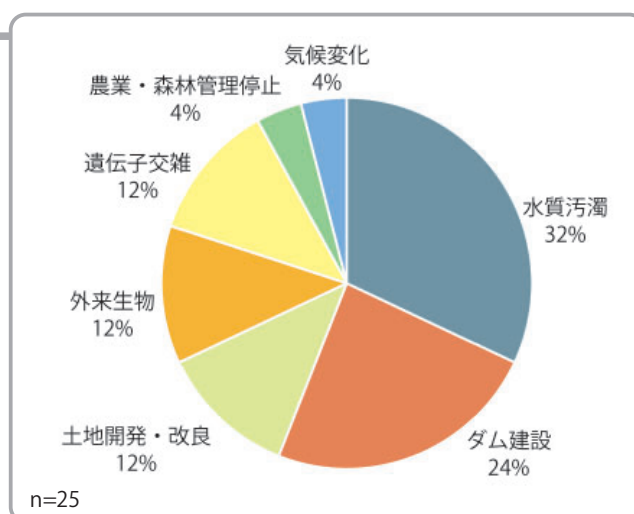
表 3-10 魚類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	0	0	絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	3	3	変更の生じた種はありませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	1	1	変更の生じた種はありませんでした。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	2	2	変更の生じた種はありませんでした。
準絶滅危惧 (NT)	4	5	最新の分類に従い、従来のスナヤツメを北方種と南方種の2種に分けて記載しました。
情報不足 (DD)	1	1	変更の生じた種はありませんでした。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された魚類の主な減少要因としては、水質汚濁やダム建設が大きな割合を占めますが、外来種による捕食や競合、遺伝子交雑による影響も挙げられます。

今回の改訂ではカテゴリーの上昇や追加はありませんでしたが、気候変動に伴う出水規模の増大などで河川環境の変化は続いているため、その動向を注視していく必要があります。



魚類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（魚類）

今回の改訂にあたり、魚類の捕獲調査を市内の5か所（犀川本川、御宝田遊水池、会田川など）で実施しました。調査により、確認された魚類は16種類で、安曇野市版レッドリスト2014に掲載されているスナヤツメ類やアカザ、カジカ、ホトケドジョウなども確認されました。一方で外来種のブラウントラウトも確認されました。

この現地調査の結果や、近年の調査記録をもとに、レッドリストの改訂を行いました。

● 湧水環境に生息する魚類

安曇野市内における特徴的な環境として、湧水環境が挙げられます。

湧水の環境に生息する魚類として、ホトケドジョウ、スナヤツメ類を確認しました。

しかしながら、近年の土地利用の変化や水路の改修工事などの環境改変により、両種が生息できる場所、環境は、年々減少していると思われ、保全のための取り組みも必要であると考えられます。

また、湧水の環境には、ブラウントラウト、ウチダザリガニ、カワリヌマエビといった外来生物の生息もみられており、それらの生息動向にも留意していくことが大切になります。

● 種の分類が進んだ魚類

現地調査でも確認したスナゴカマツカは、2019年に新種とされた魚です。Tominaga and Kawase (2019)の研究により、これまでカマツカとされていたものが、遺伝的な解析や形態の精査を行った結果、カマツカ、ナガレカマツカ、スナゴカマツカの3種に分けられました。

スナゴカマツカは、フォッサマグナよりも東側の本州に分布しているとされています。スナゴの名前は、体に多くの小黑斑があり、それらの間にある鱗が金や銀に光って見えることから名づけられました。



ホトケドジョウ



スナヤツメ類



スナゴカマツカ

7 昆虫類



■ レッドリスト改訂の概要（昆虫類）

カテゴリーに変更があった昆虫類は45種、新規追加は61種で、昆虫類のレッドリスト種は計304種になりました。表3-11にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

カテゴリーが上昇した種、新規追加した種には草地性の種が多く、特にチョウ類やガ類に多い傾向が見られました。絶滅種は9種増加しました。このうち、市内に2亜種の記録があるアサマシジミについては、それらを区別して掲載することとし、それぞれの生息状況を整理したところ、中部低地帯亜種は過去50年以上記録がないことが分かったため絶滅種に選定しました。

全体では、全てのカテゴリーで種数が増加し、絶滅のおそれの高い種が増加した結果となりました。

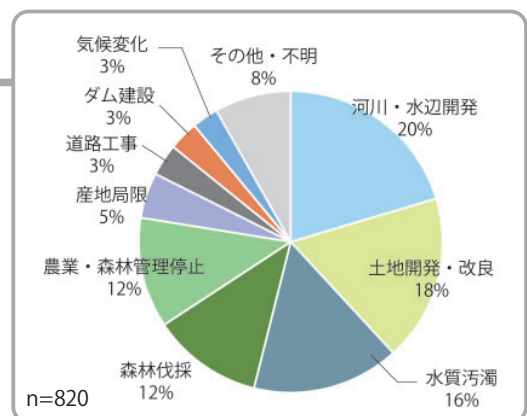
表 3-11 昆虫類レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	7	16	ハッチョウトンボ、ホシチャバネセセリ、アサマシジミ中部低地帯亜種など新たに9種を選定しました。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	31	32	草地に生育するアカセセリやヒョウモンチョウといったチョウ類を中心に、11種の昆虫がカテゴリー上昇・新規追加されました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	61	71	ゲンゴロウなどの水生昆虫やミヤマシジミなどのチョウ類を中心に19種をカテゴリー上昇・新規追加しました。クロゲンゴロウなどの3種は記録が増えたため、CR + ENからカテゴリーを下げて選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	140	144	ヒメアカネやアイヌテントウなどの23種を新規追加しました。アオサナエとキマダラセセリはVUからカテゴリーを下げて選定しました。
情報不足 (DD)	13	41	タケウチエダシャクやオオクロバヤガなどのガ類を中心に27種を新規追加しました。また、記録の信頼度が低いシジミガムシなど3種をカテゴリー変更して選定しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定された昆虫類の主な減少要因としては、開発に伴う生息環境の喪失と並んで、里山の手入れ不足が挙げられます。

今回の改訂では草地や雑木林に生育する種でカテゴリーの上昇や新規追加が多く、里山環境の変化が進行していると考えられます。



昆虫類レッドリスト種の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（昆虫類）

今回の改訂では、新規の追加種として61種が選定されました。これらの種の中には、2014年以降の調査等によって、市内での生息が新たに確認された昆虫が含まれています。また、28種の昆虫が絶滅の危険が高まったとしてカテゴリーが上昇しました。絶滅リスクが高まった直接的な要因は種によって様々ですが、把握できる要因以外にも気候変動のような長期的かつ広域に及ぶ影響があると推察されます。

●これまで分布が確認されていなかった昆虫

新規追加種にはマルタンヤンマやマダラバッタ、ホソバセセリのように、既知の生息域からかなり離れて記録された種があります。いずれも市内では1か所のみの記録ですが、定着している可能性があります。このうち、マダラバッタは犀川沿いの草地でまとまった発生地が見つかりました。安曇野市だけでなく県内でも初記録の種であり、近隣にも生息地が無いことから、人間の活動によって運ばれてきた可能性も考えられます。また、ホソバセセリは県南部に分布している種ですが、安曇野市でも明科の山地で発見されました。温暖化で分布が北上した可能性もありますが、人間活動で運ばれた可能性も捨てきれません。

このような生物の分布の最先端では、自然に分布が拡大したのか、人為的な影響があるのか判断できない場合があります。その答えを知るためには、近隣地域も含めた今後の分布の移り変わりを追跡することが必要です。



マダラバッタ



ホソバセセリ

●把握が難しい気候変動の影響

昆虫類のカテゴリー上昇の背景としては、開発に伴う生息環境の喪失や、里山の手入れの縮小が大きな割合を占めています。しかし、それ以外に「因果関係がはっきりしないが、影響が推定される要素」として挙げられるのが猛暑や降雨量減少などの気候変動です。フィールドで観察を続けている多くの昆虫の専門家が、レッドリスト種に限らず、昆虫類全般が明らかに少なくなっているという印象を抱いており、その要因として気候変動が関係しているのではないかとされています。気候変動の影響は、一種一種の減少要因として目に見える形では現れずとも、安曇野市の生態系全体へ大きな影響を及ぼしているのかもしれない。昆虫類の減少が一時的なものなのか、今後も続くのか、継続して観察することで気候変動の影響を明らかにする必要があります。



気候変動の影響が懸念される高山帯

新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の229～312ページを参照してください。

シマシマクビボソジョウカイ (コウチュウ目 ジョウカイボン科) *Asiopodabrus shimashimanus*

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：

—

—

CR+EN

環境省：

—

—



雄の交尾器の拡大図

背側

腹側

小野寺宏文

生息環境



▶ 森林



●**特徴**：体長約7mm前後。ホタル科に近い仲間では体は柔らかいです。頭部背面が黒くて前半が黄褐色となります。前胸背板の模様には個体差があります。上翅と触覚、脚は黄褐色です。正確な種の同定にはオス交尾器の確認が必要です。

●**生育環境**：本種の生態はよく分かっていませんが、クビボソジョウカイ類の成虫は長野県内では5月中旬～6月中旬に、湿った林床の草本上や溪流周辺の花上で観察されます。幼虫期は不明ですが、湿った林床の落ち葉や石の下で他の昆虫などを捕食していると推測されます。

●**国内の分布**：本州中部に分布しており、長野県、岐阜県、京都府、奈良県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県などで記録があります。松本市の島々谷で発見されたことが名前の由来です。県内ではそのほかに木曽町での記録があります。

●**市内の分布**：2020年に黒沢川中流域で複数の個体が確認されています。

●**減少要因**：幼虫の生息環境と考えられる湿った林床のある林が、開発や森林伐採によって減少していることが挙げられます。

参考文献 No. 183

マルタンヤンマ (トンボ目 ヤンマ科) *Anaciaeschna martini*

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：

—

—



福本匡志

生息環境



▶ 湿地



▶ 池沼

●**特徴**：体長65～84mm。成熟すると雄はコバルトブルー、雌は緑色の複眼と斑紋をもちます。翅も成熟するにつれて褐色みを増します。成虫は6～9月に出現します。雌は単独で水辺の抽水植物の組織内に産卵します。

●**生育環境**：山麓部・平野部から山地帯の、樹林に囲まれた抽水植物の豊富な池沼や湿地、放棄水田に生息します。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：2020年代に三郷の山地帯で記録があります。もともと安曇野市に生息していたかどうかは不明です。今後の分布の動向に注目する必要があります。

●**減少要因**：湖沼などの生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 189

マダラヤンマ (トンボ目 ヤンマ科) *Aeshna soneharai*

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

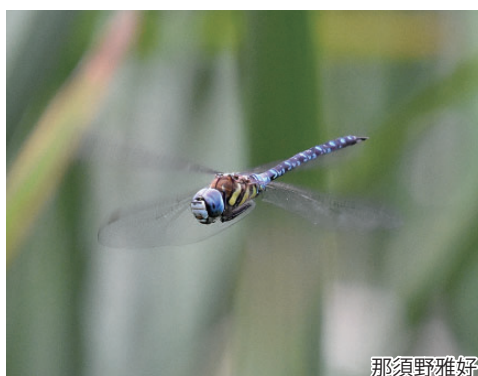
長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：準絶滅危惧

NT



那須野雅好

生息環境



▶ 湿地



▶ 池沼

●**特徴**：体長63～74mm。雄は成熟すると複眼と斑紋が青色になります。雌の複眼と斑紋は緑色と青色の二型があり、中間的な個体もあります。雌雄共に翅胸前面が淡褐色です。成虫は7～10月ごろに出現します。雌は単独で水面に浮いた枯死植物などに産卵します。

●**生育環境**：山麓部・平野部の背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼や河川敷に生息します。

●**国内の分布**：北海道から本州（中部地方以北）に分布します。

●**市内の分布**：1980年代に豊科で記録があります。

●**減少要因**：湖沼などの生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 19

マイコアカネ (トンボ目 トンボ科)
Sympetrum kunkeli

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

環境省：

—

—



那須野雅好

●**特徴**：体長29～40mm。胸部に小黑斑があり、雄の顔面は青白くなります。成虫は7～11月に出現します。連結態のままで打水産卵を行います。雌単独でも産卵します。

●**生育環境**：山麓部・平野部の抽水植物の繁茂する池沼や湿地、河川敷のよどみ、水田などに生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：豊科や三郷で記録があります。

●**減少要因**：湖沼、水田環境などの生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 18, 19, 22, 36, 52

生息環境



▶ 湿地
▶ 耕作地



▶ 河川
▶ 池沼

ハヤシオオカスミカメ (カメムシ目 カスミカメムシ科)
Pantilius hayashii

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

環境省：

—

—



イラスト

●**特徴**：体長約10mmと非常に大きな赤褐色のカスミカメムシです。背面は赤褐色で光沢は弱く、前胸背は褐色の小点刻が多く、後角部は突出します。前翅の縁がやや黄色く、楔状部はやや透けています。腹面は明るい黄色で、腹部の気門が黒く目立ちます。生時は触覚3節と4節の基部側が黄色でよく目立ちます。詳しい生態はよく分かっていませんが、成虫は9月～10月下旬に記録されており、成虫越冬すると考えられます。

●**生育環境**：山地帯の樹林に生息しています。偶然スーピングの網に入ったり、ライトトラップに飛来したりして記録されているのみで、寄主樹木や幼生期の情報は分かっていません。

●**国内の分布**：本州（関東地方、中部地方）に分布します。

●**市内の分布**：烏川流域で記録された雄が唯一の記録です。

●**減少要因**：産地が局限され、極めて個体数が少ないと考えられます。

参考文献 No. -

生息環境



▶ 森林



▶ 川河・水辺

マルガタゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)
Graphoderus adamsii

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU



斉藤雄太

●**特徴**：体長12～15mm。上翅は黒色の小斑点に密におおわれ、黄褐色の縁取りがあります。頭部と前胸背の後縁は黒色です。水中を泳ぎ、水生生物を捕食します。

●**生育環境**：山麓部・平野部の植物が豊富な池沼や水田、水たまりに生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：明科で少数が確認されています。

●**減少要因**：池沼、水田環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. -

生息環境



▶ 湿地



▶ 河川

トウカイクビボソジョウカイ (コウチュウ目 ジョウカイボン科)

Asiopodabrus tokaiensis

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

環境省：

—

—



雄の交尾器の
拡大図

腹側

背側

小野寺宏文

生息環境



▶ 森林



●**特徴**：体長約7mm。ホタル科に近い仲間では体は柔らかいです。背面は黒色と黄褐色の2色タイプですが個体差があります。頭部の前半、前胸背板の縁部、上翅の基部から会合部にかけて黄褐色となります。正確な種の同定にはオス交尾器の確認が必要です。

●**生育環境**：本種の生態はよく分かっていませんが、クビボソジョウカイ類の成虫は長野県内では5月中旬～6月中旬に、湿った林床の草本上や溪流周辺の花上で観察されます。幼虫期は不明ですが、湿った林床の落ち葉や石の下で他の昆虫などを捕食していると推測されます。

●**国内の分布**：本州に広く分布しており、三重県、長野県、愛知県、岐阜県、滋賀県、奈良県、和歌山県などで記録があります。長野県内では松本市の白骨温泉と安曇野市内の記録があります。

●**市内の分布**：2020年に黒沢川中流域で複数の個体が確認されています。

●**減少要因**：幼虫の生息環境と考えられる湿った林床のある林が、開発や森林伐採によって減少していることが挙げられます。

参考文献 No. 183

ニッポンハナダカバチ (ハチ目 ギンゲチバチ科)

Bembix niponica

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：情報不足

DD

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU



中田信好

生息環境



▶ 耕作地
▶ 裸地



▶ 河川

●**特徴**：体長20～23mm。体は黒色で黄白色の斑紋を持ちます。成虫は6～9月に出現し、砂地に好んで営巣します。成虫は幼虫に餌を運搬します。幼虫の食糧としてアブ類やハエ類が狩られます。

●**生育環境**：山麓部・平野部の河川敷や農地などに生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：2014年に堀金、2023年に穂高の公園の砂場で発見されています。

●**減少要因**：本来の生息地である河川などの砂地の減少が考えられます。

参考文献 No. -

コキマダラセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)

Ochlodes venatus venatus

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：

—

—

VU

環境省：

—

—



中田信好

生息環境



▶ 草原



●**特徴**：開長30～34mm。雄は翅が表裏共に橙色で前翅の縁が褐色、雌は翅表面が褐色で前翅に黄色の三角斑が見られます。年1回の発生で7～8月に出現します。幼虫はススキやヒカゲスゲなどを食べます。

●**生育環境**：山地帯の日当たりの良い草原に生息します。

●**国内の分布**：北海道から本州に分布します。

●**市内の分布**：東山では減少傾向が顕著です。西山の山地帯上部には安定した生息地があります。

●**減少要因**：里山の衰退や山地の森林化による草原環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 12, 19, 33, 52, 69

ヒラノコブガ (チョウ目 コブガ科)
Nola hiranoi

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：

—

—



イラスト

●特徴：開長16～18mm。前翅は黄褐色で外側が茶褐色です。近縁な種に似たものはいませんが、コヤガ類に似て見えるので注意が必要です。年1化で成虫は6～8月に見られています。食草はカシワで記録があります。記録や知見が少ない種です。

●生育環境：丘陵地、山地に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：1981年に豊科の記録があります。

●減少要因：情報が乏しく減少要因はよく分かっていませんが、寄主であるカシワの自生する森林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 154

生息環境



森林



ニセタバコガ (チョウ目 ヤガ科)
Heliocheilus fervens

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：情報不足

DD

VU

環境省：

—

—



田島尚

●特徴：開長30～32mm。外見が似た種はおらず、識別は容易です。オスは前翅に大きな発音器官を持ち、特異的な外見をしています。年2化と推測され、成虫は6月から9月に見られます。主に草原で見られ灯火採集で得られますが、ほかのタバコガ類と同様に日中も活動します。

●生育環境：草原、河川敷などの草地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：2015年、2017年に明科で確認されています。

●減少要因：荒地や草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 168

生息環境



草原



河川

ヒメアカネ (トンボ目 トンボ科)
Sympetrum parvulum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



中田信好

●特徴：体長28～38mm。翅胸前面に「ハ」字状の斑紋があります。成熟雄は顔面が白く、腹部が赤化し、成熟雌の腹部は赤褐色です。成虫は7～11月に出現します。連結態や雌単独で打泥産卵を行います。

●生育環境：山麓部・平野部の植物の密生した湿地や放棄水田に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：豊科、穂高、三郷、明科で記録があります。

●減少要因：ため池や水田などの生息地が開発などにより減少したことや、農薬などによる水質の悪化が考えられます。

参考文献 No. 7, 15, 19

生息環境



湿地



キノコゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)
Lioptera erytroides

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：

—

—



降旗進一郎

●特徴：体長約12mm。体は光沢の鈍い黒色で、上翅に黄赤色の斑紋が2対あります。上翅の条溝は浅いです。倒木に生えるキノコ類や、クヌギなどの樹液に集まります。

●生育環境：山麓部・平野部の二次林などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：2023年に明科の山麓部で記録があります。

●減少要因：森林の遷移の進行や、農地での過度な農業使用の影響を受けると考えられます。

参考文献 No.

-

生息環境



▶ 森林



ダイミョウアトキリゴミムシ (コウチュウ目 オサムシ科)
Cymindis daimio

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



岡島尚

●特徴：体長8～9mm。頭と胸は黒く、脚と触覚は赤褐色です。赤褐色の上翅は中央後半から「U」字に青藍色の紋が入ります。

●生育環境：山麓部・平野部の河原のヨシ原や乾燥した林、荒地などに生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：堀金の山麓部で記録があります。

●減少要因：河川開発や土地の造成、農業による影響が考えられます。

参考文献 No.

36

生息環境



▶ 森林

▶ 草原



▶ 河川

オオヒメゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)
Rhantus erraticus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



那須野雅好

●特徴：体長13～14mm。体は暗褐色で、眼間に黒色模様、前胸背中央には細長い黒色斑が存在します。上翅は細かい顆粒状斑に覆われ、体形は扁平です。主に水生生物を捕食します。

●生育環境：山麓部・平野部から山地帯の池沼や水田、水たまりに生息します。

●国内の分布：北海道から本州（山陽地方以北）に分布します。

●市内の分布：市内のため池などに見られます。

●減少要因：ため池などの生息環境の減少や悪化が考えられます。

参考文献 No.

-

生息環境



▶ 湿地



▶ 池沼

カバイロヒラタシデムシ (コウチュウ目 ハネカクシ科)
Oiceoptoma subrufum

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



降旗進一郎

●特徴：体長10～15mm。上翅は褐色から黒色まで変異が多いです。クロボシヒラタシデムシと似ますが、前胸上面に光沢のある黒斑がありません。成虫は6～8月に出現し、集まって腐肉を食べます。

●生育環境：山地帯から亜高山帯の林床に生息します。

●国内の分布：北海道から本州に分布します。

●市内の分布：北アルプスの亜高山帯を中心に生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息環境の悪化が考えられます。

生息環境



▶ 森林



参考文献 No. 36

ベッコウヒラタシデムシ (コウチュウ目 ハネカクシ科)
Necrophila brunnicollis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



中村寛志

●特徴：体長17～22mm。頭は黒く、前胸背は橙赤色で光沢があり、雄の方が濃い色をしています。上翅は黒褐色で、3条の縦隆が存在します。成虫は5～7月に出現し、集まって腐肉を食べます。

●生育環境：山麓部・平野部の林床に生息します。

●国内の分布：本州と四国に分布します。

●市内の分布：三郷や堀金の記録があります。近年では、2020年に三郷で記録されています。

●減少要因：動物の死体に集まりますが、シデムシの中では少ない種です。詳しい生態などは不明です。

生息環境



▶ 森林



参考文献 No. 35, 38, 40, 45, 52, 183

コカブトムシ (コウチュウ目 コガネムシ科)
Eophileurus chinensis chinensis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



矢花沙織

●特徴：体長18～26mm。体は黒色で、上翅には点刻列があります。雄には角が1本あり、前胸背の中央が凹みます。成虫は6～7月に出現し、朽ち木や樹洞の中にいます。

●生育環境：山麓部・平野部から山地帯の樹林に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：明科、三郷、豊科で確認されています。

●減少要因：幼虫の発生源である雑木の腐朽木の減少が考えられます。市役所の建物内で見つかったこともあり、生態上、不明なことが多い種でもあります。

生息環境



▶ 森林



参考文献 No. 44

ズミチビタマムシ (コウチュウ目 タマムシ科)
Trachys toringoi

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：

—

—



降旗進一郎

●**特徴**：体長3.5～3.7mm。体形はくさび型です。頭胸部には疎に金色の毛が生え、上翅は黒地に波打つような白い模様が入ります。頭盾の幅は長さの約1.35倍です。潜葉虫で、ズミなどの植物を食べます。

●**生育環境**：山地帯の食草のある林に生息します。

●**国内の分布**：本州と九州に分布します。

●**市内の分布**：市内の山麓部から山地帯の森林に生息しています。

●**減少要因**：産地が局所的であり、森林伐採や農薬の影響を受けると考えられます。

参考文献 No. 36

生息環境



▶ 森林



ミヤジマコガネコメツキ (コウチュウ目 コメツキシ科)
Selatosomus miyajimanus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



降旗進一郎

●**特徴**：体長12～13mm。体は光沢のある黒色で、上翅は縦筋があります。コガネコメツキと比べて前胸背の点刻がきわめて小型疎です。成虫は4～6月に出現します。

●**生育環境**：山麓部・平野部のアカマツ林に生息します。

●**国内の分布**：本州に分布します。

●**市内の分布**：明科や豊科の山地帯で確認されています。

●**減少要因**：マツ枯れによるアカマツ林の衰退が挙げられます。

参考文献 No. 6

生息環境



▶ 森林



サドクビボソジョウカイ (コウチュウ目 ジョウカイボン科)
Asiopodabrus bilineatus bilineatus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



雄の交尾器の拡大図

腹側

背側

小野寺宏文

●**特徴**：体長約7mm。ホタル科に近い仲間では体は柔らかいです。頭部背面が黒くて前半が黄褐色となります。前胸背板は黒くて側縁が黄褐色となる個体や、黄褐色部が広くなり1対の黒帯状となるものまで個体差があります。上翅と触覚、脚は黄褐色です。正確な種の同定にはオス交尾器の確認が必要です。

●**生育環境**：本種の生態はよく分かっていませんが、クビボソジョウカイ類の成虫は長野県内では5月中旬～6月中旬に、湿った林床の草本上や溪流周辺の花上で観察されます。幼虫期は不明ですが、湿った林床の落ち葉や石の下で他の昆虫などを捕食していると推測されます。

●**国内の分布**：本州に広く分布しています。佐渡島で発見され、中部地方、近畿地方などで記録があります。

●**市内の分布**：2020年に黒沢川中流域で複数の個体が確認されています。

●**減少要因**：幼虫の生息環境と考えられる湿った林床のある林が、開発や森林伐採によって減少していることが挙げられます。

参考文献 No. 183

生息環境



▶ 森林



アイヌテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)
Coccinella ainu

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT	環境省：—	—



●特徴：体長4～6mm。頭部は黒く、上翅は暗赤色の地色に円い黒色紋が11個あります。成虫は6～10月に出現し、アブラムシ類を捕食します。

●生育環境：山麓部・平野部の河原や林内に生息します。

●国内の分布：北海道と本州に分布します。

●市内の分布：堀金、豊科、穂高で記録があるほか、2023年には明科で発見されています。

●減少要因：開けた河川環境を好むため、護岸の森林化などの影響が考えられます。

参考文献 No. 35, 58, 167

生息環境



河川

ホンドヒメシラオビカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)
Pogonocherus fasciculatus hondoensis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：—	—
NT	環境省：—	—



●特徴：体長5.5～6.5mm。体色は赤褐色で、上翅には白い斑紋があり、奇主植物であるアカマツの樹皮によく溶け込みます。

●生育環境：山麓部・平野部から山地の松林に生息します。

●国内の分布：本州と四国に分布します。

●市内の分布：穂高のアカマツ林などに生息しています。

●減少要因：マツ枯れによるアカマツ林の衰退が挙げられます。

参考文献 No. -

生息環境



森林



ヨツボシアカツツハムシ (コウチュウ目 ハムシ科)
Coptocephala orientalis

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：情報不足	DD
NT	環境省：—	—



●特徴：体長4～6mm。前胸と上翅などは橙赤色で、頭部や腹部、足は黒色です。上翅には2対の黒紋があります。成虫は6～8月に出現し、主にカワラヨモギを食べます。

●生育環境：山麓部・平野部の河原に生息します。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：2000年と2005年、2023年に犀川沿いの記録があります。

●減少要因：カワラヨモギの自生する河川環境の減少が考えられます。

参考文献 No. 44, 58

生息環境



河川

ウラキンシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)
Ussuriana stygiana

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



●**特徴**：開長32～34mm。翅表面は黒色～黒褐色、翅裏面は橙黄色～黄色で、後翅裏面の縁に橙色の斑があります。年1回の発生で6～7月に出現します。幼虫はモクセイ科の樹木の葉を食べます。

●**生育環境**：河畔林や溪谷沿いの斜面などの落葉広葉樹林に生息します。

●**国内の分布**：北海道から本州に分布します。

●**市内の分布**：2000年代以前に、三郷、豊科で記録があります。

●**減少要因**：里山の荒廃、二次林の高木化などによる生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 12, 33, 52

生息環境



森林



ハヤシミドリシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)
Favonius ultramarinus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

—

NT

環境省：

—

—



●**特徴**：開長約34mm。翅表面は、雄は青みを帯びた金緑色で、雌は褐色で前翅に灰色斑があります。類似種とは翅裏面の中央の白条が太く、縁取りが不明瞭な点などから識別されます。年1回の発生で、7～9月に出現します。幼虫はカシワを食べます。

●**生育環境**：高原のカシワ疎林に多く生息します。

●**国内の分布**：北海道、本州、九州に生息します。

●**市内の分布**：東山のカシワ林に生息しています。

●**減少要因**：里山の荒廃、二次林の高木化などによる生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 12, 19, 33, 59

生息環境



森林



カラスシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)
Fixsenia w-album fentoni

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：

—

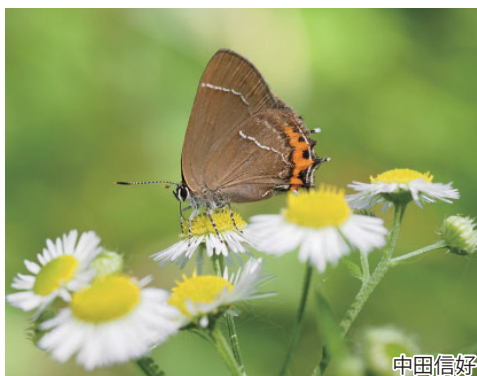
—

NT

環境省：

—

—



●**特徴**：開長約29mm。翅表面は黒褐色、裏面は茶褐色で後翅の肛角部付近に橙斑があります。後翅裏面の白線が「m」字状になる点などで類似種と識別されます。年1回の発生で、6～7月に出現します。幼虫はハルニレなどを食べます。

●**生育環境**：川沿いの樹林や山間の溪谷に生息します。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：2000年代以前に、三郷、明科で記録があります。

●**減少要因**：里山の荒廃、二次林の高木化などにより、ハルニレの自生する森林が暗くなるなどの生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 18, 33, 52, 59

生息環境



森林



ヒメシジミ (チョウ目 シジミチョウ科)
Plebejus argus micrargus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：留意種

N

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



中田信好

●特徴：開長22～28mm。翅表面は雄が淡青色、雌が淡褐色です。年1回の発生で、6～7月に出現します。幼虫はキセルアザミやオオイタドリなど、多くの科の植物を食べます。

●生育環境：林縁や農地周辺、河川敷、湿地などに生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。市内に生息するものは本州・九州亜種になります。

●市内の分布：西山の山地帯や山麓の草原環境に生息しています。近年、急速に個体数を減らしています。

●減少要因：森林化による草原の減少などが考えられます。

参考文献 No. 12, 18, 33, 35, 36, 52, 63, 69

生息環境



河川

コヒョウモン (チョウ目 タテハチョウ科)
Brenthis ino tigroides

安曇野市：準絶滅危惧

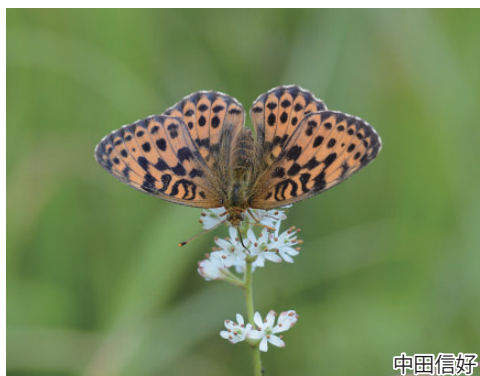
長野県：—

—

NT

環境省：—

—



中田信好

●特徴：開長約55mm。翅表面は橙色に黒斑がありますが、雌の方が橙色が淡いです。ヒョウモンチョウと酷似しています。年1回の発生で7～8月に出現します。幼虫はオニシモツケなどを食べます。

●生育環境：山地帯溪流沿いや林縁、山間の湿地などに生息します。

●国内の分布：北海道と本州（中部地方以北）に分布します。

●市内の分布：西山の山地帯から亜高山帯の溪流沿いに生息しています。

●減少要因：砂防事業などにより護岸の植生遷移が進んで河川環境が暗くなったことにより、オニシモツケが減少したことが考えられます。

参考文献 No. 12, 15, 18, 33, 36, 52, 69, 164, 175

生息環境



ギンボシヒョウモン (チョウ目 タテハチョウ科)
Speyeria aglaja fortuna

安曇野市：準絶滅危惧

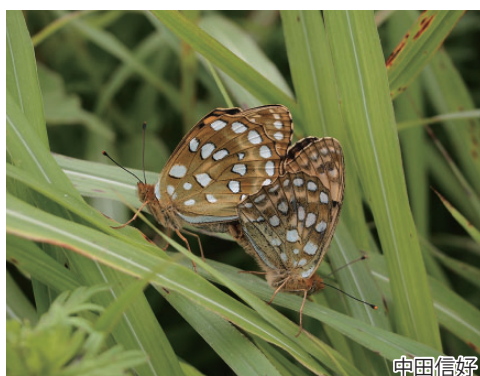
長野県：—

—

NT

環境省：—

—



中田信好

●特徴：開長59～63mm。翅表面は橙色に黒斑があり、裏面は後翅に銀白色の斑紋が散らばっています。類似種とは黒斑や銀白色の斑紋から識別されます。年1回の発生で、7～9月に出現します。幼虫はイブキトラノオなどを食べます。

●生育環境：山地の草原に生息します。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。市内に生息するものは本州亜種になります。

●市内の分布：旧町村全てで記録がありますが、現在、確実な生息地は見当たりません。

●減少要因：里山の荒廃などによる良好な草原環境の減少が考えられます。

参考文献 No. 12, 15, 18, 19, 33, 52, 59, 175

生息環境



オオムラサキ (チョウ目 タテハチョウ科)
Sasakia charonda charonda



那須野雅好

生息環境



森林



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：留意種

N

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長約90mm。翅表面は黒褐色で中央に白斑があり、雄では基半部が青色に輝きます。成虫は日中、クヌギやコナラの樹液によく集まります。年1回の発生で、7～8月に出現します。幼虫はエノキを食べます。

●生育環境：里山の雑木林や河畔林、山地のブナ林などに生息しています。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：東山の雑木林に生息しています。西山でも少数の発生が見られます。

●減少要因：里山の荒廃、二次林の高木化などによる生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No. 11, 19, 21, 33, 35, 38, 52, 59, 63, 67, 169, 170 など

トビスジャエナミシャク (チョウ目 シャクガ科)
Philereme transversata japanaria



安西稔

生息環境



森林



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：情報不足

DD

環境省：—

—

●特徴：開長31～34mm。クモオビナミシャクに似ますが、前翅頂からの黒色の車線が無い点で区別できます。成虫は7～8月に山地で稀に得られます。近縁種と同様にクロウメモドキ科を食草としています。

●生育環境：山地に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2017年に明科で確認されています。

●減少要因：寄主であるクロウメモドキが自生する森林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 59, 168

ホシヒメセダカモクメ (チョウ目 ヤガ科)
Cucullia fraudatrix



岡島尚

生息環境



草原



河川

安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：留意種

N

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長33～38mm。内横線は明瞭で、外縁付近に黒条があります。年1化で成虫は8～9月に見られます。ヨモギ類を食草とし、草原で得られます。

●生育環境：草原、河川敷などの草地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：2015年、2022年三郷で確認されています。

●減少要因：荒れ地や草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 22, 52

ミスジキリガ (チョウ目 ヤガ科)
Jodia sericea



岡島尚

生息環境



▶ 森林



安曇野市：準絶滅危惧

NT

長野県：留意種

N

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長32～35mm。特徴的な見た目で識別は容易です。年1代で成虫で越冬し、10～4月ごろまで見られます。食草はカシワ、クヌギ、アラカシで記録があり、雑木林に生息しますが産地はやや局地的です。灯火採集ではほとんど得られず、主に糖蜜採集で得られます。

●生育環境：雑木林などの二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：2010年頃、豊科で確認されています。

●減少要因：生息地である雑木林や二次林の開発、植生遷移の進行が考えられます。

参考文献 No.

-

キトンボ (トンボ目 トンボ科)
Sympetrum croceolum



中田信好

生息環境



▶ 湿地



▶ 池沼

安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：体長37～47mm。体に明瞭な斑紋はなく全体が褐色で、翅も大部分が橙黄色です。成虫は7～12月に出現します。連結態のまま一度打水し、卵を含んだ水滴を泥などに打ち付けます。雄の警護飛翔を伴って雌単独で産卵することもあります。

●生育環境：山麓部・平野部の透明度の高い池沼で、岸辺が露出した環境を好みます。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

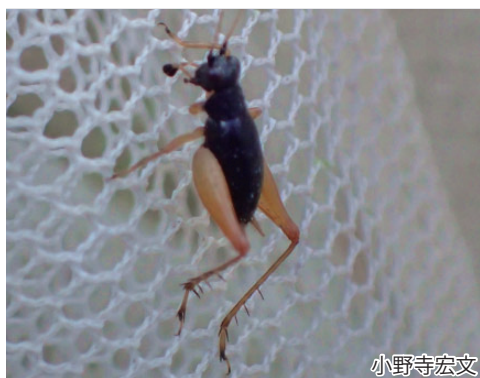
●市内の分布：2016年に明科で確認されているほか、2000年代以前に豊科での記録があります。

●減少要因：湖沼などの生息環境の悪化が考えられます。

参考文献 No.

15, 19

キアシヒバリモドキ (バッタ目 ヒバリモドキ科)
Trigonidium japonicum



小野寺宏文

生息環境



▶ 草原



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：体長5.4～6.1mm。体は黒く、脚は明るい黄褐色でよく目立ちます。翅には発音器がないので鳴かないとされていましたが、体の振動を止まっている草などに伝えて信号を送っていることが分かりました。幼虫で越冬し、初夏に成虫になります。

●生育環境：山麓部・平野部の草地などに生息します。草丈の低い草地にも生息しますが、ススキ原の根ざわに止まっていることも多いです。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。長野県内では広い範囲で記録されていますが、いずれも個体数が少ないです。

●市内の分布：2020年に黒沢川中流域で確認されています。市内に広く分布している可能性がありますが、生息情報が不足しています。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。

参考文献 No.

183

マダラバッタ (バッタ目 バッタ科)
Aiolopus thalassinus tamulus



那須野雅好

生息環境



▶ 草原
▶ 裸地



▶ 河川

安曇野市：情報不足

長野県：

—

—

DD

環境省：

—

—

●特徴：体長24～36mm。体は緑色～褐色とさまざまな色彩変異があります。後脛節は赤、青、黒のまだら模様で、前翅は細く後翅は暗褐色です。成虫は8～11月に出現します。

●生育環境：山麓部・平野部の河原や裸地に生息します。

●国内の分布：本州から九州、その他離島に分布します。

●市内の分布：2023年に明科の犀川河川敷で発見されました。

●減少要因：県内での記録が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。全国では増えるケースもあるため、今後の動向を注視する必要があります。

参考文献 No. 52

クロズジュウジアトキリゴミシ (コウチュウ目 オサムシ科)
Lebia cruxminor cruxminor



矢花沙織

生息環境



▶ 森林
▶ 草原



▶ 川河・水辺

安曇野市：情報不足

長野県：準絶滅危惧

NT

DD

環境省：

—

—

●特徴：体長6～7mm。全体に光沢が強く、頭部は黒色です。上翅は赤色で黒色の十文字の模様が入ります。

●生育環境：山地帯の明るい草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州、南西諸島に分布します。

●市内の分布：2023年に明科の山麓部で確認されています。

●減少要因：情報が少なく生息状況や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。

参考文献 No. -

クリサキテントウ (コウチュウ目 テントウムシ科)
Harmonia yedoensis



イラスト

生息環境



▶ 森林



▶ 川河・水辺

安曇野市：情報不足

長野県：

—

—

DD

環境省：

—

—

●特徴：体長5～8mm。個体によって様々な模様があり、その模様は近縁なナミテントウと酷似します。ナミテントウとの識別には、顕微鏡を用いて交尾器の形を確認する必要があります。マツ類の樹上に生息し、アブラムシ類を捕食します。

●生育環境：山麓部・平野部から山地の松林に生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州、南西諸島に分布します。

●市内の分布：2017年に東山のアカマツ林で発見されました。

●減少要因：アカマツ林などに局所的に生息します。長野県内では各地に記録があるものの正確な分布は不明です。

参考文献 No. 166

ミセンヒメハナカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)
Pidonia misenina

安曇野市：情報不足

長野県：

—

—

DD

環境省：

—

—



丸山隆

●**特徴**：体長8.5～11.5mm。オスは前胸の斑紋に特徴があります。ノリウツギやナナカマドなどに訪花することが知られていますが、寄主植物は分かっていません。

●**生育環境**：山地帯から亜高山帯にかけての森林に生息します。

●**国内の分布**：本州（中部地方・近畿地方）の一部の山地に生息します。

●**市内の分布**：三郷の山地帯でのみ生息が確認されています。

●**減少要因**：生息地が極めて限られているため、環境の変化による影響を受けやすいと考えられます。

参考文献 No.

-

生息環境



森林



ナミルリモンハナバチ (ハチ目 ミツバチ科)
Thyreus decorus

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：情報不足

DD



中田信好

●**特徴**：体長10～14mm。体は全体的に黒色で、羽状毛は鮮やかな青色です。頭眉は高く隆起します。成虫は7～10月に出現します。スジボソフトハナバチなどに労働寄生すると考えられています。

●**生育環境**：山麓部・平野部の林縁や林床などに生息します。

●**国内の分布**：本州から九州、その他離島に分布します。

●**市内の分布**：2021年に堀金で確認されています。

●**減少要因**：他種のハナバチの巣に寄生する特異な生態を持ちます。寄主の生息状況に左右されると考えられます。

参考文献 No.

-

生息環境



森林



ルリハダホソクロバ (チョウ目 マダラガ科)
Rhagades pruni esmeralda

安曇野市：情報不足

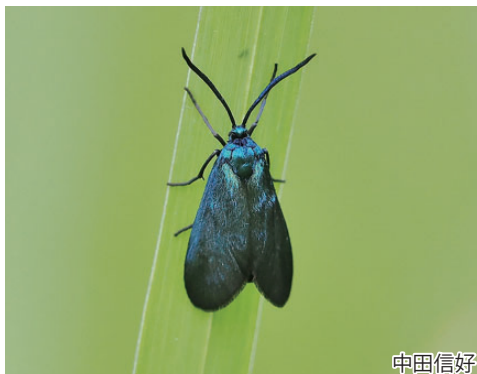
長野県：情報不足

DD

DD

環境省：準絶滅危惧

NT



中田信好

●**特徴**：開長17～22mm。オスの触角は櫛歯状で、メスは糸状。ホソクロバ類の中では翅の青みと光沢が強く、一見して判別しやすい種です。低地では6月、山地では7～8月に成虫が見られます。

●**生育環境**：草原、河川敷などの草地に生息します。

●**国内の分布**：本州、九州に分布します。

●**市内の分布**：2015年、2023年に明科で記録があります。

●**減少要因**：草原や河川敷などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No.

-

生息環境



草原



河川

ホソバセセリ (チョウ目 セセリチョウ科)
Isoteinon lamprospilus lamprospilus



生息環境



▶ 草 原



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長30～35mm。翅の表は黒褐色で白斑があり、裏は黄土色で黒縁のある白斑があります。幼虫はススキやカリヤスを食草とします。

●生育環境：山麓部・平野部の森林に接した草地に生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：2022年に明科で発見されました。

●減少要因：県の北限生息地から大きく離れているため、今後の動向を注視する必要があります。

参考文献 No.

-

チョウセントガリバ (チョウ目 カギバガ科)
Tethea ocularis tanakai



生息環境



▶ 森 林



▶ 河 川

安曇野市：情報不足

DD

長野県：情報不足

DD

環境省：

—

—

●特徴：開長37～39mm。オオバトガリバなどの近縁種に比べて横線が明瞭で、外横線が外側に大きく湾曲する点で区別できます。成虫は6月と8月に山地の峡谷や盆地の河川敷などで得られます。ヨーロッパではヤマナラシ属を食草としている記録があり、国内でもヤマナラシや野生化したボブラなどを食草としている可能性があります。

●生育環境：山地の峡谷、河川敷に生息します。

●国内の分布：本州に分布します。

●市内の分布：2020年に穂高の河川敷で確認されています。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。

参考文献 No.

168

フチグロシロヒメシャク (チョウ目 シャクガ科)
Scopula ornatasubornata



生息環境



▶ 草 原



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長約22mm。似た種の多い仲間ですが、はっきりした黒の外横線と、純白色の地色が特徴的で比較的識別は容易です。化性は不明ですが、6月と8月に記録があります。シソ科やキク科の草本を食草とし、亜高山帯で得られます。

●生育環境：山地帯上部から亜高山帯の草原に生息します。

●国内の分布：本州、九州に分布します。

●市内の分布：豊科で記録があります。

●減少要因：草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No.

153

ムツテンナミシャク (チョウ目 シャクガ科)
Catarhoe yokohamae



田島尚

生息環境



▶ 草原



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長19～23mm。特徴的な外見で識別は容易です。年1化で成虫は7～8月に見られます。食草は未知ですが、草原環境で得られます。産地は局地的ですが、生息地での個体数は少なくありません。

●生育環境：草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：豊科、明科で記録があります。

●減少要因：草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 153

タケウチエダシャク (チョウ目 シャクガ科)
Biston takeuchii



田島尚

生息環境



▶ 森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長62～80mm。特徴的な見た目で識別は容易です。分布は広いですが、産地は局地的です。成虫は4月に見られます。食草は不明ですが、広食性ではないかと推測されています。

●生育環境：丘陵地に生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：2004年に三郷で記録があります。

●減少要因：生息地である森林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 52, 155

ギンボシシャチホコ (チョウ目 シャチホコガ科)
Rosama cinnamomea



田島尚

生息環境



▶ 森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：

—

—

●特徴：開長28～29mm。トビギンボシシャチホコにやや似ますが、前翅前縁部が暗くなる点などで容易に識別できます。年2化で成虫は6～7月と8～9月に見られます。ヌスビトハギを食草とし雑木林や伐採跡地などで得られますが、稀です。

●生育環境：明るい雑木林や伐採跡地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：明科で記録があります。

●減少要因：山間部の草地などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 156

スゲドクガ (チョウ目 ドクガ科)
Laelia coenosa sangaica

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：準絶滅危惧

NT



四方圭一郎

生息環境



▶ 湿地



▶ 河川

●**特徴**：開長31～40mm。スゲオドクガと酷似し本種の方が翅の幅が狭い点で識別が可能ですが、厳密な同定には交尾器の観察が必要です。年2化で、成虫は5～6月と8～9月に見られます。カヤツリグサ科やガマ科、イネ科などの湿地性の草本を食草とし、成虫も湿地周辺の灯火採集などで得られることが多いです。

●**生育環境**：湿地に生息します。

●**国内の分布**：北海道、本州に分布します。

●**市内の分布**：明科で記録があります。

●**減少要因**：湿地や河川敷などの生息地が開発や宅地化で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 156, 167

ミカボコブガ (チョウ目 コブガ科)
Meganola mikabo

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：準絶滅危惧

NT



田島尚

生息環境



▶ 森林



▶ 川河・水辺

●**特徴**：開長19～27mm。外見が似た種が多いため、識別には慎重を期す必要があります。年1化と推測され、成虫は8月に記録があります。カシワを食草とします。

●**生育環境**：丘陵地に生息します。

●**国内の分布**：北海道、本州、九州に分布します。

●**市内の分布**：豊科で記録があります。

●**減少要因**：寄主であるカシワが自生する森林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 156

オオクロバヤガ (チョウ目 ヤガ科)
Euxoa adumbrata

安曇野市：情報不足

長野県：—

—

DD

環境省：—

—



安西稔

生息環境



▶ 森林
▶ 草原



▶ 川河・水辺

●**特徴**：開長40～45mm。特徴的な外見で識別は容易です。年1化で、成虫は主に5月と9～10月に見られます。低標高域で羽化し、高山に移動し越冬したのち、秋に山地に戻る生態をしていると推測されています。食草はタンポポやタデなどの草本植物です。稀で非常に得難い種です。

●**生育環境**：山地の峡谷、高山帯に分布します。

●**国内の分布**：本州に分布します。

●**市内の分布**：2023年に明科で確認されています。

●**減少要因**：生活史の一部で高山帯を利用することから、気候変動の影響が懸念されます。

参考文献 No. -

ムラサキハガタヨトウ (チョウ目 ヤガ科)

Blepharita amica ussuriensis

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：

—

—



那須野雅好

●特徴：開長約45mm。特徴的な外見で識別は容易です。年1化で成虫は10～11月に見られます。草原性で灯火採集や糖蜜採集で得られますが、産地は局地的で稀です。

●生育環境：草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：1963年に豊科、2014年に明科、2016年に穂高の記録があります。

●減少要因：荒れ地や草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 19, 163

生息環境



▶ 草 原



ショウブオオヨトウ (チョウ目 ヤガ科)

Helotropha leucostigma

安曇野市：情報不足

長野県：

—

—

DD

環境省：

—

—



岡島尚

●特徴：開長32～42mm。斑紋の変異が非常に大きく、識別には注意が必要です。前翅の後縁がわずかにくぼむ特徴的な翅型をしています。年1化で、成虫は7～9月に見られます。イネ科やカヤツリグサ科の草本を食草とし、湿地や湿生草地で見られることが多いですが、林内でも得られます。

●生育環境：山地の沢沿い、湿地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国に分布します。

●市内の分布：2017年に明科で確認されています。

●減少要因：湿地や河川敷などの生息地が開発や宅地化で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 58, 168

生息環境



▶ 森 林
▶ 草 原
▶ 湿 地



▶ 河 川

ヒメトガリヨトウ (チョウ目 ヤガ科)

Gortyna basalipunctata

安曇野市：情報不足

長野県：

—

—

DD

環境省：

—

—



岡島尚

●特徴：開長30～38mm。斑紋はゴボウトガリヨトウに似ますが、全体的に濃橙色を帯びることや、外縁が直線的な翅型をしている点で比較的容易に識別できます。年1化で成虫は8～9月に見られます。草原で灯火採集で得られますが、産地はやや局地的です。

●生育環境：草原に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、九州に分布します。

●市内の分布：1963年に豊科の記録があります。

●減少要因：草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 19, 151

生息環境



▶ 草 原



オオチャバネヨトウ (チョウ目 ヤガ科)
Nonagria puengeleri



安西稔

生息環境



▶ 草原
▶ 湿地



▶ 河川

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：開長35～52mm。特徴的な外見で識別は容易です。年1化で成虫は7～8月に見られます。ガマを食草とし、湿地で得られますが産地はやや局地的です。

●生育環境：湿地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：1959年に明科で記録があります。

●減少要因：湿地や河川敷などの生息地が開発や宅地化で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 6, 149, 152, 156

キスジウスキヨトウ (チョウ目 ヤガ科)
Capsula sparganii



那須野雅好

生息環境



▶ 湿地



▶ 河川

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：開長29～44mm。前翅の色合いには変異があります。腎状紋下部が黒で縁取られるのが特徴ですが、ガマヨトウやハガタウスキヨトウなどよく似た種がいるので識別には注意が必要です。年1化で成虫は6月下旬～9月に見られます。

●生育環境：湿地に生息します。

●国内の分布：北海道、本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：2015年に三郷で確認されています。

●減少要因：湿地や河川敷などの生息地が開発や宅地化で減少したことが考えられます。

参考文献 No. -

クマソオオヨトウ (チョウ目 ヤガ科)
Kumasia kumaso



四方圭一郎

生息環境



▶ 竹林



▶ 河川

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：—

—

●特徴：開長44～48mm。前翅は暗赤褐色で、腎状紋の外側が暗赤色になることが特徴です。年1化で成虫は6～8月に見られますが、発生地で成虫が見られる時期は短いと推測されます。ハチクやマダケなどのタケノコを食草とし、害虫としても知られています。

●生育環境：ハチクやマダケなどの竹林に生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：1958年に明科の記録があります。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。

参考文献 No. 6, 15, 150

フタホシヨトウ (チョウ目 ヤガ科)
Hoplodrina euryptera



四方圭一郎

生息環境



▶ 森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長32～36mm。特徴的な外見で識別は容易です。年1化で成虫は8～9月に見られます。食草は不明ですが、山地の沢沿いで、灯火採集で得られることが多いです。

●生育環境：山地の沢沿いに生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：堀金で確認されています。

●減少要因：情報が少ないため生息地や個体数の状況について詳しいことは分かっていません。

参考文献 No. 36, 168

トガリヨトウ (チョウ目 ヤガ科)
Virgo datanidia



田島尚

生息環境



▶ 草原



安曇野市：情報不足

DD

長野県：

—

—

環境省：

—

—

●特徴：開長23～27mm。外見はニセトガリヨトウに酷似し、本種は前翅の色が薄い特徴がありますが、同定には交尾器の検鏡が必要です。年1化で成虫は7～9月に見られます。食草は未知ですが、草原環境で得られます。

●生育環境：草原に生息します。

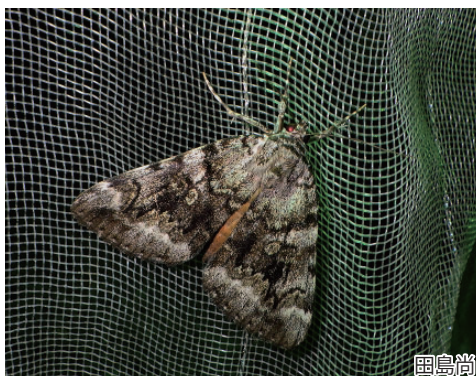
●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：2017年に明科で確認されています。

●減少要因：荒地や草原などの生息地が開発や遷移の進行で減少したことが考えられます。

参考文献 No. 168

ミヤマキシタバ (チョウ目 ヤガ科)
Catocala ella ella



田島尚

生息環境



▶ 森林



安曇野市：情報不足

DD

長野県：情報不足

DD

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：開長51～61mm。前翅は丸みを帯び、また緑がかって見える特徴があります。年1化で成虫は7～9月に見られます。ハンノキを食草とし、山間部の湿地や雑木林で見られます。

●生育環境：雑木林などの二次林に生息します。

●国内の分布：北海道、本州に分布します。

●市内の分布：2000年初頭に三郷で確認されています。

●減少要因：寄主であるハンノキ類が自生する湿性林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 6, 36

コシロシタバ (チョウ目 ヤガ科)
Catocala actaea

安曇野市：情報不足

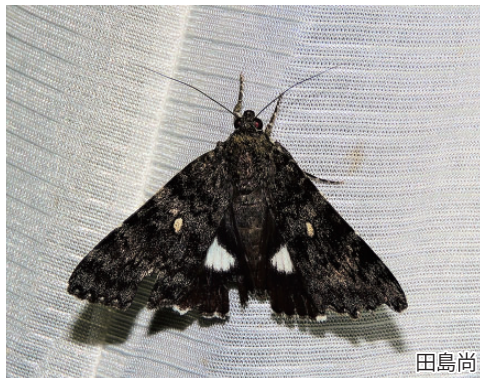
長野県：情報不足

DD

DD

環境省：準絶滅危惧

NT



田島尚

生息環境



▶ 森林



●**特徴**：開長50～60mm。後翅には大きな白紋があり、特徴的な外見から識別は容易です。年1化で成虫は6～10月に見られます。クヌギなどを食草とし、生息地での個体数は多いです。灯火採集では得にくく日中幹に静止する個体を目視で探すほうが見つけやすいです。

●**生育環境**：雑木林などの二次林に生息します。

●**国内の分布**：本州、四国、九州に分布します。

●**市内の分布**：2017年に明科で確認されています。

●**減少要因**：生息地である雑木林や二次林の開発、遷移の進行が考えられます。

参考文献 No. 6, 18, 19



8 その他無脊椎動物



■ レッドリスト改訂の概要（その他無脊椎動物）

カテゴリーに変更があった種はなく、新規追加は3種で、その他無脊椎動物のレッドリスト種は計17種になりました。表3-12にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

新規追加した種は、河畔林や河川敷の草地に生息する種が2種、自然度の高い湧水や湿地に生息する種が1種でした。

全体としては、新規追加種によって絶滅危惧Ⅰ類が増加した結果となりました。

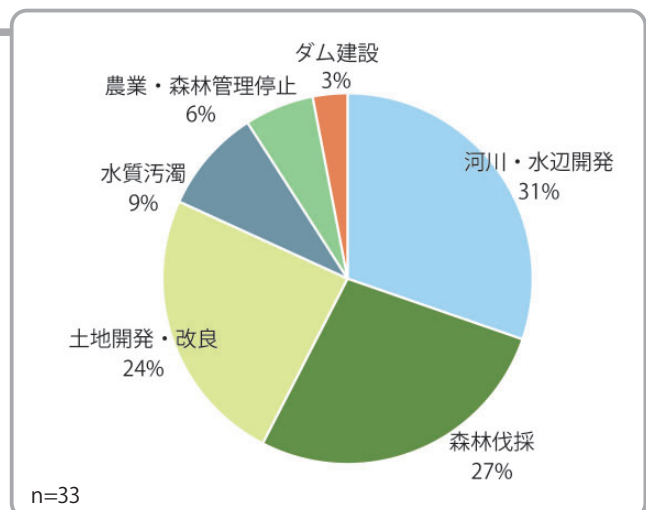
表 3-12 その他無脊椎動物レッドリスト種の概要

カテゴリー	種数		改訂内容
	2014	2024	
絶滅 (EX)	0	0	絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	0	野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	1	3	平野部の河畔林等に生息するカタマメマイマイ、コウフオカモノアラガイを新たに選定しました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	1	1	変更の生じた種はありませんでした。
準絶滅危惧 (NT)	11	11	変更の生じた種はありませんでした。
情報不足 (DD)	1	2	河川・水辺に生息するコシダカヒメモノアラガイを新たに選定しました。

■ 危惧される減少要因

レッドリスト種に選定されたその他無脊椎動物の主な減少要因としては、開発や森林伐採に伴う生息環境の喪失が多くを占めています。

今回の改訂ではカテゴリーの上昇はありませんでしたが、新規追加種は河川敷の草地や湧水といった河川環境に生息する種であるため、河川・水辺開発による生息地の減少が懸念されます。



その他無脊椎動物の減少要因の割合

■ 今回の改訂作業で分かったこと（その他無脊椎動物）

『安曇野市版レッドデータブック 2014』では、陸産貝類を中心に14種が選定されていました。今回の改訂では、文献調査で新たに確認された貝類のうち、環境省または長野県のレッドリストに掲載されている3種（コウフオカモノアラガイ、カタマメマイマイ、コシダカヒメモノアラガイ）を、新規追加種として選定しました。

● 市内で新たに記録された種

コウフオカモノアラガイは、湿った草地に生息する小さな貝類で、穂高で確認されました。全国的にも確認されている都道府県が少なく、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。長野県では初記録となる確認のようであり、『長野県陸産・淡水産貝類誌』（飯島國昭著）に発見の経緯が詳しく掲載されています。

カタマメマイマイも穂高で確認されました。河川敷の草地や林に生息する種で、環境省では絶滅危惧Ⅱ類、長野県では絶滅危惧Ⅰ類に選定されています。

これら2種は、県と環境省のレッドリストのカテゴリーや生息環境の特異さを考慮し、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）としました。

コシダカヒメモノアラガイは、梓川で確認されています。確認地点は松本市ですが、安曇野市と近接していることと、環境を考えると市内にも生息していると想定されることから、情報不足（DD）としました。分類や分布について分からないことが多い貝で、今後の研究が期待されます。

そのほか、市内でこれまで確認がなかった種として、ナガオカモノアラガイ（県RL: CR+EN）の目撃例が寄せられたり、南方系のカタツムリであるコハクオナジマイマイが撮影されたりしています。

貝類をはじめとする無脊椎動物は、十分に調査が進んでいない仲間であることから、今後も未発見の種が見つかるかもしれません。



穂高で確認されたコウフオカモノアラガイ



南方系のコハクオナジマイマイ

新規追加種の解説

新規追加種以外の説明は、2014年版の315～319ページを参照してください。

コウフオカモノアラガイ (マイマイ目 オカモノアラガイ科)

Neosuccinea kofui



飯島國昭

生育環境



▶ 草原
▶ 湿地



▶ 河川

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：

—

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：殻長7～8mm程度の小さな巻貝です。外見は近縁種と酷似しており、正確な同定には解剖が必要です。

●生育環境：水辺の草地や湿地に生息しています。

●国内の分布：本州（中部地方・関東地方）の限られた場所で確認されています。

●市内の分布：高瀬川と穂高川の合流部で確認されています。

●減少要因：開発による、草地や湿地の減少が考えられます。

参考文献 No. 167

カタマメマイマイ (マイマイ目 ナンバンマイマイ科)

Lepidopisum conospira



北野聡

生育環境



▶ 草原
▶ 湿地



▶ 河川

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：殻長5～6mm、殻径6～7mm程度の小さな巻貝です。殻は中心が高く、厚みのある円錐状になります。

●生育環境：山麓部・平野部の草地に生息します。

●国内の分布：本州、四国、九州に分布します。

●市内の分布：穂高川の河川敷などで確認されています。

●減少要因：開発による、草地や湿地の減少が考えられます。

参考文献 No. 167

コシダカヒメモノアラガイ (モノアラガイ目 モノアラガイ科)

Lymnaea truncatula



飯田市美術館

生育環境



▶ 湿地



▶ 河川
▶ 湧水地

安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅰ類

CR+EN

環境省：情報不足

DD

●特徴：殻長10～12mmの小さな巻貝です。自然度の高い場所に生息する在来種と、都市の側溝などで見られる外来種の2種を含んでいると考えられていますが、あまり詳しく分かっていません。

●生育環境：在来種と考えられる個体は、山間の湧水や湿地に生息しています。

●国内の分布：遺伝子から在来種と推定される個体が北海道と宮城県で確認されているほか、青森・富山・長野・岡山県などで在来の可能性が高い個体が確認されています。

●市内の分布：松本市の梓川河川敷で記録があることから、市内にも分布していると考えられます。

●減少要因：開発による、自然度の高い湿地や湧水の減少が考えられます。

参考文献 No. 185

近年の遺伝子解析技術の進歩によって、これまで1種だと思われていた生物に、実は複数の種が含まれると判明することが増えてきました。それらの生物の中には、安曇野市周辺が分布の境界となる種も知られています。レッドリストの改訂にあたって、そのような生物の遺伝子を解析し、市内に生息する種の特定を試みました。その一つとしてヒダサンショウウオ類を紹介します。

●日本の東西で分かれるヒダサンショウウオ類の分布

日本列島の成り立ちはとても複雑であり、生息する生物には、そうした地史の影響を強く受けた種が多く知られています。現在の日本列島の形成に大きく関係しているのが、糸魚川-静岡構造線と中央構造線という、ふたつの大きな断層です。糸魚川-静岡構造線はフォッサマグナと呼ばれる地溝帯の西縁に位置し、日本の東半分と西半分の地質学的な境界となっています。また、中央構造線は主に西南日本を北と南に隔てる境界です。日本の生物には、見た目では区別できなくても、これらの地域を境に遺伝子に違いがみられるものがいます。特に淡水魚、両生類、水生昆虫などで、こうした傾向が顕著です。日本列島が現在の配置となった後も、移動・分散が水のあるところに制限されるため、水系が異なることで、遺伝的にも交流が生じ難く、独立した種が維持されてきたと考えられます。

溪流に生息するヒダサンショウウオ類は、こうした傾向が強くみられる典型的な事例です。近年の研究によって、従来ヒダサンショウウオとされてきた種は、糸魚川-静岡構造線と中央構造線を境に、東側に生息するヒガシヒダサンショウウオと西側に生息するヒダサンショウウオに区別されるようになりました (Okamiya et al. 2018)。糸魚川-静岡構造線が走る安曇野市は、2種の分布の境界に位置します。



本州中部におけるヒダサンショウウオ類の分布 (Okamiya et al. 2018 を元に作成)

●安曇野のヒダサンショウウオ

全国のヒダサンショウウオ類を調べた研究では、松本盆地は2種の分布の空白地帯になっています (Okamiya et al. 2018)。しかし、市内では昔から北アルプス山麓の一部に分布が知られていました。今回、市内のヒダサンショウウオ類の遺伝子を解析し、西側に生息するものと同じヒダサンショウウオであることを確認しました。

生息地が限られることから、安曇野市版レッドリスト2024では準絶滅危惧 (NT) として掲載しました。

(東城幸治)



安曇野市内に生息するヒダサンショウウオ

【引用文献】 Okamiya H, Sugawara H, Nagano M, Poyarkov NA (2018) An integrative taxonomic analysis reveals a new species of lotic *Hynobius* salamander from Japan. PeerJ 6 (6):e5084

(4) 追加種・カテゴリー変更種・除外種とその理由一覧

植物（追加種）

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
イワデンド	ウスヒメワラビモドキ	VU	主に亜高山帯に自生し、県内でも生育数が限られるため。
サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	VU	県内でも生育数が限られるため。
	カミコウチテンナンショウ	CR+EN	県内でも分布、個体数が限られており、園芸採取の危険性も高いため。
	ヒメウキクサ	DD	県内でも生育数が限られるが、市内でほかに自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
ヒルムシロ	エビモ	NT	湧水路などの生育環境が変化しており、減少している可能性が高いため。
ラン	ヤマサギソウ	CR+EN	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	ヤマトキソウ	CR+EN	県内でも生育数が限られるため。
ススキノキ	ユウスゲ	CR+EN	草地性であること、ニホンジカの嗜好植物であることから減少傾向にあると考えられるため。
ガマ	ナガエミクリ	NT	ミクリからの変更。市内に分布しているものが本種であると分かったため。
カヤツリグサ	ホスゲ	DD	県内で標本が採集されていない可能性があり、今後の調査を要するため。
	アズマスゲ	NT	県内における記録が比較的少ないが、標本が採集されていない可能性もあるため。
	ニイタカスゲ	DD	県内で標本が採集されていない可能性があり、今後の調査を要するため。
	ミセンアオスゲ	DD	県内で標本が採集されていない可能性があり、今後の調査を要するため。
	ヒメヒラテンツキ	DD	県内で標本が採集されていない可能性があり、今後の調査を要するため。
	エゾアブラガヤ	CR+EN	県内でも生育地が限られる。湿地性であるため。
イネ	スズメノテッポウ（水田型）	VU	水田型のスズメノテッポウが大きく減少しており、畑地型のノハラスズメノテッポウが増加しているため。
	コウボウ	VU	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	スズメガヤ	CR+EN	県内でも生育地が限られるため。
	スズメノカタビラ	VU	耕作履歴の長い農耕地に自生し、人為的影響が大きい。外来系統のアオスズメノカタビラ、ツクシスズメノカタビラおよびその雑種が増加しており、大きく減少しているため。
	ヒエガエリ	CR+EN	県内でも生育数が限られるため。
	メガルカヤ	CR+EN	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	カニツリグサ（在来）	VU	外来系統のカニツリグサ（ナガボカニツリ）が多く、在来系統は古い草地に残る。市内では生育地が極めて限定されているため。
ケシ	ジロボウエンゴサク	DD	県内では人為的移入されたケースもあり、今後調査を要するため。

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
マメ	カワラケツメイ	VU	生育環境の変化により、市内では限られた場所に自生するため。
	ツルフジバカマ	VU	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	クサフジ	DD	開放的な草地に多く、人為的な影響が大きいこと、外来種ナヨクサフジが増加していることにより、減少率が高いと思われる。今後注目して調査を要するため。
	ヨツバハギ	VU	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	オオバクサフジ	NT	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
カバノキ	チョウセンミネバリ	VU	もともと県内でも個体数が限られると考えられるが、今後調査を要するため。
ニシキギ	オオシラヒゲソウ	NT	シラヒゲソウからの変更。市内でも一定数自生していることが確認された。県内でも多く確認されているが、採取圧等のリスクがあるため。
アカバナ	ウスゲヤナギラン	VU	ニホンジカの嗜好植物であることから、減少傾向にあると考えられるため。
	オオアカバナ	VU	県内でも個体数が限られるため。
タデ	ギシギシ	CR+EN	県内はほぼナガバギシギシ等との雑種であり、市内では生育地が極めて限定されているため。
ナデシコ	ノミノツヅリ (狭義)	VU	外来系統のネバリノミノツヅリが広く分布しており、市内では生育地が極めて限定されているため。
アカネ	ヤエムグラ	DD	人為的な影響が大きい場所に自生し、外来種のシラホシムグラが増加していることにより、減少率が高いと思われる。今後注目して調査を要するため。
リンドウ	ホソバノツルリンドウ	NT	県内でも個体数が限られるため。
オオバコ	アワゴケ	CR+EN	県内でも個体数が限られるため。
	サワトウガラシ	CR+EN	耕作履歴の長い湿田に生育し、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
アゼナ	アゼナ	CR+EN	耕作履歴の長い湿田に生育し、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
ハマウツボ	ケヤマウツボ	VU	県内でも個体数が限られるため。
キク	ヒメヨモギ (在来)	CR+EN	緑化材として持ち込まれた外来系統のヒメヨモギは県内でも多く見られるが、本種は古い草地に生育する。市内では生育地が極めて限定されているため。
	キソアザミ	DD	他種との雑種が多く、市内では生育地が極めて限定されている。標本を含めて今後調査を要するため。
	ヤチアザミ	CR+EN	明るく湿った環境に生育し、市内では生育地が極めて限定されているため。

動物（追加種）

■哺乳類

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	NT	まとまった生息地が少ないため。
ヒナコウモリ	ヒナコウモリ	DD	市内での生息が確認されたが、生息実態が不明であるため。
	ユビナガコウモリ	NT	市内での生息が確認されたため。
	モリアブラコウモリ	DD	近隣地域で捕獲例があり、市内にも分布すると予想されるが現状不明のため。
	クロホオヒゲコウモリ	CR+EN	市内での生息が確認されているが、減少が示唆されるため。

■鳥類

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
サギ	コサギ	VU	個体数が減少しているため。
ブッポウソウ	ブッポウソウ	CR+EN	市内での生息が確認され、繁殖している可能性があるため。
モズ	チゴモズ	DD	市内で繁殖例があり、今後の動向に注意が必要であるため。

■爬虫類

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
タカチホヘビ	タカチホヘビ	DD	市内での生息が確認されたが、生息実態が不明であるため。

■両生類

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
アオガエル	モリアオガエル	DD	市内での生息が確認されたが、周辺地域を含めた分布状況がよく分かっていないため。

■昆虫類

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
ヤンマ	マルタンヤンマ	VU	県内では多くない種であり、市内での生息が確認されたため。
	マダラヤンマ	VU	市内で少数の記録がある種であり、県内での減少傾向が顕著であるため。
トンボ	マイコアカネ	VU	市内での近年の記録がないため。
	ヒメアカネ	NT	市内では近年減少傾向にあると考えられるため。
	キトンボ	DD	市内での確認場所が限定的であり、環境の変化次第で減少する可能性があるが、分布について十分把握できていないため情報不足とする。
ヒバリモドキ	キアシヒバリモドキ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
バッタ	マダラバッタ	DD	県内での記録が安曇野市に限られる。記録が少ないため、情報不足とする。
カスミカメムシ	ハヤシオオカスミカメ	VU	県内では多くない種であり、市内での生息が確認されたため。
オサムシ	キノコゴミムシ	NT	県内では多くない種であり、市内での生息が確認されたため。
	ダイミョウアトキリゴミムシ	NT	県内では多くない種であり、市内での近年の記録がないため。
	クロズジュウジアトキリゴミムシ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
ゲンゴロウ	オオヒメゲンゴロウ	NT	市内は多いが、他地域では少なく、環境の変化次第で減少する可能性があるため。
	マルガタゲンゴロウ	VU	中信では少ない種であり、市内での生息が確認されたため。
ハネカクシ	カバイロヒラタシデムシ	NT	他のシデムシ類と同様に個体が減少している可能性があるため。
	ベッコウヒラタシデムシ	NT	近年減少傾向にあると考えられるため。
コガネムシ	コカブトムシ	NT	県内では多くない種であり、市内での記録も少ないため。
タマムシ	ズミチビタマムシ	NT	県内では多くない種であり、市内での記録も少ないため。
コメツキムシ	ミヤジマコガネコメツキ	NT	生息地であるアカマツ林で、マツ枯れに伴う伐採が進行しているため。
ジョウカイボン	シマシマクビボソジョウカイ	CR+EN	市内に分布し、全国的にも限られた分布を示す種であるため。
	トウカイクビボソジョウカイ	VU	市内に分布し、全国的にも少ない種であるため。
	サドクビボシジョウカイ	NT	県内では多くない種であり、市内での生息が確認されたため。
テントウムシ	アイヌテントウ	NT	生息環境が河川敷の草地に限られているため。
	クリサキテントウ	DD	生息地であるアカマツ林ではマツ枯れに伴う伐採が進行しているが、生息の実態が把握されていないため。
カミキリムシ	ミセンヒメハナカミキリ	DD	極めて限られた地域に生息する種である。市内での生息が確認されたが、生息実態が不明であるため。

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
カミキリムシ	ホンドヒメシラオビカミキリ	NT	生息地であるアカマツ林で、マツ枯れに伴う伐採が進行しているため。
ハムシ	ヨツボシアカツツハムシ	NT	生息環境が河川敷の草地に限られているため。
ギングチバチ	ニッポンハナダカバチ	VU	生息環境である河川の砂礫地が衰退しているため。
ミツバチ	ナミルリモンハナバチ	DD	生息情報が少なく、個体数が少ない可能性があるため。
マダラガ	ルリハダホソクロバ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
セセリチョウ	ホソバセセリ	DD	近年、市内での分布が確認されたが、自然分布かどうかを含め動向を追う必要があるため。
	コキマダラセセリ	VU	市内での分布がごく一部に限られているため。
シジミチョウ	ウラキンシジミ	NT	近年における市内の記録がなく、減少していると考えられるため。
	ハヤシミドリシジミ	NT	生息環境がカシワ林に限定されており、数が少ないため。
	カラスシジミ	NT	近年における市内の記録がなく、減少していると考えられるため。
	ヒメシジミ	NT	減少傾向にあるため。
タテハチョウ	コヒョウモン	NT	山地帯の記録が激減しているため。
	ギンボシヒョウモン	NT	近年における市内の記録が少なく、減少していると考えられるため。
	オオムラサキ	NT	市内では比較的安定していたが、近年の減少傾向が見られるため。
カギバガ	チョウセントガリバ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
シャクガ	フチグロシロヒメシャク	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	トビスジャエナミシャク	NT	県内では多くない種であり、市内では近年減少している可能性があるため。
	ムツテンナミシャク	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	タケウチエダシャク	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
シャチホコガ	ギンボシシャチホコ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
ドクガ	スゲドクガ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
コブガ	ヒラノコブガ	VU	現在知られている産地は全国的にも非常に限られており、その希少性が高いため。
	ミカボコブガ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
ヤガ	ニセタバコガ	VU	生息地の草地環境の変化が進んでおり、減少が危惧されるため。
	オオクロバヤガ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	ホシヒメセダカモクメ	NT	県内では多くない種であり、市内では近年減少している可能性があるため。

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
ヤガ	ミスジキリガ	NT	県内では多くない種であり、市内では近年減少している可能性があるため。
	ムラサキハガタヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	ショウブオオヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	ヒメトガリヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	オオチャバネヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	キスジウスキヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	クマソオオヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	フタホシヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	トガリヨトウ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	ミヤマキシタバ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。
	コシロシタバ	DD	市内で生息が確認されており、その生息数は少ないと予想されるが、評価できる情報が不足しているため。

■その他無脊椎動物

科名	種名	カテゴリー	追加の理由
モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	DD	市内での生息記録があるが、近縁種との種同定に精査が必要なため。
オカモノアラガイ	コウフオカモノアラガイ	CR+EN	市内での生息が確認されたが、生息数が少ないと予想されるため。
ナンバンマイマイ	カタマメマイマイ	CR+EN	市内での生息が確認されたが、生息数が少ないと予想されるため。

植物（変更・除外種）

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ	NT	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	アカハナワラビ	VU	NT	調査の結果、近年増加傾向にあることが確認されたため。
コケシノブ	コウヤコケシノブ	NT	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
サンショウモ	オオアカウキクサ	VU	CR+EN	以前確認されていた自生地から消失しており、確実な自生地が不明であるため。
オシダ	アズミイノデ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
イヌガヤ	イヌガヤ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
ウマノスズクサ	ミヤマアオイ	CR+EN	除外	市内には自生していない可能性が高いため。
ショウブ	ショウブ	NT	DD	人為的植栽の可能性があるので、情報不足とする。
サトイモ	ヒロハテンナンショウ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ムラサキコウキクサ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	ヒメザゼンソウ	CR+EN	NT	調査の結果、西山の山地帯で一定数自生していることが確認されたため。
	ザゼンソウ	CR+EN	VU	市内の生育環境は減少傾向にあるが、県内で多く確認されているため。
オモダカ	ヘラオモダカ	VU	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	アギナシ	NT	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	オモダカ	NT	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
トチカガミ	クロモ	VU	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。
ヒルムシロ	イトモ	VU	CR+EN	生育環境が減少しており、近年確認されていないため。
	コバノヒルムシロ	CR+EN	DD	標本調査でも存在を確認できず、ホソバミズヒキモの浮葉を有する型である可能性があり、今後調査を要するため。
	ホソバミズヒキモ	NT	CR+EN	今回の調査で以前確認されていた自生地を確認できず、確実な自生地が不明であるため。
	ナガレミズヒキモ	CR+EN	除外	標本調査において過去の標本はホソバミズヒキモであった。現時点ではホソバミズヒキモに統合することが妥当と考えられるため。
	ヤナギモ	NT	VU	湧水路などの生育環境が悪化しており、減少している可能性が高いため。
イヌサフラン	ホウチャクソウ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
ラン	ギンラン	CR+EN	NT	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ラン	イチヨウラン	NT	VU	亜高山帯に生育するが、採取圧の可能性が高いため。
	ノヤマトンボ (2014 版：オオバトンボソウ)	EX	CR+EN	三郷の山麓部の森林で確認されたため。
アヤメ	ノハナショウブ	NT	CR+EN	湿地性であり、市内では生育地が極めて限定されているため。
キジカクシ	クサスギカズラ	DD	除外	市内には分布していないと考えられるため。
	ヒメヤブラン	CR+EN	DD	誤同定が多い種であり、市内では生育地が極めて限定されているため。
	ワニグチソウ	NT	DD	標本調査の結果、コウライワニグチソウ（ヒメイズイ×ワニグチソウ）が確認された。自生について今後調査を要するため。
	コワニグチソウ	NT	DD	ワニグチソウとともに今後調査を要するため。
ガマ	ミクリ	NT	除外	ナガエミクリの誤同定。ナガエミクリ（NT）に変更のため除外。
カヤツリグサ	コジュズスゲ	VU	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	シラコスゲ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	オオカワズスゲ	VU	NT	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	ヒナガヤツリ	CR+EN	VU	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	ヌマガヤツリ	NT	CR+EN	県内でも生育数が限られる。湿地性であり、市内では生育地が極めて限定されているため。
	アオガヤツリ	CR+EN	NT	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	イガガヤツリ	CR+EN	除外	西日本からの移入と考えられるため。
	ヒンジガヤツリ	EX	CR+EN	穂高の平野部の湿田で確認されたため。
イネ	オガルカヤ	NT	CR+EN	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	ドジョウツナギ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	ヒロハノドジョウツナギ	NT	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	エゾノサヤヌカグサ	EX	CR+EN	穂高の水田で確認されたため。
	ヌメリグサ	CR+EN	DD	ハイヌメリグサは県内に自生しており、ハイヌメリグサと誤同定している可能性がある。現在はハイヌメリグサと分けないとの見解もあり、分類学上の課題もあるため情報不足とする。
ケシ	フウロケマン	CR+EN	除外	市内には分布していないと考えられるため。
ツヅラフジ	コウモリカズラ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
メギ	メギ	NT	除外	調査の結果、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	キバナイカリソウ	EX	DD	分布について、標本を含めて今後調査を要するため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
キンポウゲ	キクザキイチゲ	VU	NT	県内では多く確認されており、市内でも一定数自生していることが確認されたため。
	センニンソウ	VU	NT	県内では多く確認されており、市内でも一定数自生していることが確認されたため。
	オウレン	CR+EN	除外	市内に自生しているのはウスギオウレンであり、一定数自生しているため。
	バイカオウレン	DD	除外	市内で一定数自生していることが確認されたため。
マンサク	マルバマンサク	EX	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
ユズリハ	エゾユズリハ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
スグリ	ヤブサンザシ	VU	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	スグリ	CR+EN	DD	以前、確認されていた自生地が消失し、現在は確認されていないため。
ユキノシタ	ボタンネコノメソウ	CR+EN	VU	今回の調査で一定数自生していることが確認されたため。市内のものは品種キンシベボタンネコノメと思われる。
ベンケイソウ	ホソバノキリンソウ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	マルバマンネングサ	VU	DD	今回の調査では確認されなかった。コモチマンネングサとの誤同定が多く、今後調査を要するため。
アリノトウグサ	ホザキノフサモ	NT	CR+EN	生育環境の変化により減少していると考えられ、市内では生育地が極めて限定されているため。
マメ	モメンヅル	VU	CR+EN	生育環境の変化により減少していると考えられ、市内では生育地が極めて限定されているため。
	フジカンゾウ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	ヤハズソウ	VU	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	イヌハギ	NT	VU	生育環境の変化により減少していると考えられ、市内では生育地が極めて限定されているため。
	ミヤコグサ	NT	CR+EN	生育環境の変化により減少していると考えられ、市内では生育地が極めて限定されているため。
バラ	ヒメキンミズヒキ	VU	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	オクチョウジザクラ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	カシオザクラ	CR+EN	DD	伐採され、現在は生育が確認されていないため。
	ノウゴウイチゴ	EX	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	サナギイチゴ	VU	DD	県内では一定数確認されており、市内での調査を要するため。
クロウメモドキ	クマヤナギ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
イラクサ	ホソバイラクサ	VU	除外	市内では分布していない可能性が高いため。
	コバノイラクサ	NT	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ブナ	イヌブナ	VU	NT	市内では明科でのみ確認されているが、県内では多く確認されているため。
ウリ	アマチャヅル	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	スズメウリ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
ニシキギ	ヒロハノツリバナ (2014 版：ヒロハツリバナ)	VU	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	オオツリバナ	VU	DD	分類学上の見解が統一されておらず、標本を含めて今後の調査を要するため。
	シラヒゲソウ	EX	除外	オオシラヒゲソウの誤同定のため除外。オオシラヒゲソウ (NT) に変更のため除外。
トウダイグサ	ノウルシ	CR+EN	除外	市内には分布しないと考えられるため。
ヤナギ	シロヤナギ	CR+EN	DD	分類学上の見解が統一されておらず、標本を含めて今後の調査を要するため。
	オオタチヤナギ	EX	VU	市内各地の平野部の河川敷で自生が確認されたため。
スマレ	オオタチツボスマレ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえ、周辺地域での確認も多いため。
	アイヌタチツボスマレ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
アマ	マツバニンジン	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
オトギリソウ	タコアシオトギリ	NT	DD	標本調査では、一部はオトギリソウと同定された。本種は雑種であるとの見解もあり、今後改めて検討を要するため。
	シナノヤマオトギリ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	コケオトギリ	VU	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	オオシナノオトギリ	EX	DD	分類学上の見解が統一されておらず、標本を含めて今後の調査を要するため。
	ミズオトギリ	NT	VU	安定した湿地に生育し、生育環境が減少しているため。
ミソハギ	ヒシ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
ムクロジ	ミツデカエデ	VU	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	オオイタヤメイゲツ	VU	NT	市内で一定数自生していることが確認されたため。
ムクロジ	ヒナウチワカエデ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
ミカン	キハダ	VU	DD	市内で一定数自生していると考えられるが、今後の調査を要するため。
アオイ	カラスノゴマ	NT	VU	土地改良等により生育環境が変化し、減少傾向にあると考えられるため。市内では生育地が極めて限定されている。
アブラナ	マルバコンロンソウ	VU	NT	市内で一定数自生していることが確認されたため。
	キバナハタザオ	NT	VU	ニホンジカの嗜好植物であることから、減少傾向にあると考えられるため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
タデ	ノダイオウ	VU	CR+EN	県内でも個体数が限られており、減少しているため。
	マダイオウ	CR+EN	除外	市内には分布しないと考えられるため。
モウセンゴケ	モウセンゴケ	EX	CR+EN	穂高の亜高山帯に生育していることが確認されたため。
ナデシコ	ワチガイソウ	CR+EN	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	ヒゲネワチガイソウ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	フシグロセンノウ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
ツツジ	バイカツツジ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
リンドウ	ハナイカリ	NT	VU	ニホンジカの嗜好植物であることから、減少傾向にあると考えられるため。
キョウチクトウ	スズサイコ	NT	VU	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
ムラサキ	オニルリソウ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	タチカメバソウ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
オオバコ	ヒヨクソウ	NT	CR+EN	ニホンジカに喫食されており、減少傾向にあると考えられるため。
アゼナ	ウリクサ	CR+EN	DD	もともと市内に分布していない可能性があり、標本も含め調査を要するため。
シソ	ツルカコソウ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	ニシキゴロモ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ジャコウソウ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	セキヤノアキチョウジ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	クロバナヒキオコシ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	タイリンヤマハッカ	VU	除外	もともと市内には分布しないと考えられるため。
	カメバヒキオコシ	VU	除外	市内に分布するのはハクサンカメバヒキオコシである。県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	テンニンソウ	VU	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ヤマジソ	EX	DD	市内に自生している可能性があり、標本も含め調査を要するため。
	ミゾコウジュ	CR+EN	除外	偶産の可能性が高いため。
キツネノマゴ	ハグロソウ	VU	CR+EN	生育地が植林地であり、人為的影響が大きい。県内でも個体数が限られており、市内では生育地が極めて限定されているため。
クマツヅラ	クマツヅラ	CR+EN	除外	外来種ホソクマツヅラであることが判明したため。
キキョウ	フクシマシャジン	VU	CR+EN	県内でも個体数が限られており、市内では生育地が極めて限定されているため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
キキョウ	サワギキョウ	NT	VU	湿地性であり、市内では生育地が極めて限定されているため。
	キキョウ	VU	CR+EN	草地性であり、人為的影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
ミツガシワ	アサザ	EX	DD	市内で自生している可能性があり、さらなる調査を要するため。
キク	ミヤマヨメナ	CR+EN	除外	もともと市内には分布せず、ミヤコフスレと誤同定の可能性、もしくは人為的移入の可能性が高いため。
	カントウヨメナ	CR+EN	DD	カントウヨメナではなく、同属内での交雑に由来するものを本種と認識している可能性があり、今後の調査を要するため。
	キクタニギク	NT	除外	もともと市内には分布しないと考えられる。人為的移入の可能性が高いため。
	サワアザミ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ヤナギタンポポ	NT	CR+EN	草地性であり、人為的影響およびニホンジカの影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
	モミジガサ	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	キクアザミ	EX	CR+EN	明科の山地帯の草地で生育していることが確認されたため。
	ヤブレガサ	VU	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ウスギタンポポ	CR+EN	DD	今回の調査で以前確認されていた自生地で確認できず、確実な自生地が不明であるため。
	オナモミ	VU	DD	他種との混同の可能性を含んでおり、標本を含めて今後調査を要するため。
スイカズラ	マツムシソウ	VU	CR+EN	草地性であり、人為的影響およびニホンジカの影響が大きい。市内では生育地が極めて限定されているため。
ウコギ	トチバニンジン	VU	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
セリ	ノダケ	NT	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	シャク	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	セントウソウ	CR+EN	DD	もともと市内の分布は少ないと考えられ、標本を含めて今後調査を要するため。
	セリモドキ	CR+EN	除外	県内では多く確認されており、市内で一定数自生していることが確認されたため。
	オオハナウド	CR+EN	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ハナウド	NT	DD	豊科で人為的移入による生育地が確認された。市内の分布について標本を含めて今後調査を要するため。
	イワセントウソウ	NT	除外	市内において減少傾向にあるとはいえず、周辺地域での確認も多いため。
	ムカゴニンジン	VU	CR+EN	湿地性であり、市内では生育地が極めて限定されているため。

動物（変更・除外種）

■哺乳類

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	NT	CR+EN	市内のねぐらの数が減少しているため。
	ヒメホオヒゲコウモリ (2014 版：シナノホオヒゲコウモリ)	DD	NT	山地に広く分布しているため。
	テングコウモリ (2014 版：ニホンテングコウモリ)	DD	CR+EN	生息地の減少が確認されたため。

■鳥類

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
サギ	ササゴイ	VU	CR+EN	個体数が減少しているため。
タカ	ハイタカ	NT	VU	営巣環境が減少している可能性があるため。
フクロウ	コノハズク	DD	CR+EN	調査の結果、個体数が少ないことが明らかになったため。
	アオバズク	DD	CR+EN	調査の結果、個体数が少ないことが明らかになったため。
カワセミ	ヤマセミ	VU	CR+EN	個体数が減少しているため。
サンショウクイ	サンショウクイ	NT	除外	市内の山地には普通に生息し、全国的にも個体数が回復しているため。

■両生類

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
アカガエル	トウキョウダルマガエル	NT	VU	トノサマガエルとの交雑が進行しているため。

■魚類

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種※	(NT)	NT	近年の分類に従い、従来のスナヤツメを 2 種に分けて掲載したため。
	スナヤツメ南方種※	(NT)	NT	近年の分類に従い、従来のスナヤツメを 2 種に分けて掲載したため。

※ 2014 年版では「スナヤツメ」として掲載

■昆虫

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
ガガンボカゲロウ	ガガンボカゲロウ	DD	除外	記録が限定的で誤同定の可能性があるため。
サナエトンボ	アオサナエ	VU	NT	市内での確認例が増加しているため。
ヤンマ	カトリヤンマ	VU	CR+EN	近年の記録がないため。
エゾトンボ	トラフトンボ	CR+EN	DD	オオトラフトンボとの誤同定が考えられるため。
トンボ	ハッチョウトンボ	CR+EN	EX	市内唯一の生息地における記録が 30 年以上ないため。
カマドウマ	ヒラタクチキウマ	DD	除外	確実な記録が確認できないため。
バッタ	タカネヒナバッタ	NT	除外	周辺市町村を含め確認例が多いため。
	ハネナガイナゴ	NT	VU	近年の記録がないため。
トビナナフシ	シラキトビナナフシ	NT	除外	周辺市町村を含め確認例が増えているため。
コオイムシ	コオイムシ	NT	除外	どこの水域でも普通に見られ個体数も多いため。
	オオコオイムシ	NT	除外	確実な記録が確認できないため。
クヌギカメムシ	ヨツモンカメムシ	NT	除外	個体数が多く、減少が見られないため。
オサムシ	ミヤマハンミョウ	NT	除外	個体数が多く、減少が見られないため。
オサムシ	チビアオゴミムシ	VU	CR+EN	長野県での記録は明科での一例のみであり、個体数が少ないことが推測されるため。
ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ	NT	VU	1990 年代は多かったが、現在ではほとんど見られないため。
	クロゲンゴロウ	CR+EN	VU	県北部・南部では比較的多い種であり、安曇野地域でも複数年確認されているため。
	ゲンゴロウ	NT	VU	減少傾向が著しいため。
ミズスマシ	オオミズスマシ	NT	VU	減少傾向が著しいため。
ガムシ	シジミガムシ	VU	DD	市内の記録が近縁種との誤同定の可能性があるため。
	ガムシ	NT	除外	近年は増加傾向に転じており多く見られるため。
オオキスイムシ	ミドリオオキスイ	NT	除外	個体数が多く、減少が見られないため。
カミキリムシ	ケブカマルクビカミキリ	NT	VU	マツ枯れに伴いホストのネズミサシと一緒に伐採され減少が著しいため。
	シナノエゾハイイロハナカミキリ	VU	CR+EN	市内では、近年全く確認されていないため。
	オニホソコバネカミキリ	NT	VU	分布が極めて局所的であるため。
	トラフカミキリ	NT	VU	減少傾向が著しいため。
	ムモンベニカミキリ	NT	CR+EN	近年、全く確認されていないため。
マダラガ	ベニモンマダラ	NT	VU	市内全域でほとんど見られなくなっているため。
セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	CR+EN	EX	市内における記録が 50 年以上ないため。
	アカセセリ	VU	CR+EN	市内ではほとんど見られないため。

科名	種名	カテゴリー		カテゴリー変更・除外の理由
		2014 版	2024 版	
セセリチョウ	キマダラセセリ	VU	NT	やや増加傾向が認められ、新たな生息域も確認されているため。
シジミチョウ	オオゴマシジミ	VU	CR+EN	確認数が減少しているため。
	ミヤマシジミ	NT	VU	減少傾向が著しいため。
	アサマシジミ中部低地帯亜種	CR+EN	EX	アサマシジミの2亜種を区別し、それぞれ別のカテゴリーに分けた。中部低地帯亜種については、市内における記録が50年以上ないため。
タテハチョウ	ヒョウモンチョウ	VU	CR+EN	減少傾向が著しいため。
	フタスジチョウ	VU	CR+EN	近年の記録がないため。
	コヒオドシ	NT	VU	減少傾向が著しいため。
	オオヒカゲ	VU	CR+EN	減少傾向が著しいため。
	キマダラモドキ	VU	CR+EN	減少傾向が著しいため。
カレハガ	ヒロバカレハ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。
ドクガ	ウスジロドクガ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。
ヒトリガ	ゴマベニシタヒトリ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。
	ヒメキシタヒトリ	NT	DD	亜高山帯に生息しており、情報が不足しているため。
ヤガ	マダラムラサキヨトウ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。
	ヘリグロヒメヨトウ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。
	ハイマダラクチバ	CR+EN	EX	市内における記録が50年以上ないため。

両生類の中には、安曇野市付近が分布の境界となっているような生物が知られています（コラム3 p.138参照）。池沼や水田などの身近な環境にも生息しているツチガエル類もその一つです。近年の研究によって、ツチガエルとされていたものが「ツチガエル」と「ムカシツチガエル」の2種に分けられており、安曇野市はその境界付近に位置しています。

●分類の研究が進むツチガエル類

かつて、ツチガエルは日本やその周辺の島々、朝鮮半島やロシア南部まで広く分布するとされていました。しかし遺伝子の研究が進み、大陸のものはチョウセンツチガエル、佐渡島のはサドガエルという別種として区別されるなど、分類の見直しが進んできました。近年の研究により、関東甲信地域や東北地方の一部に分布するツチガエルも、その他の地域のものとは遺伝的に大きく分化しているとして、新種ムカシツチガエルとして記載されました（Shimada et al. 2022）。ツチガエルとムカシツチガエルの見分けは難しく、オタマジャクシの腹の模様には違いがあるとされていますが、確実な同定には遺伝子解析が必要です。安曇野市が位置する松本盆地では、ツチガエルとムカシツチガエルの両種が確認され、分布域の境界となっています。



本州中部におけるツチガエル類の分布
(shimada et al. 2022 を元に作成)

●安曇野市内でも見つけた新種ムカシツチガエル

安曇野市近隣の大町市ではツチガエル、松本市や塩尻市ではムカシツチガエルの遺伝子をもった個体が見つっています（Shimada et al. 2022）。しかし、安曇野市内に生息するのがどちらの種なのか、または両種が生息するのかといったことは分かっていませんでした。レッドリストの改訂にあたり、明科の水田で捕獲したツチガエル類の遺伝子を解析したところ、ムカシツチガエルのものであることが分かりました。安曇野市には少なくともムカシツチガエルは生息しているようです。市内のツチガエル類がこの1種だけなのか、もう一方の種も生息しているのかは今後の調査・研究が待たれます。そのため、安曇野市版レッドリスト2024では両種をまとめてツチガエル類（絶滅危惧Ⅱ類：VU）として扱っています。

（東城幸治）



明科で見つかったムカシツチガエル

【引用文献】 Shimada T, Matsui M, Ogata M, Miura I, Tange M, Min M, Eto K (2022) Genetic and morphological variation analyses of *Glandirana rugosa* with description of a new species (Anura, Ranidae) . Zootaxa 5174:25–45